参考資料２

令和２年度秋田県がん患者等就労実態調査報告書

令和２年１１月

秋田県がん診療連携協議会

がん患者相談部会

目　　次

Ⅰ　調査について
1　目的……1
2　実施主体……1
3　調査方法……1
（1）対象……1
（2）配布・回収・集計……2
（3）分析……2
（4）調査項目……2
（5）調査期間……2
（6）結果の公表……2
4　回収結果……2
5　前回調査との変更点……3
（1）患者用アンケート……3
（2）法人用アンケート……3
（3）医師用アンケート……3

Ⅱ　調査結果
（1）患者用アンケート……4
（2）法人用アンケート……２１
（3）医師用アンケート……３３

Ⅲ　調査票
1　令和２年度
（1）患者調査票……４３
（2）法人調査票……４５
（3）医師調査票……４７

2　平成２７年度
（1）患者調査票……４８
（2）法人調査票……５０
（3）医師調査票……５２

Ⅰ　調査について

１　目的

本県において、毎年１万人を超える県民ががんに罹患する中で、がん患者等の就労支援や治療と仕事の両立ができる環境づくりが求められている。こうした課題に適切に対応するため、県内の患者、医師、法人が今、何を求めているかを調査し、結果については、実態に沿った相談支援・施策・事業に活用するとともに、第３期秋田県がん対策推進計画の中間評価及び見直しに反映する。

２　実施主体

秋田県がん診療連携協議会がん患者相談部会（県内がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター、秋田県健康福祉部健康づくり推進課）、秋田労働局、秋田産業保健総合支援センター

３　調査方法

（１）対象

①患者用アンケート

・秋田県内のがん診療連携拠点病院等に外来受診するがん患者及びがん相談支援センターを利用する１８歳以上８０歳未満のがん患者９００人

②法人用アンケート

・事業所母集団データベースの平成３０年次フレームの中から、産業分類、常用雇用者規模（５人以上）、地域割合を勘案して抽出した秋田県内５００事業所

・産業分類

Ａ 農業、林業
Ｂ 漁業
Ｃ 鉱業、採石業、砂利採取業
Ｄ 建設業
Ｅ 製造業
Ｆ 電気・ガス・熱供給・水道業
Ｇ 情報通信業
Ｈ 運輸業、郵便業
Ｉ 卸売業、小売業
Ｊ 金融業、保険業
Ｋ 不動産業、物品賃貸業
Ｌ 学術研究、専門技術サービス業
Ｍ 宿泊業、飲食サービス業
Ｎ 生活関連サービス業、娯楽業
Ｏ 教育、学習支援業
Ｐ 医療、福祉
Ｑ 複合サービス事業
Ｒ サービス業（他に分類されないもの）
Ｓ 公務（他に分類されるものを除く）

・抽出方法

秋田県健康福祉部健康づくり推進課において抽出

③医師用アンケート

・秋田県のがん診療連携拠点病院等で常勤として勤務しており、がん診療に携わる医師７６８人

（２）配布・回収・集計

①患者用アンケート

がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターが、病院に来院したがん患者に自記式質問紙を配布し、院内に設置する回収箱で回収後、がん相談支援センター相談員が集計した。

②法人用アンケート

秋田県健康福祉部健康づくり推進課が、対象法人に自記式質問紙を郵送し、郵送により回収後、集計した。

③医師用アンケート

がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターが、対象医師に自記式質問紙を配布し、回収後、がん相談支援センター相談員が集計した。

（３）分析

秋田県健康福祉部健康づくり推進課が行った。

（４）調査項目

別紙調査票による

（５）調査期間

令和２年７月１日（水）から令和２年８月２８日（金）まで

（６）結果の公表

秋田県がん診療連携協議会及び秋田県ウェブサイト美の国あきたネットで公表する。

４　回収結果

	配布数（件）	回収数（件）	有効回答数（件）	回収率（%）	有効回答率（%）
患者用	900	622	622	69.1	100.0
法人用	500	266	266	53.2	100.0
医師用	768	464	464	60.4	100.0

５　前回調査との変更点

（１）患者用アンケート

・前回調査と今回調査の変更箇所は、次のとおりである。

令和２年度	平成２７年度
問５	問１０
問６	問１２
問７　　回答項目合併、回答項目変更	問１５、問１５－①
問８	問１５－④
問９	問１５－②
問１０　回答内容変更	問１３
問１１	問１６
問２０	問１５－⑤
問２１　回答項目変更	問１８
問２２　回答項目変更	問１８－①
問２３	問１８－②
問２８	問１９
問２９	問２０
問３０　質問事項変更	問２１
問３、１２、１３、１４、１５、１６、１７、１８、１９、２４、２５、２６、２７ 新規	

（２）法人用アンケート

・問１３「０２がん相談支援センターの数」について、前回調査時点では「１１か所」であったが、今回調査時点では「１２か所」であるため変更し、調査を実施した。

（３）医師用アンケート

・問３、問５について、問２で相談を受けたことがある場合のみ回答する項目のため、平成２７年度調査の集計を精査し、問３の「０２しなかった」の回答数を５４から５３に修正、問５の「０２ない」の回答数を９１から９０に修正し比較分析した。

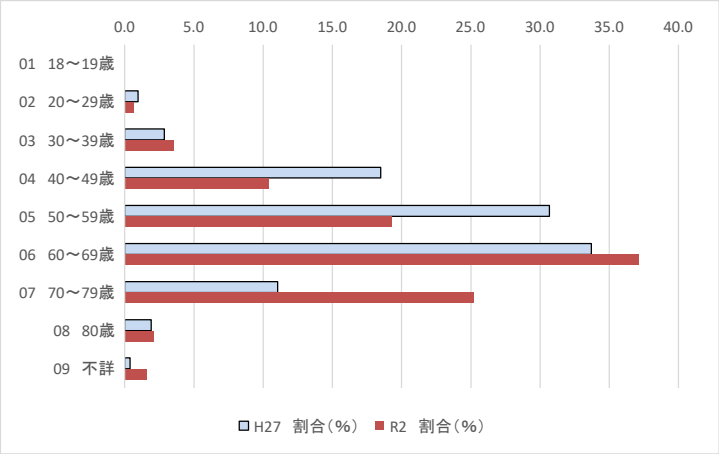
・問４－①、②について、複数回答される項目であるが、平成２７年度調査では、複数回答された回答者分が「無効・無回答」で集計されていたため、今回調査では、再集計した上で比較分析をした。

Ⅱ　調査結果

１患者用アンケート

Ⅰ　あなた自身について伺います。
問1　あなたの現在の年齢を教えてください。

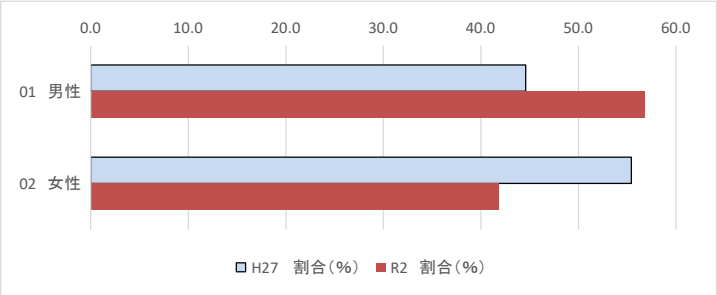
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　18～19歳	0	0.0	0	0.0
02　20～29歳	5	1.0	4	0.6
03　30～39歳	15	2.9	22	3.5
04　40～49歳	97	18.5	65	10.5
05　50～59歳	161	30.7	120	19.3
06　60～69歳	177	33.7	231	37.1
07　70～79歳	58	11.0	157	25.2
08　80歳	10	1.9	13	2.1
09　不詳	2	0.4	10	1.6
総計	525	100.0	622	100



最も多い年代は、60歳代（37．1%）、次いで70歳代（25．2%）、50歳代（19．3%）であった。
前回調査と比較して、70歳代が14．2ポイント、60歳代が3．4ポイント上昇し、50歳代が11．4ポイント、40歳代が8．0ポイント減少した。

問2　あなたの性別を教えてください。

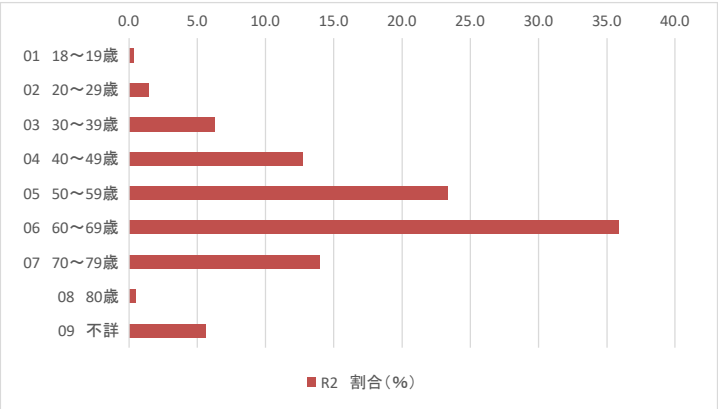
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　男性	234	44.6	353	56.8
02　女性	291	55.4	260	41.8
03　無効・無回答	0	0.0	9	1.4
総計	525	100.0	622	100.0



回答者の性別は、男性が56．8%、女性が41．8%であった。
前回調査と比較して、男性が12．2ポイント上昇し、女性が13．6ポイント減少した。

Ⅱ　あなたががんと診断された時の状況について伺います。
問3　当時のあなたの年齢を教えてください。

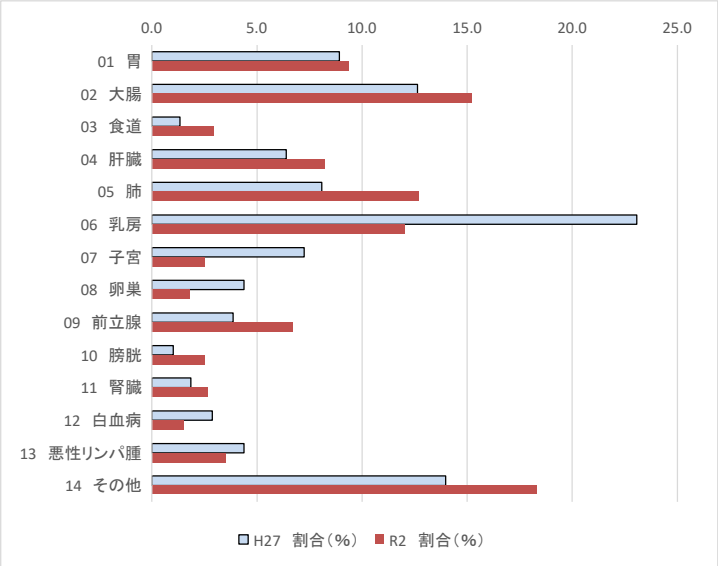
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　18～19歳			2	0.3
02　20～29歳			9	1.4
03　30～39歳			39	6.3
04　40～49歳			79	12.7
05　50～59歳			145	23.3
06　60～69歳			223	35.9
07　70～79歳			87	14.0
08　80歳			3	0.5
09　不詳			35	5.6
総計			622	100.0



がんと診断された当時の年齢は、60歳代（35．9%）、50歳代（23．3%）、70歳代（14．0%）であった。

問4　がんの部位・種類について、あてはまるもの全てに〇をつけてください。

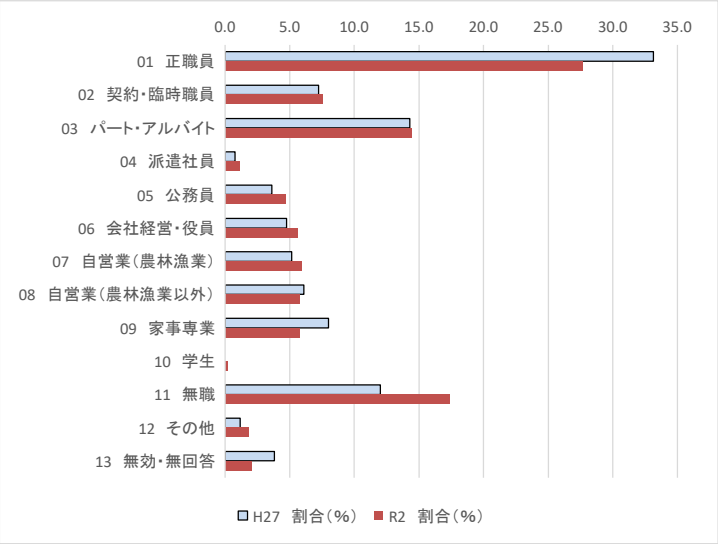
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　胃	53	8.9	67	9.4
02　大腸	75	12.6	109	15.2
03　食道	8	1.3	21	2.9
04　肝臓	38	6.4	59	8.2
05　肺	48	8.1	91	12.7
06　乳房	137	23.1	86	12.0
07　子宮	43	7.2	18	2.5
08　卵巣	26	4.4	13	1.8
09　前立腺	23	3.9	48	6.7
10　膀胱	6	1.0	18	2.5
11　腎臓	11	1.9	19	2.7
12　白血病	17	2.9	11	1.5
13　悪性リンパ腫	26	4.4	25	3.5
14　その他	83	14.0	131	18.3
総計	594	100	716	100.0



がんの部位・種類については、大腸が15．2%、肺が12．7%、乳房が12．0%であった。
前回調査と比較して、肺が4．6ポイント、大腸が2．6ポイント上昇し、乳房が11．1ポイント子宮が4．7ポイント減少した。

問5　がんと診断された時のあなたの雇用形態に〇をつけてください。

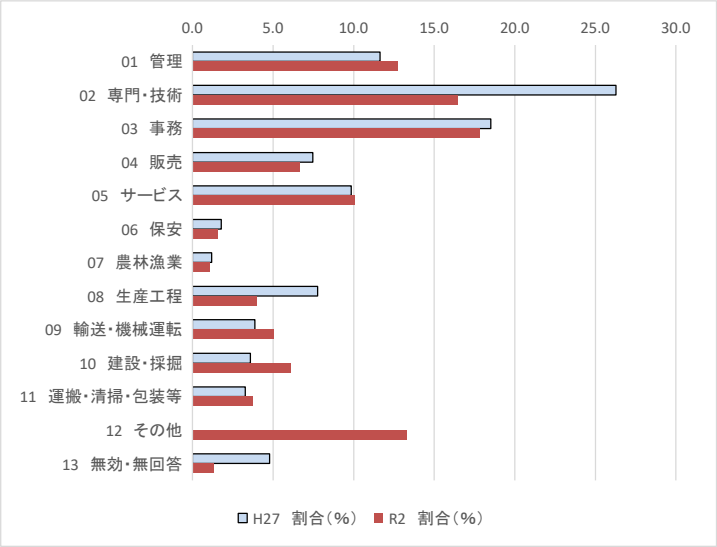
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　正職員	174	33.1	172	27.7
02　契約・臨時職員	38	7.2	47	7.6
03　パート・アルバイト	75	14.3	90	14.5
04　派遣社員	4	0.8	7	1.1
05　公務員	19	3.6	29	4.7
06　会社経営・役員	25	4.8	35	5.6
07　自営業（農林漁業）	27	5.1	37	5.9
08　自営業（農林漁業以外）	32	6.1	36	5.8
09　家事専業	42	8.0	36	5.8
10　学生		0.0	1	0.2
11　無職	63	12.0	108	17.4
12　その他	6	1.1	11	1.8
13　無効・無回答	20	3.8	13	2.1
総計	525	100.0	622	100.0



がんと診断された時の雇用形態については、正職員が27．7%、無職が17．4%、パート・アルバイトが14．5%であった。
前回調査と比較して、無職が5．4ポイント上昇し、正職員が5．4ポイント減少した。

問6　※問5で01～06に〇をつけた方に伺います。
がん診断時の仕事について、主な業務ひとつに〇をつけてください。

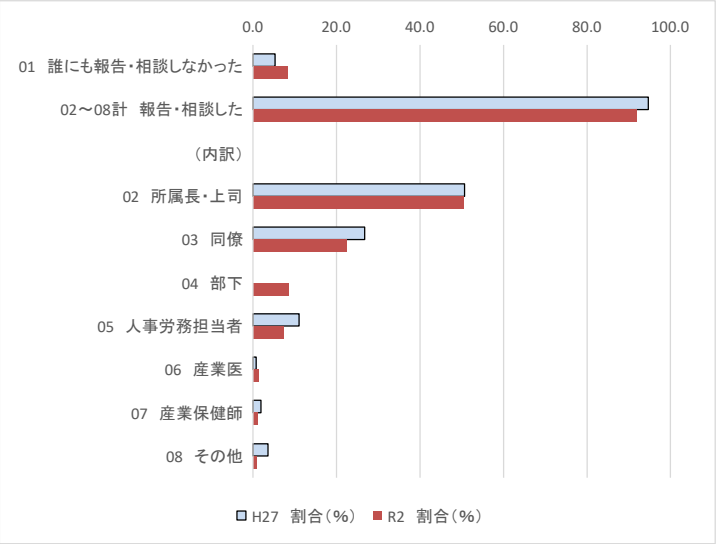
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　管理	39	11.6	48	12.8
02　専門・技術	88	26.3	62	16.5
03　事務	62	18.5	67	17.8
04　販売	25	7.5	25	6.6
05　サービス	33	9.9	38	10.1
06　保安	6	1.8	6	1.6
07　農林漁業	4	1.2	4	1.1
08　生産工程	26	7.8	15	4.0
09　輸送・機械運転	13	3.9	19	5.1
10　建設・採掘	12	3.6	23	6.1
11　運搬・清掃・包装等	11	3.3	14	3.7
12　その他	0	0.0	50	13.3
13　無効・無回答	16	4.8	5	1.3
総計	335	100.0	376	100.0



がん診断時の主な業務については、事務が17．8%、専門・技術が16．5%、管理が12．8%であった。
前回調査と比較して、建設・採掘が2．5ポイント上昇し、専門・技術が9．8ポイント減少した。

問7　がんであることを職場で報告・相談しましたか。（該当するもの全てに〇）

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　誰にも報告・相談しなかった	28	5.3	48	8.2
02～08計　報告・相談した	499	94.7	538	91.8
（内訳）				
02　所属長・上司	267	50.7	296	50.5
03　同僚	141	26.8	131	22.4
04　部下			50	8.5
05　人事労務担当者	58	11.0	43	7.3
06　産業医	4	0.8	7	1.2
07　産業保健師	10	1.9	6	1.0
08　その他	19	3.6	5	0.9
01～08総計	527	100.0	586	100.0

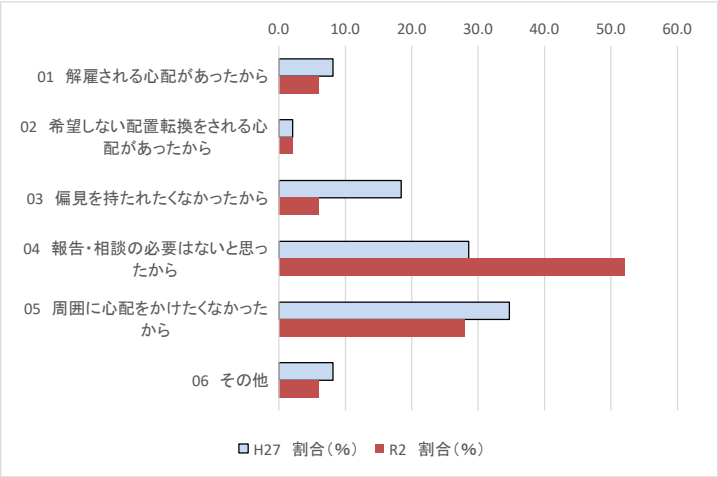


がんであることを職場で報告・相談したかについては、相談・報告したが91．8%、誰にも報告・相談しなかったが8．2%であった。
前回調査と比較して、誰にも報告・相談しなかったが2．9ポイント上昇し、報告・相談したが2．9ポイント減少した。
がんであることを職場で報告・相談した相手については、所属長・上司が50．5%、同僚が22．4%であった。
前回調査と比較して、同僚が3．7ポイント減少した。

問8　※問7で「01　誰にも報告・相談しなかった」に〇をつけた方に伺います。
報告・相談をしなかった理由について、あてはまるもの全てに〇をつけてください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　解雇される心配があったから	4	8.2	3	6.0
02　希望しない配置転換をされる心配があったから	1	2.0	1	2.0
03　偏見を持たれたくなかったから	9	18.4	3	6.0
04　報告・相談の必要はないと思ったから	14	28.6	26	52.0
05　周囲に心配をかけたくなかったから	17	34.7	14	28.0
06　その他	4	8.2	3	6.0
総計	49	100.0	50	100.0

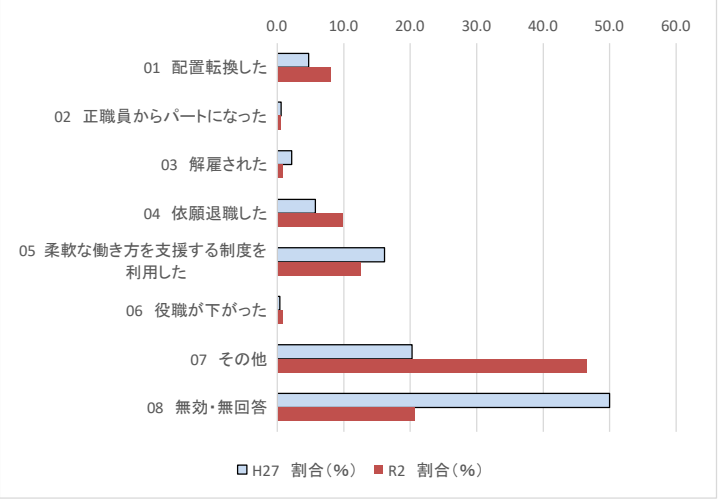
誰にも報告・相談しなかった理由については、「報告・相談の必要はないと思ったから」が52．0%、「周囲に心配をかけたくなかったから」が28．0%であった。
前回調査と比較して、「報告・相談の必要はないと思ったから」が23．4ポイント上昇し、「偏見を持たれたくなかったから」が12．4ポイント減少した。



問9　※問7で02～08に〇をつけた方に伺います。
職場に報告・相談したことで、就労状況にどのような変化がありましたか。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　配置転換した	24	4.7	31	8.1
02　正職員からパートになった	3	0.6	2	0.5
03　解雇された	11	2.2	3	0.8
04　依願退職した	29	5.7	38	9.9
05　柔軟な働き方を支援する制度を利用した	82	16.1	48	12.6
06　役職が下がった	2	0.4	3	0.8
07　その他	103	20.3	178	46.6
08　無効・無回答	254	50.0	79	20.7
総計	508	100.0	382	100.0

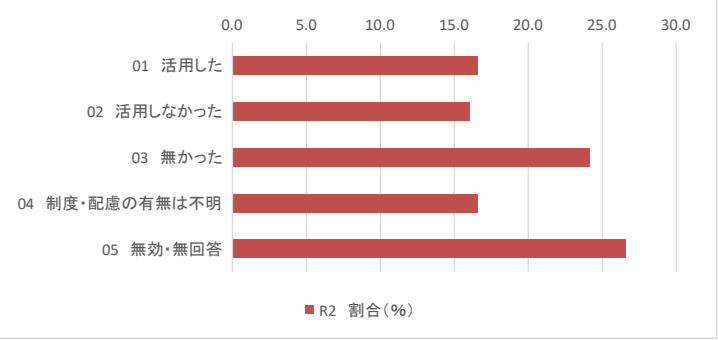
職場に報告・相談したことで、就労状況にどのような変化があったかについては、「柔軟な働き方を支援する制度を利用した」が12．6%、「配置転換した」が8．1%であった。
前回調査と比較して、「依願退職した」が4．2ポイント、「配置転換した」が3．4ポイント上昇し、「柔軟な働き方を支援する制度を利用した」が3．5ポイント減少した。



問10　がん診断時のあなたの職場には、治療しながら働くことをサポートする制度や配慮がありましたか。（該当するもの全てに〇）
①勤務時間の短縮

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　活用した			63	16.6
02　活用しなかった			61	16.1
03　無かった			92	24.2
04　制度・配慮の有無は不明			63	16.6
05　無効・無回答			101	26.6
総計			380	100.0

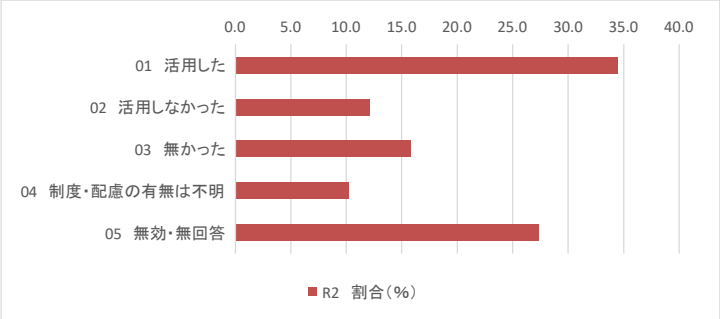
治療しながら働くことをサポートする制度や配慮のうち、勤務時間の短縮については、「無かった」が24．2%、「活用した」、「制度・配慮の有無は不明」がともに16．6%であった。



②時間単位の有給休暇

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　活用した			131	34.5
02　活用しなかった			46	12.1
03　無かった			60	15.8
04　制度・配慮の有無は不明			39	10.3
05　無効・無回答			104	27.4
総計			380	100.0

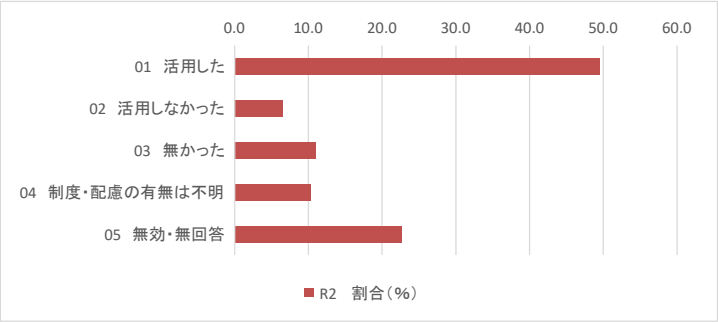
治療しながら働くことをサポートする制度や配慮のうち、時間単位の有給休暇については、「活用した」が34．5%、「無かった」が15．8%であった。



③治療目的の休暇等

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　活用した			188	49.5
02　活用しなかった			25	6.6
03　無かった			42	11.1
04　制度・配慮の有無は不明			39	10.3
05　無効・無回答			86	22.6
総計			380	100.0

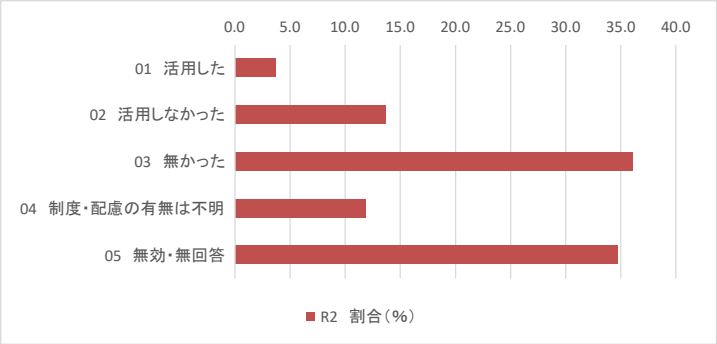
治療しながら働くことをサポートする制度や配慮のうち、治療目的の休暇等については、「活用した」が最も多く49．5%であった。



④在宅勤務

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　活用した			14	3.7
02　活用しなかった			52	13.7
03　無かった			137	36.1
04　制度・配慮の有無は不明			45	11.8
05　無効・無回答			132	34.7
総計			380	100.0

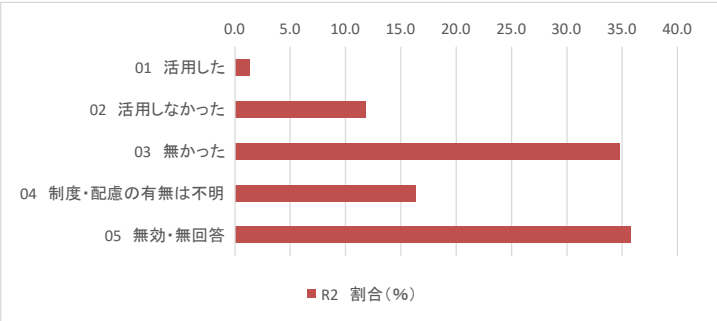
治療しながら働くことをサポートする制度や配慮のうち、在宅勤務については、「無かった」が最も多く36．1%であった。



⑤職場環境のバリアフリー化

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　活用した			5	1.3
02　活用しなかった			45	11.8
03　無かった			132	34.7
04　制度・配慮の有無は不明			62	16.3
05　無効・無回答			136	35.8
総計			380	100.0

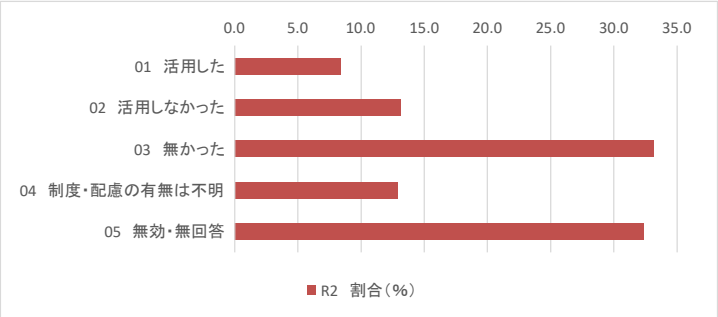
治療しながら働くことをサポートする制度や配慮のうち、職場環境のバリアフリー化ついては、「無かった」が最も多く34．7%であった。



⑥職場の配置転換

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　活用した			32	8.4
02　活用しなかった			50	13.2
03　無かった			126	33.2
04　制度・配慮の有無は不明			49	12.9
05　無効・無回答			123	32.4
総計			380	100.0

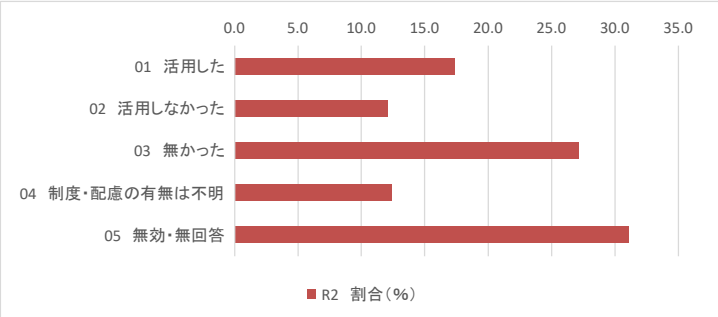
治療しながら働くことをサポートする制度や配慮のうち、職場の配置転換については、「無かった」が最も多く33．2%であった。



⑦業務内容の変更・調整

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　活用した			66	17.4
02　活用しなかった			46	12.1
03　無かった			103	27.1
04　制度・配慮の有無は不明			47	12.4
05　無効・無回答			118	31.1
総計			380	100.0

治療しながら働くことをサポートする制度や配慮のうち、業務内容の変更・調整については、「無かった」が最も多く27．1%であった。

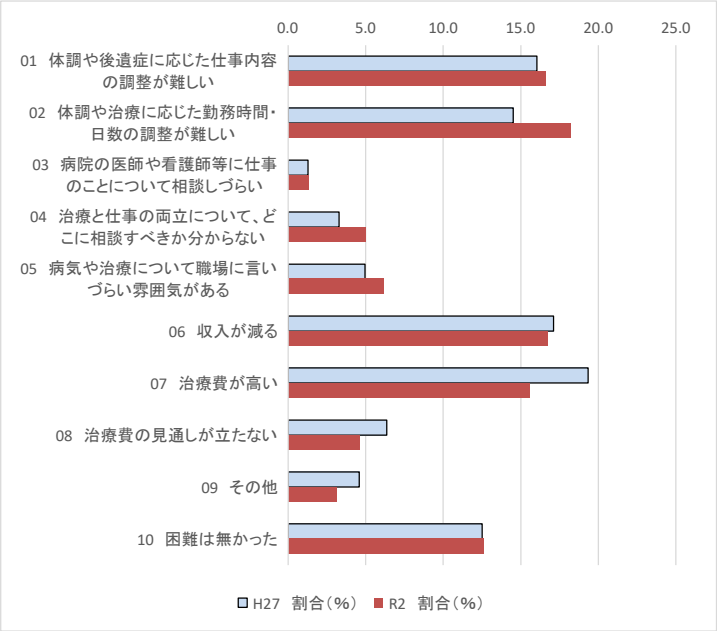


問11　がんの治療と仕事や生活を両立する上で困難であったことは何でしたか。（該当するもの全てに〇）

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　体調や後遺症に応じた仕事内容の調整が難しい	136	16.0	100	16.6
02　体調や治療に応じた勤務時間・日数の調整が難しい	123	14.5	110	18.2
03　病院の医師や看護師等に仕事のことについて相談しづらい	11	1.3	8	1.3
04　治療と仕事の両立について、どこに相談すべきか分からない	28	3.3	30	5.0
05　病気や治療について職場に言いづらい雰囲気がある	42	5.0	37	6.1
06　収入が減る	145	17.1	101	16.7
07　治療費が高い	164	19.3	94	15.6
08　治療費の見通しが立たない	54	6.4	28	4.6
09　その他	39	4.6	19	3.2
10　困難は無かった	106	12.5	76	12.6
総計	848	100.0	603	100.0

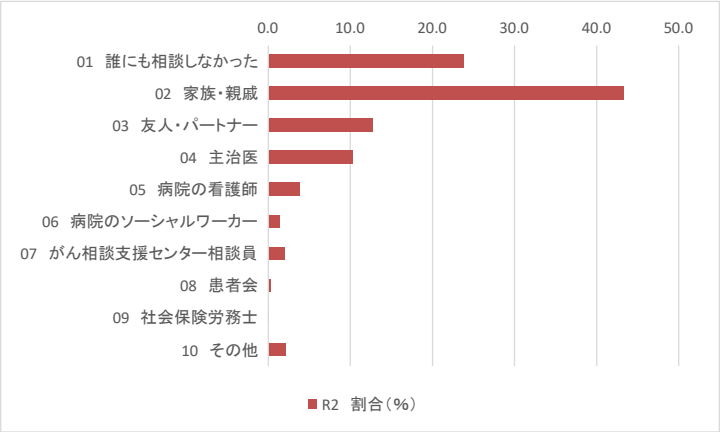
がんの治療と仕事や生活を両立する上で困難であったことついて、「体調や治療に応じた勤務時間・日数の調整が難しい」が18．2%、「収入が減る」が16．7%、「体調や後遺症に応じた仕事内容の調整が難しい」が16．6%であった。

前回調査と比較して、「体調や治療に応じた勤務時間・日数の調整が難しい」が3．7ポイント上昇し、「治療費が高い」が3．7ポイント減少した。



問12　がんと診断された後、働くことについて周りの人に相談をしましたか。（該当するもの全てに〇）

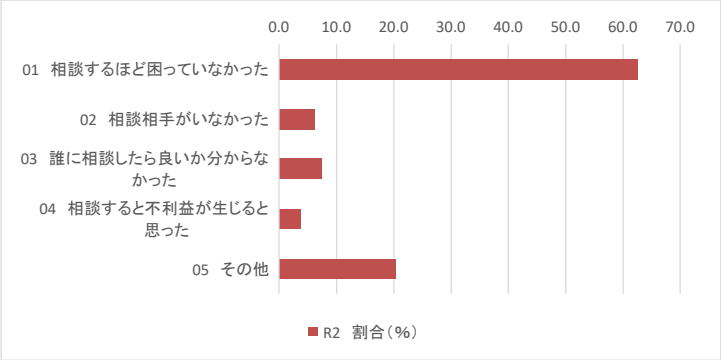
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　誰にも相談しなかった			183	23.8
02　家族・親戚			333	43.3
03　友人・パートナー			98	12.7
04　主治医			79	10.3
05　病院の看護師			29	3.8
06　病院のソーシャルワーカー			11	1.4
07　がん相談支援センター相談員			16	2.1
08　患者会			2	0.3
09　社会保険労務士			1	0.1
10　その他			17	2.2
総計			769	100.0



がんと診断された後、働くことについて周りの人に相談をしたかについて、「家族・親戚」が43．3%、次いで「誰にも相談しなかった」が23．8%であった。

問13　※問12で「01　誰にも相談しなかった」方に伺います。
相談しなかった理由についてあてはまるもの全てに〇をつけてください。

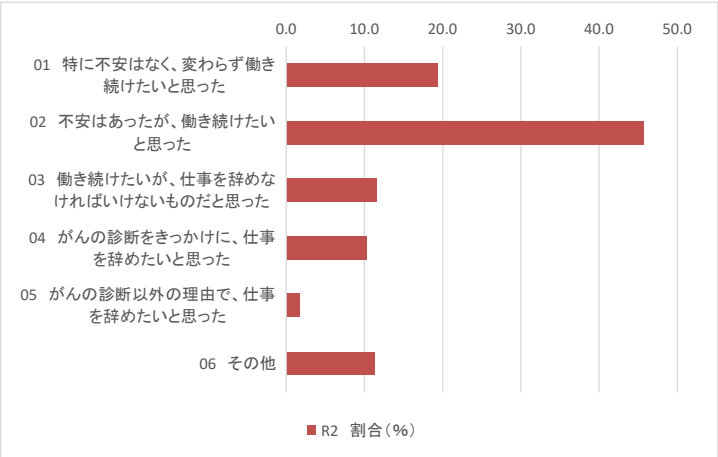
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　相談するほど困っていなかった			102	62.6
02　相談相手がいなかった			10	6.1
03　誰に相談したら良いか分からなかった			12	7.4
04　相談すると不利益が生じると思った			6	3.7
05　その他			33	20.2
総計			163	100.0



がんと診断された後、働くことについて周りの人に相談をしなかった理由について、「相談するほど困っていなかった」が最も多く62．6%であった。

問14　がんと診断された時、働くことについてどのような気持ちになりましたか。（該当するもの全てに〇）

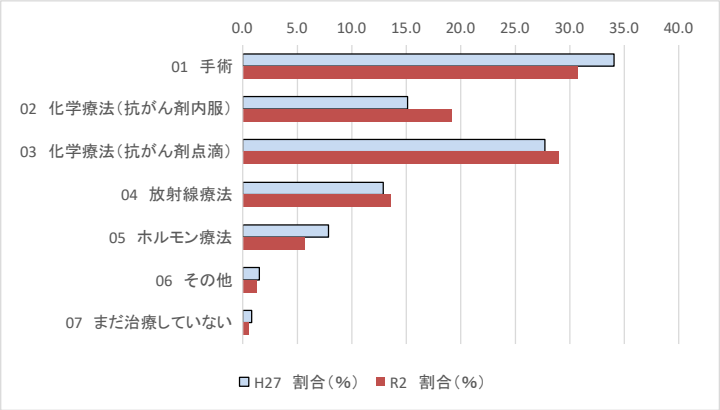
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　特に不安はなく、変わらず働き続けたいと思った			112	19.3
02　不安はあったが、働き続けたいと思った			265	45.7
03　働き続けたいが、仕事を辞めなければいけないものだと思った			67	11.6
04　がんの診断をきっかけに、仕事を辞めたいと思った			60	10.3
05　がんの診断以外の理由で、仕事を辞めたいと思った			10	1.7
06　その他			66	11.4
総計			580	100.0



がんと診断された後、働くことについてどのような気持ちになったかについて、「不安はあったが、働き続けたいと思った」が最も多く45．7%であった。

Ⅲ　あなたの現在の状況について伺います。
問15　がんの治療で、これまでに受けたもの全てに○をつけてください。

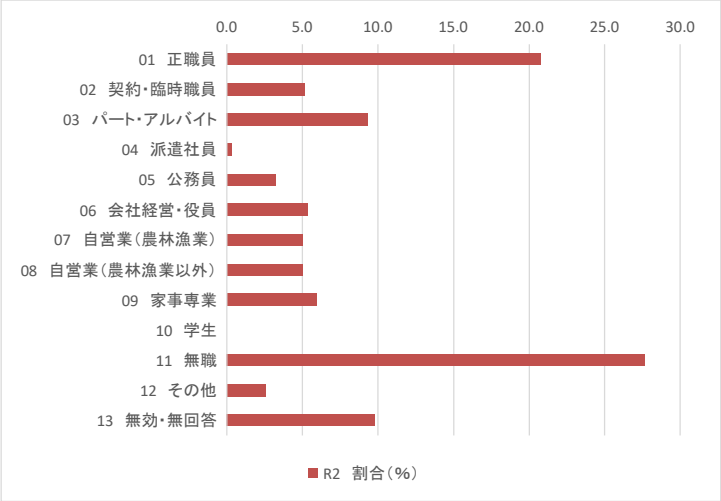
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　手術	381	34.1	384	30.7
02　化学療法（抗がん剤内服）	169	15.1	240	19.2
03　化学療法（抗がん剤点滴）	310	27.7	362	29.0
04　放射線療法	144	12.9	170	13.6
05　ホルモン療法	88	7.9	71	5.7
06　その他	17	1.5	16	1.3
07　まだ治療していない	9	0.8	7	0.6
総計	1118	100.0	1250	100.0



がんの治療で、これまでに受けたものについて、「手術」が30．7%、「化学療法（抗がん剤点滴）」が29．0%、「化学療法（抗がん剤内服）」が19．2%であった。
前回調査と比較して、「化学療法（抗がん剤内服）」が4．1ポイント上昇し、「手術」が3．4ポイント減少した。

問16　現在のあなたの雇用形態に○をつけてください。

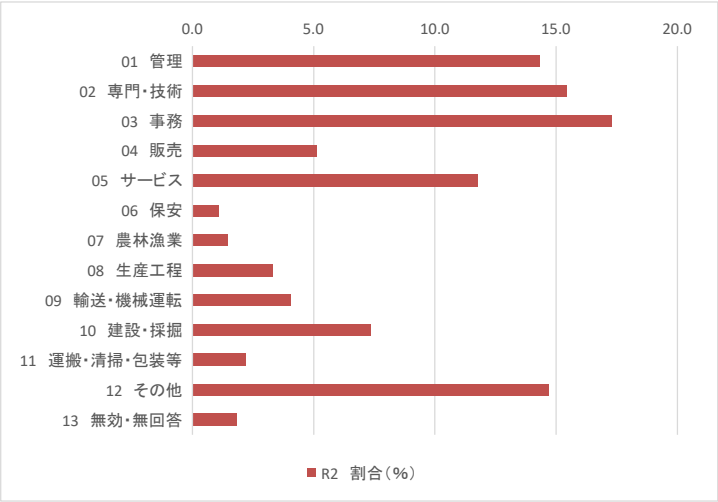
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　正職員			129	20.7
02　契約・臨時職員			32	5.1
03　パート・アルバイト			58	9.3
04　派遣社員			2	0.3
05　公務員			20	3.2
06　会社経営・役員			33	5.3
07　自営業（農林漁業）			31	5.0
08　自営業（農林漁業以外）			31	5.0
09　家事専業			37	5.9
10　学生			0	0.0
11　無職			172	27.7
12　その他			16	2.6
13　無効・無回答			61	9.8
総計			622	100.0



現在のあなたの雇用形態について、「無職」が27．7%、「正職員」が20．7%、「パート・アルバイト」が9．3%であった。

問17　※問16で01～06に○をした方に伺います。
現在の仕事について、主な業務ひとつに○をつけてください。

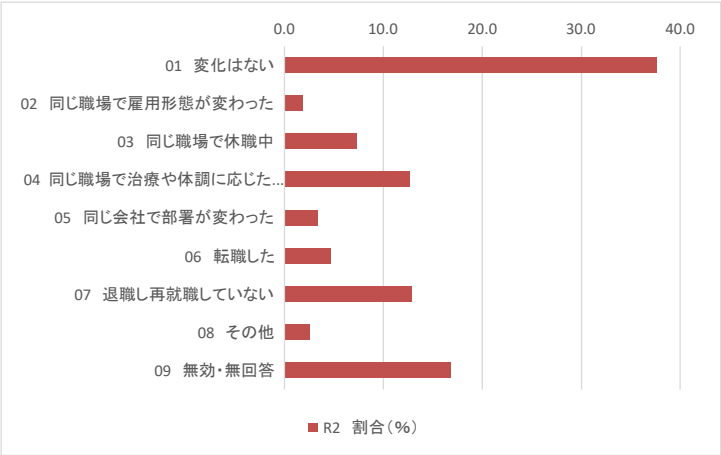
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　管理			39	14.3
02　専門・技術			42	15.4
03　事務			47	17.3
04　販売			14	5.1
05　サービス			32	11.8
06　保安			3	1.1
07　農林漁業			4	1.5
08　生産工程			9	3.3
09　輸送・機械運転			11	4.0
10　建設・採掘			20	7.4
11　運搬・清掃・包装等			6	2.2
12　その他			40	14.7
13　無効・無回答			5	1.8
総計			272	100.0



現在の仕事における主な業務について、「事務」が17．3%、「専門・技術」が15．4%、「管理」が14．3%であった。

問18　※Ⅱ－問5で01～06のいずれかに〇をつけた方に伺います。
がんと診断されてから現在まで、働き方に変化はありましたか。

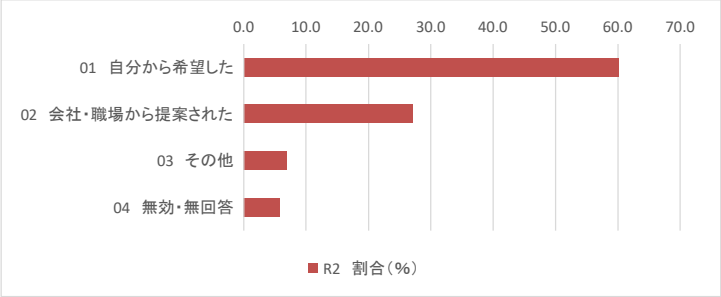
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　変化はない			143	37.6
02　同じ職場で雇用形態が変わった			7	1.8
03　同じ職場で休職中			28	7.4
04　同じ職場で治療や体調に応じた働き方に変わった			48	12.6
05　同じ会社で部署が変わった			13	3.4
06　転職した			18	4.7
07　退職し再就職していない			49	12.9
08　その他			10	2.6
09　無効・無回答			64	16.8
総計			380	100.0



がんと診断されてから現在まで、働き方に変化があったかについて、「変化はない」が37．6%、「退職し再就職していない」が12．9%、「同じ職場で治療や体調に応じた働き方に変わった」が12．6%であった。

問19　※問18で02～08に〇をつけた方に伺います。

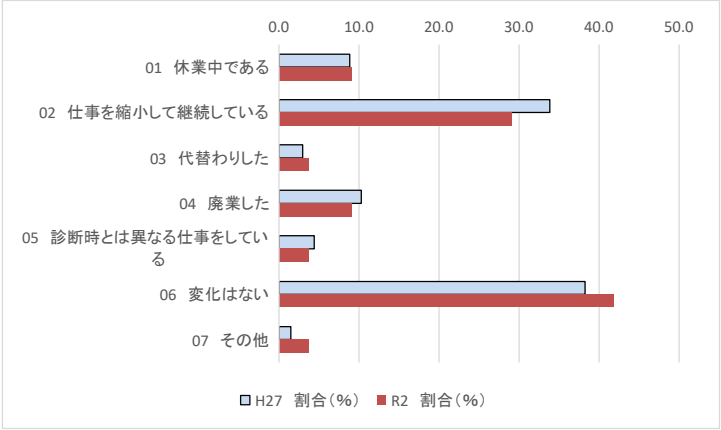
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　自分から希望した			104	60.1
02　会社・職場から提案された			47	27.2
03　その他			12	6.9
04　無効・無回答			10	5.8
総計			173	100.0



がんと診断されてから現在まで、働き方に変化があった理由について、「自分から希望した」が60．1%、「会社・職場から提案された」が27．2%であった。

問20　※Ⅱ－問5でがんと診断された時に、「07・08　自営業」だった方に伺います。
現在のあなたの仕事について、該当するもの全てに〇をつけてください。

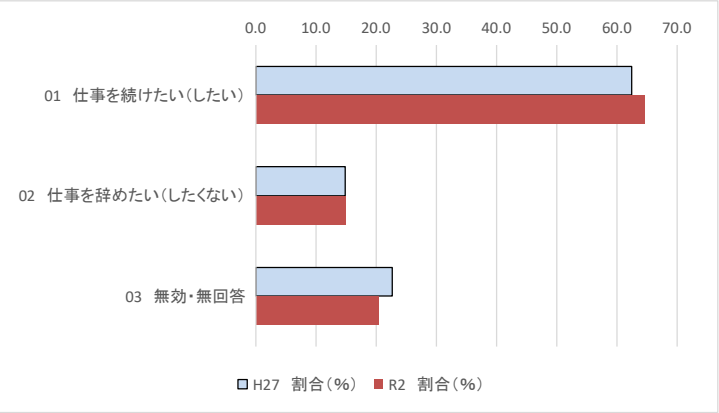
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　休業中である	6	8.8	5	9.1
02　仕事を縮小して継続している	23	33.8	16	29.1
03　代替わりした	2	2.9	2	3.6
04　廃業した	7	10.3	5	9.1
05　診断時とは異なる仕事をしている	3	4.4	2	3.6
06　変化はない	26	38.2	23	41.8
07　その他	1	1.5	2	3.6
総計	68	100.0	55	100.0



がんと診断された時に自営業だった方の現在の仕事については、「変化はない」が41．8%、「仕事を縮小して継続している」が29．1%であった。
前回調査と比較して、「変化はない」が3．6ポイント上昇し、「仕事を縮小して継続している」が4．7ポイント減少した。

問21　あなたは今後仕事をしたいと思いますか。あてはまるものに〇をつけてください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　仕事をしたい（続けたい）	328	62.5	332	53.4
02　仕事をしたい（続けたい）が、難しい			70	11.3
03　仕事をしたくない（辞めたい）	78	14.9	73	11.7
04　仕事をしたくない（辞めたい）が、する必要がある			20	3.2
05　無効・無回答	119	22.7	127	20.4
総計	525	100.0	622	100.0



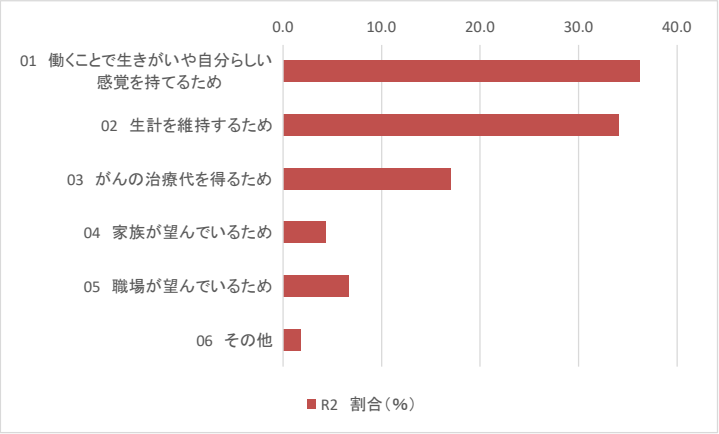
【参考】※平成27年度質問内容にR2年度回答結果を合わせて比較した場合

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　仕事を続けたい（したい）	328	62.5	402	64.6
02　仕事を辞めたい（したくない）	78	14.9	93	15.0
03　無効・無回答	119	22.7	127	20.4
総計	525	100.0	622	100.0

あなたは今後仕事をしたいと思いますかについては、「仕事をしたい（続けたい）」が53．4%、「仕事をしたくない（辞めたい）」が11．7%であった。

問22　※問21で01・02に〇をつけた方に伺います。
仕事をしたい（続けたい）理由にあてはまるもの全てに〇をつけてください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　働くことで生きがいや自分らしい感覚を持てるため			260	36.2
02　生計を維持するため			245	34.1
03　がんの治療代を得るため			122	17.0
04　家族が望んでいるため			31	4.3
05　職場が望んでいるため			48	6.7
06　その他			13	1.8
総計			719	100.0



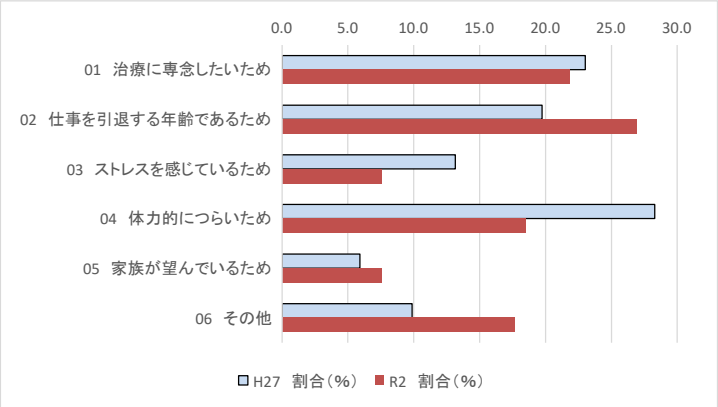
【参考】平成27年度回答内容

項目	H27	
	回答数	割合（%）
① 家庭の生計を維持するため	228	41.9
② 働くことが生きがいである	123	22.6
③ がんの治療代を賄うため	114	21.0
④ 職場から仕事を続けてほしいといわれているため	54	9.9
⑤ その他	25	4.6
計	544	100.0

仕事をしたい（続けたい）理由について、「働くことで生きがいや自分らしい感覚を持てるため」が36．2%、「生計を維持するため」が34．1%、「がんの治療代を得るため」が17．0%であった。

問23　※問21で03・04に〇をつけた方に伺います。
仕事をしたくない（辞めたい）理由にあてはまるもの全てに〇をつけてください。

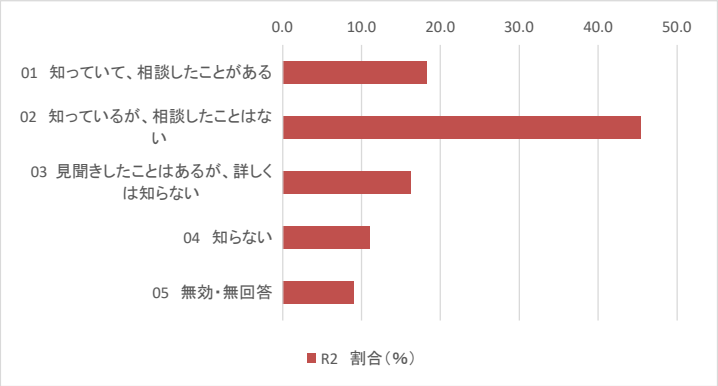
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　治療に専念したいため	35	23.0	26	21.8
02　仕事を引退する年齢であるため	30	19.7	32	26.9
03　ストレスを感じているため	20	13.2	9	7.6
04　体力的につらいため	43	28.3	22	18.5
05　家族が望んでいるため	9	5.9	9	7.6
06　その他	15	9.9	21	17.6
総計	152	100.0	119	100.0



仕事をしたくない（辞めたい）理由について、「仕事を引退する年齢であるため」が26．9%、「治療に専念したいため」が21．8%、「体力的につらいため」が18．5%であった。
前回調査と比較して、「仕事を引退する年齢であるため」が7．2ポイント上昇し、「体力的につらいため」が9．8ポイント減少した。

問24　あなたは、病院に設置されている「がん相談支援センター」を知っていますか。

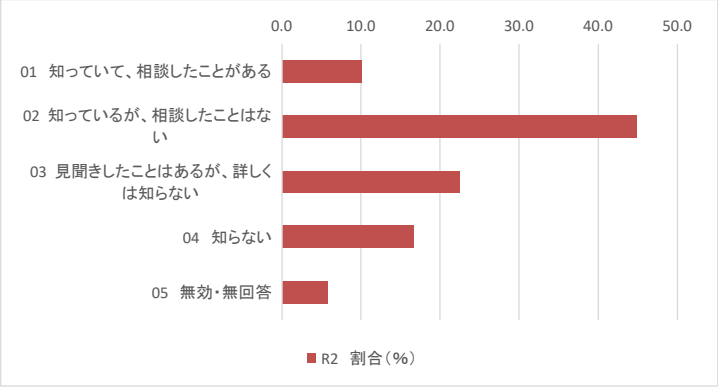
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　知っていて、相談したことがある			114	18.3
02　知っているが、相談したことはない			282	45.3
03　見聞きしたことはあるが、詳しくは知らない			101	16.2
04　知らない			69	11.1
05　無効・無回答			56	9.0
総計			622	100.0



病院に設置されている「がん相談支援センター」を知っているかについて、「知っているが、相談したことはない」が45．3%、「知っていて、相談したことがある」が18．3%であった。

問25　※問24で01～03に〇をつけた方に伺います。
あなたは、働くことに関して「がん相談支援センター」で相談できることを知っていますか。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　知っていて、相談したことがある			50	10.1
02　知っているが、相談したことはない			223	44.9
03　見聞きしたことはあるが、詳しくは知らない			112	22.5
04　知らない			83	16.7
05　無効・無回答			29	5.8
総計			497	100.0

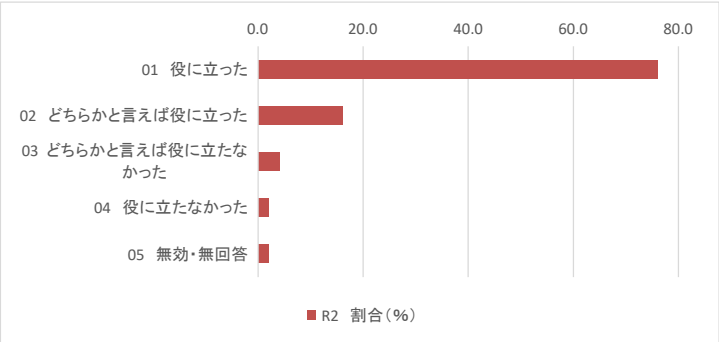


働くことに関して、「がん相談支援センター」で相談できることを知っているかについて、「知っているが、相談したことはない」が44．9%で、「見聞きしたことはあるが、詳しくは知らない」が22．5%であった。

問26　※問25で01に〇をつけた方に伺います。
「がん相談支援センター」による働くことに関する相談は役に立ちましたか。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　役に立った			38	76.0
02　どちらかと言えば役に立った			8	16.0
03　どちらかと言えば役に立たなかった			2	4.0
04　役に立たなかった			1	2.0
05　無効・無回答			1	2.0
総計			50	100.0

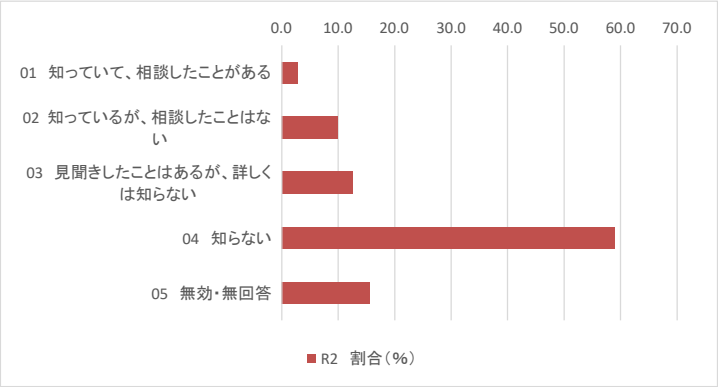
「がん相談支援センター」による働くことに関する相談が役に立ったかについて、「役に立った」が76．0%、「どちらかと言えば役に立った」が16．0%であった。



問27　あなたは、県内ハローワークにある「長期療養者支援窓口」や病院と連携した出張相談等により療養中でも就職の相談ができることを知っていますか。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　知っていて、相談したことがある			18	2.9
02　知っているが、相談したことはない			62	10.0
03　見聞きしたことはあるが、詳しくは知らない			78	12.5
04　知らない			367	59.0
05　無効・無回答			97	15.6
総計			622	100.0

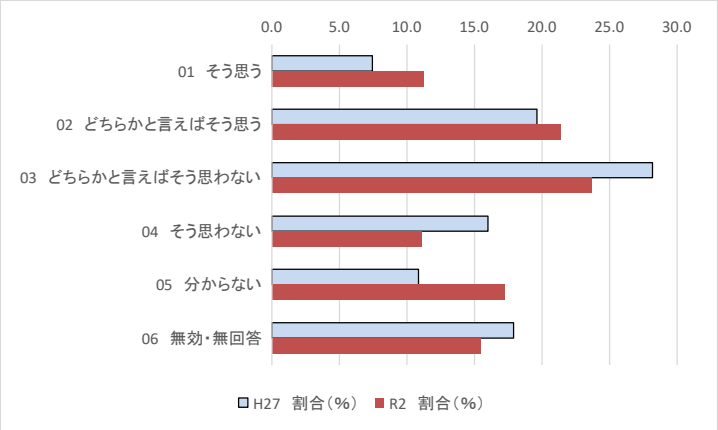
県内ハローワークにある「長期療養者支援窓口」や病院と連携した出張相談等により、療養中でも就職の相談ができることを知っているかについて、「知らない」が59．0%、「見聞きしたことはあるが、詳しくは知らない」が12．5%であった。



問28　現在の日本の社会は、がんの治療や検査のために2週間に一度程度、病院に通う必要がある場合、働き続けれれる環境だと思いますか。

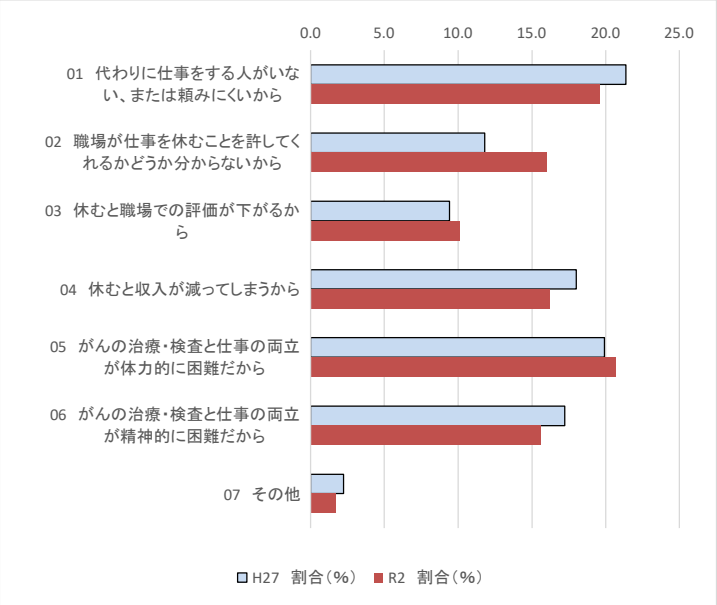
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　そう思う	39	7.4	70	11.3
02　どちらかと言えばそう思う	103	19.6	133	21.4
03　どちらかと言えばそう思わない	148	28.2	147	23.6
04　そう思わない	84	16.0	69	11.1
05　分からない	57	10.9	107	17.2
06　無効・無回答	94	17.9	96	15.4
総計	525	100.0	622	100.0

現在の日本の社会は、がんの治療や検査のために2週間に一度程度、病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思うかについて、「どちらかと言えばそう思わない」が23．6%、「どちらかと言えばそう思う」が21．4%であった。
前回調査と比較して、「分からない」が6．3ポイント、「そう思う」が3．9ポイント上昇し、「そう思わない」が4．9ポイント、「どちらかと言えばそう思わない」が4．6ポイント減少した。



問29　※問28で「03または04」を選んだ方にお聞きします。
働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか（該当するもの全てに〇）

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　代わりに仕事をする人がいない、または頼みにくいから	134	21.4	93	19.6
02　職場が仕事を休むことを許してくれるかどうか分からないから	74	11.8	76	16.0
03　休むと職場での評価が下がるから	59	9.4	48	10.1
04　休むと収入が減ってしまうから	113	18.0	77	16.2
05　がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから	125	19.9	98	20.7
06　がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから	108	17.2	74	15.6
07　その他	14	2.2	8	1.7
総計	627	100.0	474	100.0



働き続けることを難しくさせている最も大きな理由について、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」が20．7%、「代わりに仕事をする人がいない、または頼みにくいから」が19．6%、「休むと収入が減ってしまうから」が16．2%であった。

前回調査と比較して、「職場が仕事を休むことを許してくれるかどうか分からないから」が4．2ポイント上昇し、「代わりに仕事をする人がいない、または頼みにくいから」、「休むと収入が減ってしまうから」がともに1．8ポイント減少した。

問30　がんと診断された後の就職や仕事の継続において、困ったことや必要な支援について御記入ください。

【困ったことについて】

○体力面、精神面他に関すること（21件）
治療や副作用による体力面、体調面について。（5件）
疲れやすくなり家事をこなすことで精いっぱいなため、仕事のことは考えられない。
治療後に前職場に復帰したが、体力が以前より不足していると感じることが多かった。身体を労わりたいと思い、あまり体力を必要としない現職場に転職して今現在も通院しながら仕事を続けている。
副作用等のため、常に体調が本当ではない状態で仕事をしている。周りの理解やフォローがあって何とか仕事ができている状態。人員が少ない中で申し訳なく思いながら毎日仕事をしている。年々体力的、精神的につらくなってきている。いつまで働ける状態の体調が続くのか不安。
自分が把握している業務については、退職するまではやらざるを得ない状況で、体力的に厳しくても無理をして対応していた。
入院や治療で体力が落ちるので普通に仕事をするまでに時間がかかる。
私は公務員で比較的休みやすく仕事内容も職場に相談しやすいが、周囲への気がねから頑張りすぎた同僚は、結局体力的にも精神的にも大変になり、経済的になんとかなると言って辞めた。私は2か月の病気休暇のみで復帰し、それでも体が戻るまでは、かなり無理を押して元通りの仕事を続けた。私は抗がん剤治療が無かったが、外来で治療を続けていた方は体力面でつらそうな日があった。
がんである事を地域の人に知られたくないが、体力変化等が出て来たら困ってくる。
抗がん剤点滴後の体調不良による仕事への影響（当時）。
体力的に続けていけるかどうか。
物忘れが多くなった。
治療のために仕事を休むことが多く、アルバイト等でしか働くことができないため、収入も少なく安定しない。そのため、生活的にも精神的にも不安定。
高齢のため、今後の治療、体調の変化の不安等が心配。精神面のこと。
年齢的なこともあったが、体力を使う仕事できつかったため、辞めざるを得なかった。
減量できないこと。
術後3年となるが、いまだに体調不良と腸の調子に悩まされている。
現在は手術後の体力回復が求められ、再就職まで思い至らない。

○仕事の調整、職場の対応について（18件）
仕事の調整をして手術を行った。
多忙な部署に異動させれた場合、仕事を継続できるか分からない不安がある。
手術前、体は元気なのに出勤が認められなかった時、職場の決まりなのか、納得がいかなかった。
自分の代わりに仕事を代行してもらえる人が居なくて大変だった。
職場の人員が常に不足している状態。
農業をやっているが人手が不足している。
がんであることを知った周囲の方々に気を使わせることがつらく感じ、自分も気を使わせないようにとすることで疲れてしまうことがある。仕事を休むことができるならそうしたいが、正職であるなら可能であるかもしれないがパートでは一旦やめるしか手立てはないように思う。
職場で人員が不足しているため、長期で休職しているのが心苦しい。
パートと正社員の違いが大きい。正社員は午前治療で午後出勤が可能だが、パートは数時間の勤務のため休むしかない。
副作用等で体調が悪く休みたい時に、診断書等がないと病休が取れない。年次で対応できるが、復帰してまだ半年なので年次が十分あるかどうか不安。
夜勤が出来ないことにより他病棟へ配置換えになったことがあったが、体力的、精神的に無理がかかり、元に戻してもらったことがある。
病気を機に夜勤免除をお願いしても正職員で主任である立場にある人にはできないと言われ、臨時職員になった。しかし、その後、他の正職員は、何年も夜勤免除されているのを見た。
職場（高齢者福祉）は病気に対する理解があり、協力してくれたが、治療と業務の両立が難しくなり（体調不良で欠勤が多くなった）依願退職となった。
職場（上司以外）への報告のタイミングについて。
個人事業主では、何の支援策も受けられない。
時間休の分、申し訳なく、朝早く出勤して仕事をしている。
シフト勤務でかつ1人が1つのエリアを担当する為、休む場合は、補充が必要となり、勤務表作成が大変。
自営業（農家）で働いていたが、廃業しかない。

○収入減・治療費に対する不安（16件）
診察料、治療費、治療薬代が高く、治療を続けるのが大変で負担が大きい等。（8件）
休職しても、しなくても収入が減る。
年金制度と雇用制度がうまくかみ合っていない現状では、がん治療費の負担が生活費を圧迫する。
家族、兄弟がいないため、金銭的にまったく余裕がない。
育休中にがんが分かり復職もできなくなり、育休は延長できず、収入が無いため高額な治療費を払いながら赤ちゃん・幼児を育てていけるか困った。
入院中、無収入で、病気と同じくらい不安。
経済的な負担。
有休も残り少なく、その後の収入が無くなるので、今後の治療に不安がある。先の事が分からず、収入が一番心配。
延命治療で自分の余命が分からないため、生活費をどれだけ準備しておけば良いのか、生活（設計）が成り立たない。

○周囲の理解、周囲へ対する自分自身の葛藤（11件）
身体的外見から辛さが伝わりづらく、普通に業務ができると思われた。（良かった事でもある。）
体調不良等の理解が得られなかった。
今後、治療や体調不良での欠勤早退は可能になると思うが、仮に制度があったとしても患者は周りを気にしてしまう。
個々に担っている仕事が違うため、他の人に頼むほうが負担である。
制度的には病休や有休を使えるが、業務上、周囲の人へのしわよせがいくことへの気兼ねや立場上、空けられない日などあり、無理をせざるを得ない。
副作用が見た目にはわかりづらい。
秋田はがんの人が多い割に会社の支援があまり整備されておらず、環境（ウワサ話）が良くない。
会社が思う仕事が出来なければ辞めなければならない。
がんであることを知った周囲の方々に気を使わせることがつらく感じ、自分も気を使わせないようにとすることで疲れてしまう。
がんと診断された場合、表向きにはそれをサポートすることを掲げている会社（経営者）は多いが、現実には会社の業績に余裕が無い限り、サポートを無限に受けるのは困難。また、サポート受けながら働き続けることができてもそれが大きなストレスになり、病気にとってはマイナスだと思う。
今の職場では毎日20：00から21：00まで残業しても残業代が出ない。昼の休憩もない。直属の上司に何度も伝えたが、「俺が会社に言って俺が嫌われればいいのか」と怒鳴られる。早く辞めるべきだった。

○痛み、治療、副作用等、生活面に関すること（10件）
術後の痛みのため、仕事を続けることは考えなかった。
リンパ浮腫があるが、ドレナージは保険外で高く、ストッキングの申請も制約が厳しいため難しく大変だった。
検査が多い。
治療はかなり苦しく、仕事との両立は無理だと思った。
今後、病気の状態によってどうなっていくか不安。
放射線治療後、髪が抜け、周囲が気になり、仕事に打ち込めなかった事があり困った。
がんである事を地域の人に知られたくないが、外観変化等が出て来たら困る。
仕事は続けたかったが、治療に耐えられずやめた。
職場には障害者用トイレがあってもストーマ用トイレがなく不便であった。本院でも外来・一般病棟にもストーマ用トイレが無い。
手術後にホルモンのアンバランス等による体調の変化について、詳しく説明してほしかった。

○再就職に関すること（6件）
治療による副作用がどの程度になるのか確信が持てないため、新しい仕事に就けない。
定年後の再雇用が難しかった。
会社から、私でなくても代わりが居ることを遠回しに言われ、治療後の復職を考えると不安になった。
契約が切れた後の雇用先があるか心配。
再就職をする場合、業種等の幅が狭くなり、なかなか仕事が見つからなかった。
転職は希望しているが、50歳を過ぎて、大病をした人を雇ってくれる職場があるのか不安。

○その他（1件）
保険に入っていて助かったが、1度がん保険を使うと二度目の保険は入れないこと。

【必要な支援について】

○周囲の理解や環境づくりについて（23件）
がんに対する周囲（事業主、上司、家族）の理解や協力について。（9件）
全員が色々な事情について耳を傾けて理解するべき。その時代にあった支援などを皆で考えるべき。
支援についての情報が得やすい環境づくり。
支援についての益々のPRが必要。
中小企業において、がん治療をしながら働き続けられる体制を作るための行政側の支援強化が必要。
がん患者といっても千差万別。障害者としての位置付けが欲しい。
仕事を辞めた後の再就職支援について教えてほしい。
ストーマ用トイレの設置を希望。
ハローワークで気軽に相談できること。気力、体力、通院などを理解をしてもらえること。
休暇や職場移動、傷病手当金等がある旨等について、会社から教えてもらえるような雰囲気づくり。
「長期療養者支援窓口」や病院と連携した出張相談等に関するPR等。
がんと診断されたら、職場・家族・周囲の協力が必要であるが、それを言いだせる環境がまだ広がっていない。言いづらい・人の目が気になる、色々あると思う。
職場環境とその中の人間関係（雇用主と自分）がどう信頼関係を続けて保っているかによると思う。
職種によって違いが有ると思う。公務員、大企業、自営会社経営等は比較的、仕事の都合が付きやすいだろうが、むずかしい職場（職種）も有ると思う。
職場に話しやすい環境作り。がん相談支援センター・病院の関係者の周知。

○勤務形態、制度について（11件）
有休の日数。
有休以外に会社が認める病欠のようなものがあると助かる。健康な人より休みがないと通院や治療が難しいため、会社単位でなく国で条例、法律化してほしい。
職種によって職場の対応が違うため、個人個人に沿った働き方をその都度考えてほしい。
フレックス制の導入。
働きながら治療ができるような働き方の工夫（ワークシェアリング）や様々な就労形態（自宅でできることとそうでないことを分ける）の工夫。
在宅ワーク制度の導入。
長期治療に対して、会社の制度では難しい部分もあるため（長期欠勤になると強制退職）、何度も再発している場合、治療をしながら働ける支援。
時間単位の有給休暇の導入
短時間勤務・内容への配慮等や回復するまでの長期的なサポート期間・見守り期間のような体制があれば、生きがいを失わず、ゆっくりと治療に専念しつつ、または病気とつき合いつつ患者も仕事を続けられると思う。
治療や検査のため、会社を休むときのフォロー体制の確立。
ワークシェアの導入。

○治療費、経済面の支援について（5件）
治療費補助の支援。（2件）
経済的な支援。
仕事を継続するのに必要とされるサポート費用等の経費、治療や入院、検査の為、職場を離れる事によって発生する会社側の経費等を国が負担するシステム（＝健康保険の拡大）。
働く世代の若いがん患者が仕事ができなくても、生活できるような支援。

○医師の説明・病院の体制について（2件）
退院後（術後）のその後の経過についての見通しが持てないと職種、職場の選択で不安が大きい。可能な限り、説明が欲しい。
休日（土・日・祭日）に通常通りに診察してくれる病院が身近にあると助かる。

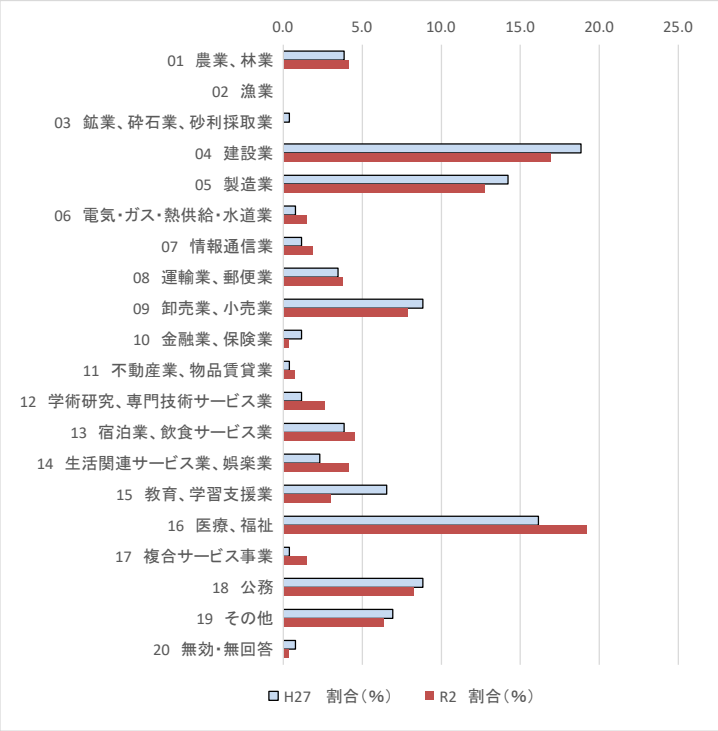
【特に問題が無かった点他】（29件）
従来通り仕事をしている。
周りに恵まれているおかげで、困ったことはなく生活できている。
現在特に支援は必要ない。
周囲の理解を得ており特に問題はない。特に直属の上司が同じがん経験者であったことも幸いした。
術後、肉体的な制約、治療が無いため困っていない。
家族のため掃除、洗濯、料理一生懸命やっている。困ったことはない。
自営業なので他の事はわからない。
自営なため、支援はいらない。
上司が大変理解があり、仕事量や内容の調整をしてくれたため大変ありがたかった。
自分の職場は環境を整備してもらえた。
当初は困惑していたが、対処法を考えて少しずつ進化させている。仕事は時短にしたり、食事量は変えずに消化の良いものを選ぶようにしている。
がんと診断された時は、既に除去した後のタイミングであったため、ショックを受けたものの仕事への影響はなかった。大学病院を紹介されてからの治療も10日間の入院で、周囲の除去手術のみだったため、体への負担も少なかったと感じています。
今の職場は自身の体調に合わせてくれているため、特に問題はない。
会社が大手で福利厚生もしっかりしていたので心配は無かった。
職種が医療的な業務だったため、ある程度のことは知っていたので、あまり心配なかった。
職場とがんの進行度によって違うと思う。私の場合、とても恵まれていた。
会社も理解してくれ、治療を最優先に考えていてくれるため、治療に専念出来ている。
家族や職場の人達も、働くことに不安などなかったことと、自分自身も不安がなかったので、困ったと感じたことはなかった。
職場に恵まれており、困ったことはない。
週に1日から2日のパートのため、特にない。
定年退職して高齢のため、特に考えない。治療に専念していきたい。
職場との関係性が良好だったため特にない。
特にない。
病院の先生はじめ看護師が、丁寧に親切に接してくれたため、病気の不安を和らげてもらっている。本当に白衣の天使。献身的な働きぶりには頭が下がる。
勤務年数も長く、周りの理解があり、治療のための通院を優先させてもらっているため、ありがたい環境だと思っている。病院と会社も近く、仕事への影響はほとんどない。
がん相談支援センターで傷病手当というものがあることを初めて知り、今の会社に対して見極めることができた。
職場にも話せ、がん相談支援センター・病院の関係者に助けられた。他の人にも、がん相談支援センターがある事を知ってもらいたい。きっと気持ちが落ち着いたり、肩の荷が下りたり、助かるはず。身も心も楽になるはず。
同僚からの気づかいと上司の理解で現在は体力的にも排便困難な生活にも困らず、少しゆるやかに仕事ができている。
オプジーボのおかげで今の自分がある。（肺炎にはなってしまったが、使って良かった。）

Ⅱ　調査結果

２　法人用アンケート

問1　貴法人の主たる事業の業種として該当するものを1つお選びください。

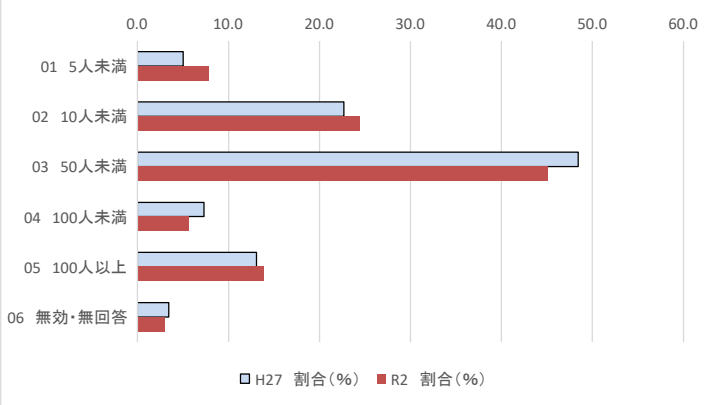
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　農業、林業	10	3.8	11	4.1
02　漁業	0	0.0	0	0.0
03　鉱業、砕石業、砂利採取業	1	0.4	0	0.0
04　建設業	49	18.8	45	16.9
05　製造業	37	14.2	34	12.8
06　電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.8	4	1.5
07　情報通信業	3	1.2	5	1.9
08　運輸業、郵便業	9	3.5	10	3.8
09　卸売業、小売業	23	8.8	21	7.9
10　金融業、保険業	3	1.2	1	0.4
11　不動産業、物品賃貸業	1	0.4	2	0.8
12　学術研究、専門技術サービス業	3	1.2	7	2.6
13　宿泊業、飲食サービス業	10	3.8	12	4.5
14　生活関連サービス業、娯楽業	6	2.3	11	4.1
15　教育、学習支援業	17	6.5	8	3.0
16　医療、福祉	42	16.2	51	19.2
17　複合サービス事業	1	0.4	4	1.5
18　公務	23	8.8	22	8.3
19　その他	18	6.9	17	6.4
20　無効・無回答	2	0.8	1	0.4
総計	260	100.0	266	100.0



最も多い業種は、「医療・福祉」の51事業所（19．2%）、「建設業」の45事業所（16．9%）、「製造業」の34事業所（12．8%）であった。
前回調査と比較して、「医療、福祉」が3．0ポイント上昇した。

問2　貴法人の従業員数について記入してください。（正規職員＋非正規職員）

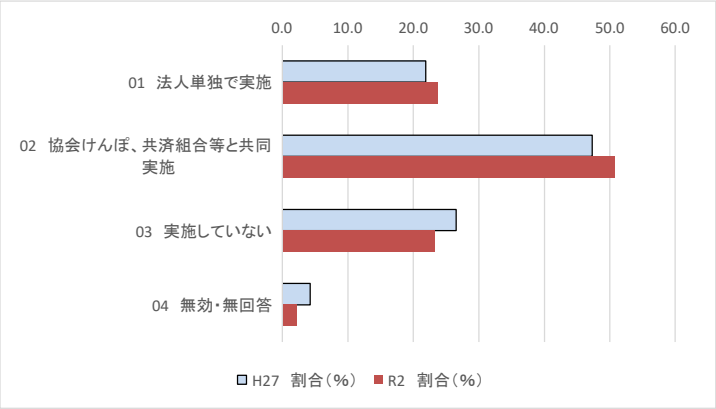
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　5人未満	13	5.0	21	7.9
02　10人未満	59	22.7	65	24.4
03　50人未満	126	48.5	120	45.1
04　100人未満	19	7.3	15	5.6
05　100人以上	34	13.1	37	13.9
06　無効・無回答	9	3.5	8	3.0
総計	260	100.0	266	100.0



一事業所当たりの従業員数は、「50人未満」が45．1%で最も多く、次いで「10人未満」が24．4%、「100人以上」が13．9%であった。
前回調査と比較して、「5人未満」が2．9ポイント、「10人未満」が1．7ポイント上昇し、「50人未満」が3．4ポイント、「100人未満」が1．7ポイント減少した。

問3　貴法人の従業員に対してがん検診（胸部X線検査や便潜血検査なども含む）を実施していますか。

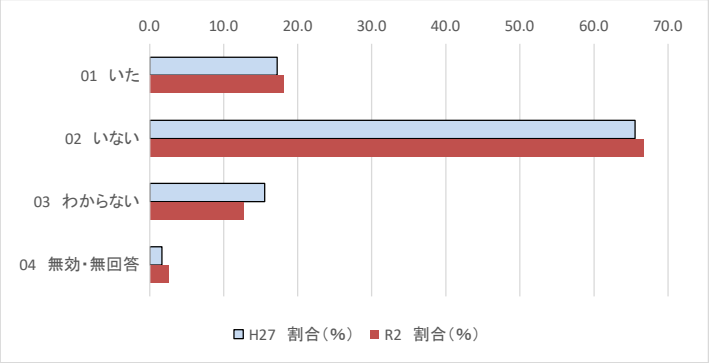
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　法人単独で実施	57	21.9	63	23.7
02　協会けんぽ、共済組合等と共同実施	123	47.3	135	50.8
03　実施していない	69	26.5	62	23.3
04　無効・無回答	11	4.2	6	2.3
総計	260	100.0	266	100.0



がん検診の実施は、「協会けんぽ、共済組合等と共同実施」が50．8%であり、「法人単独で実施」が23．7%、「実施していない」が23．3%であった。
前回調査と比較して、「協会けんぽ、共済組合等と共同実施」が3．5ポイント、「法人単独で実施」が1．8ポイント上昇し、「実施していない」が3．2ポイント減少した。

問3－①　問3で「01・02」を選んだ場合、がん検診によりがんと疑われた従業員はいましたか。

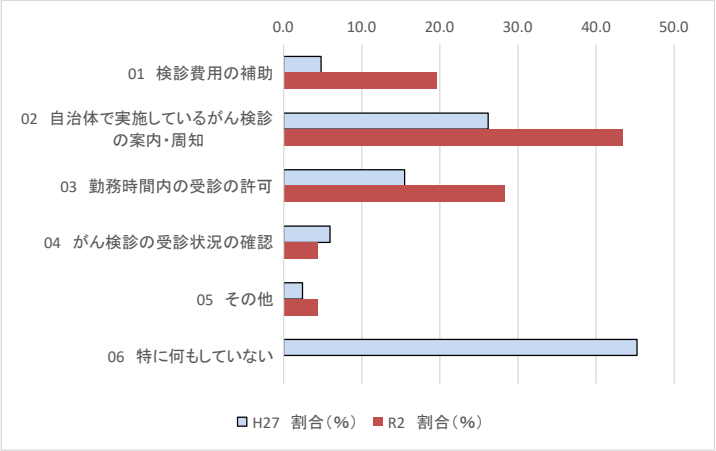
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　いた	31	17.2	36	18.2
02　いない	118	65.6	132	66.7
03　わからない	28	15.6	25	12.6
04　無効・無回答	3	1.7	5	2.5
総計	180	100.0	198	100.0



がん検診によりがんと疑われた従業員について、「いない」が66．7%、「いた」が18．2%、であった。
前回調査と比較して、「いない」が1．1ポイント、「いた」が1．0ポイント上昇した。

問3ー②　問3で「03」を選んだ場合、従業員のがん検診のため、実施してる取組はありますか。（複数回答）

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　検診費用の補助	4	4.8	9	19.6
02　自治体で実施しているがん検診の案内・周知	22	26.2	20	43.5
03　勤務時間内の受診の許可	13	15.5	13	28.3
04　がん検診の受診状況の確認	5	6.0	2	4.3
05　その他	2	2.4	2	4.3
06　特に何もしていない	38	45.2	0	0.0
総計	84	100.0	46	100.0

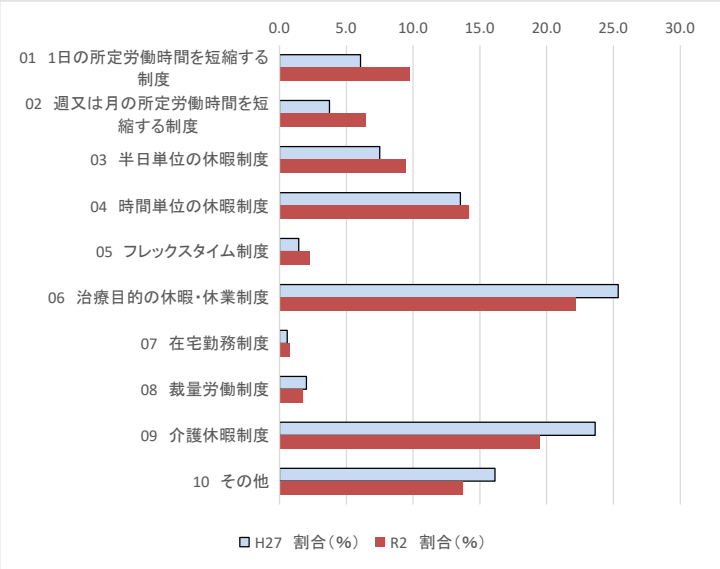


従業員のがん検診のため、実施している取組について、「自治体で実施しているがん検診の案内・周知」が43．5%と最も高く、次いで「勤務時間内の受診の許可」が28．3%、「検診費用の補助」が19．6%であった。
前回調査と比較して、「自治体で実施しているがん検診の案内・周知」が17．3ポイント、「検診費用の補助」が14．8ポイント、「勤務時間内の受診の許可」が12．8ポイント上昇した。

問4　貴法人では、がんに罹患した従業員、または、がんに罹患した家族をもつ従業員の柔軟な働き方を支援するために導入している制度はありますか。（複数回答）

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　1日の所定労働時間を短縮する制度	21	6.1	39	9.7
02　週又は月の所定労働時間を短縮する制度	13	3.7	26	6.5
03　半日単位の休暇制度	26	7.5	38	9.5
04　時間単位の休暇制度	47	13.5	57	14.2
05　フレックスタイム制度	5	1.4	9	2.2
06　治療目的の休暇・休業制度	88	25.4	89	22.2
07　在宅勤務制度	2	0.6	3	0.7
08　裁量労働制度	7	2.0	7	1.7
09　介護休暇制度	82	23.6	78	19.5
10　その他	56	16.1	55	13.7
総計	347	100.0	401	100.0

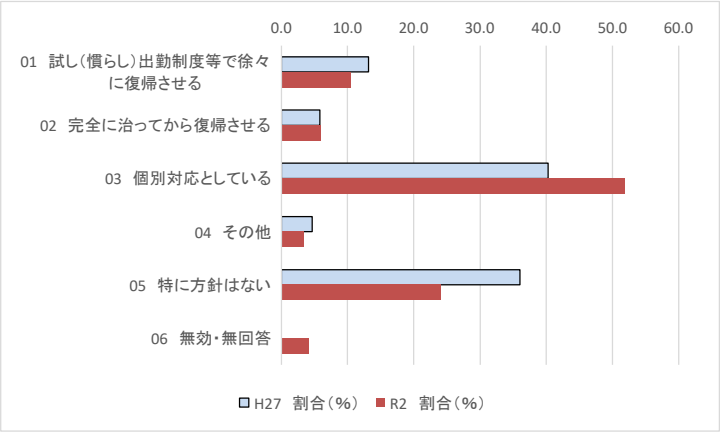
柔軟な働き方を支援するために導入している制度については、「治療目的の休暇・休業制度」が22．2%、「介護休暇制度」が19．5%、「時間単位の休暇制度」が14．2%であった。
前回調査と比較して、「1日の所定労働時間を短縮する制度」が3．6ポイント、「週又は月の所定労働時間を短縮する制度」が2．8ポイント上昇し、「介護休暇制度」が4．1ポイント、「治療目的の休暇・休業制度」が3．2ポイント減少した。



問5　貴法人における、がんなどによる長期休業者の復職に関する方針についてお答えください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　試し（慣らし）出勤制度等で徐々に復帰させる	34	13.2	28	10.5
02　完全に治ってから復帰させる	15	5.8	16	6.0
03　個別対応としている	104	40.3	138	51.9
04　その他	12	4.7	9	3.4
05　特に方針はない	93	36.0	64	24.1
06　無効・無回答	0	0.0	11	4.1
総計	258	100.0	266	100.0

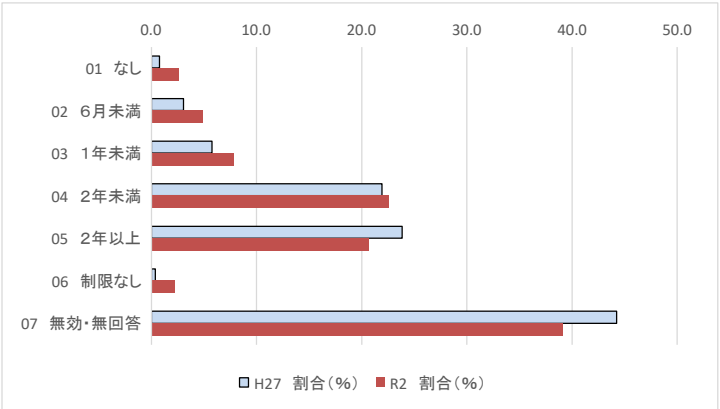
復職に関する方針については、「個別対応としている」が51．9%、「特に方針はない」が24．1%、「試し（慣らし）出勤制度等で徐々に復帰させる」が10．5%であった。
前回調査と比較して、「個別対応としている」が11．6ポイント上昇し、「特に方針はない」が11．9ポイント減少した。



問6　貴法人における身分保障期間・所得補償期間（取得可能な最長日数）について記入ください。
①身分保障期間

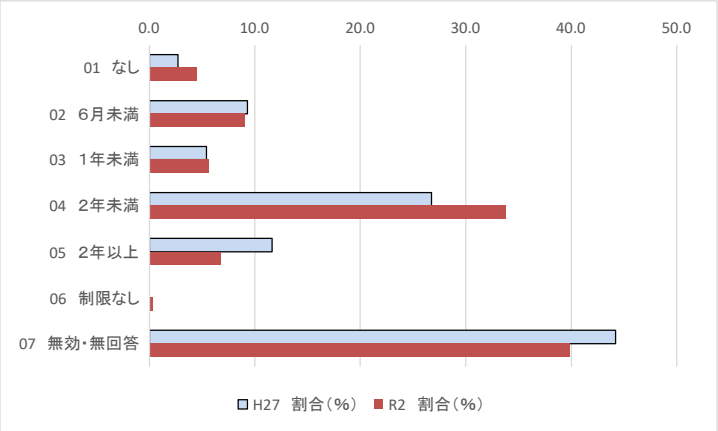
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　なし	2	0.8	7	2.6
02　6月未満	8	3.1	13	4.9
03　1年未満	15	5.8	21	7.9
04　2年未満	57	21.9	60	22.6
05　2年以上	62	23.8	55	20.7
06　制限なし	1	0.4	6	2.3
07　無効・無回答	115	44.2	104	39.1
総計	260	100.0	266	100.0

身分保障期間については、「2年未満」が22．6%、「2年以上」が20．7%、「1年未満」が7．9%であった。
前回調査と比較して、「1年未満」が2．1ポイント上昇し、「2年以上」が3．1ポイント減少した。



②所得補償期間

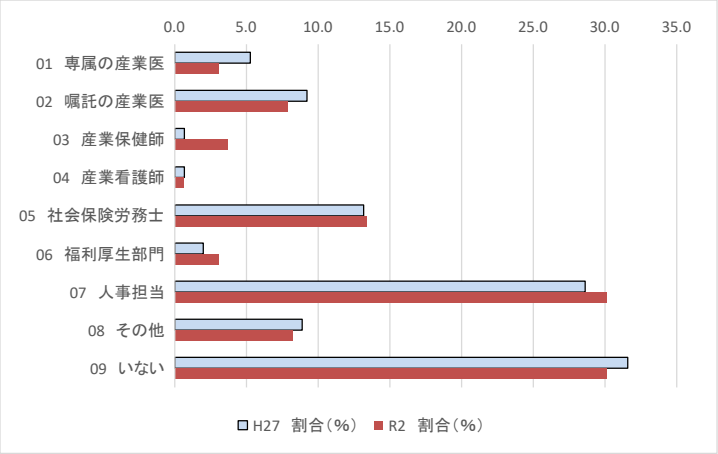
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　なし	7	2.7	12	4.5
02　6月未満	24	9.3	24	9.0
03　1年未満	14	5.4	15	5.6
04　2年未満	69	26.7	90	33.8
05　2年以上	30	11.6	18	6.8
06　制限なし	0	0.0	1	0.4
07　無効・無回答	114	44.2	106	39.8
総計	258	100.0	266	100.0



所得保障期間については、「2年未満」が33．8%、次いで「6月未満」が9．0%であった。
前回調査と比較して、「2年未満」が7．1ポイント上昇し、「2年以上」が4．8ポイント減少した。

問7　貴法人では、従業員ががんに罹患した時に、仕事と治療の両立について相談できるスタッフはいますか。（複数回答）

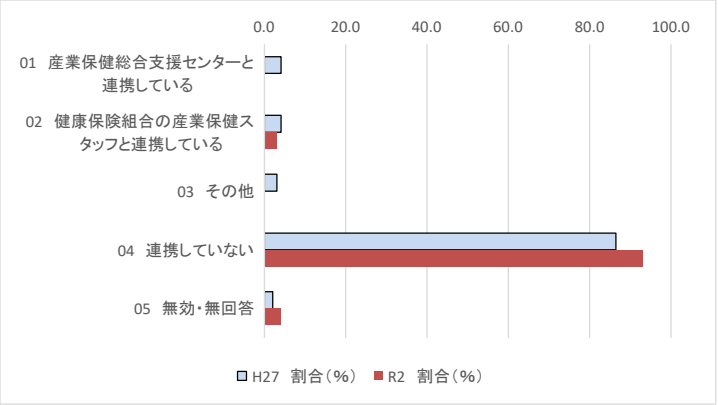
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　専属の産業医	16	5.3	10	3.0
02　嘱託の産業医	28	9.2	26	7.9
03　産業保健師	2	0.7	12	3.6
04　産業看護師	2	0.7	2	0.6
05　社会保険労務士	40	13.2	44	13.4
06　福利厚生部門	6	2.0	10	3.0
07　人事担当	87	28.6	99	30.1
08　その他	27	8.9	27	8.2
09　いない	96	31.6	99	30.1
総計	304	100.0	329	100.0



仕事と治療の両立について相談できるスタッフがいるかについては、「人事担当」と「いない」がともに30．1%、「社会保険労務士」が13．4%であった。
前回調査と比較して、「産業保健師」が2．9ポイント上昇し、「専属の産業医」が2．3ポイント減少した。

問7－①　問7で「09　いない」を選んだ場合、仕事と治療の両立について相談できる外部の産業保健スタッフと連携をしているかどうかについてお答えください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　産業保健総合支援センターと連携している	4	4.2	0	0.0
02　健康保険組合の産業保健スタッフと連携している	4	4.2	3	3.0
03　その他	3	3.1	0	0.0
04　連携していない	83	86.5	92	92.9
05　無効・無回答	2	2.1	4	4.0
総計	96	100.0	99	100.0

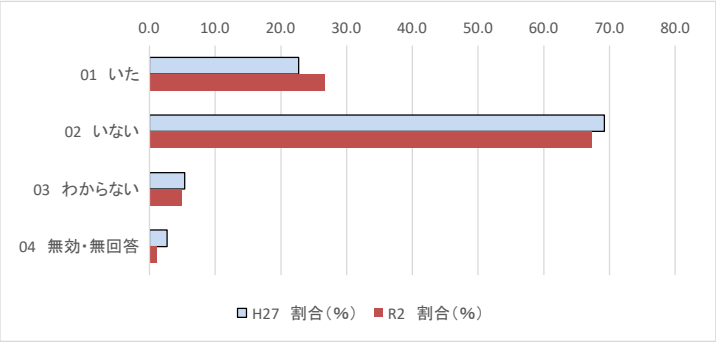


外部の産業保健スタッフと連携しているかどうかについては、「連携していない」が92．9%、「健康保険組合の産業保健スタッフと連携している」が3．0%であった。
前回調査と比較して、「連携していない」が6．4ポイント上昇し、「健康保険組合の産業保健スタッフと連携している」が1．2ポイント減少した。

問8　過去3年間を振り返って、がんに罹患した従業員はいましたか。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　いた	59	22.7	71	26.7
02　いない	180	69.2	179	67.3
03　わからない	14	5.4	13	4.9
04　無効・無回答	7	2.7	3	1.1
総計	260	100.0	266	100.0

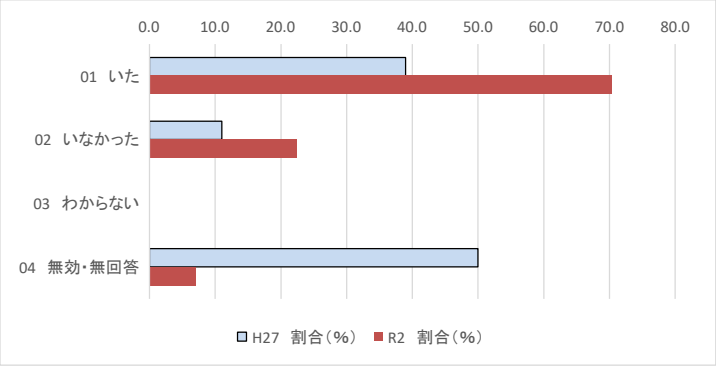
過去3年間のうち、がんに罹患した従業員がいたかについては、「いない」が67．3%、「いた」が26．7%であった。
前回調査と比較して、「いた」が4．0ポイント上昇し、「いない」が1．9ポイント減少した。



問8－①　過去3年間で、がんの治療や療養のために1か月以上連続して休職・休業した従業員はいましたか。いた場合、その復職状況についてお答えください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　いた	46	39.0	50	70.4
02　いなかった	13	11.0	16	22.5
03　わからない	0	0.0	0	0.0
04　無効・無回答	59	50.0	5	7.0
総計	118	100.0	71	100.0

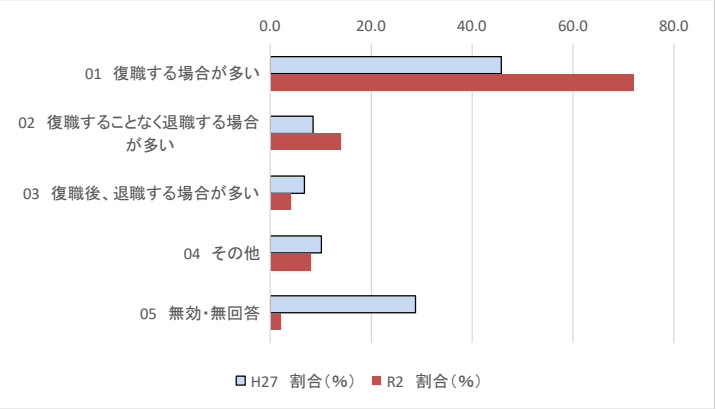
過去3年間のうち、がんの治療や療養のために1か月以上連続して休職・休業した従業員がいたかについては、「いた」が70．4%、「いなかった」が22．5%であった。
前回調査と比較して、「いた」が31．4ポイント、「いなかった」が11．5ポイント上昇した。



【1か月以上連続して休職・休業した従業員の復職状況】

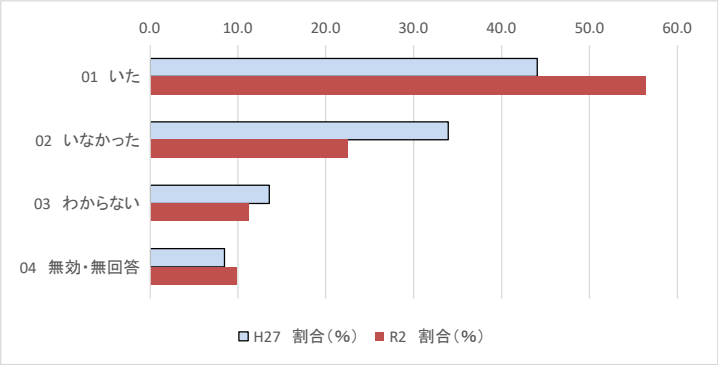
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　復職する場合が多い	27	45.8	36	72.0
02　復職することなく退職する場合が多い	5	8.5	7	14.0
03　復職後、退職する場合が多い	4	6.8	2	4.0
04　その他	6	10.2	4	8.0
05　無効・無回答	17	28.8	1	2.0
総計	59	100.0	50	100.0

過去3年間のうち、がんの治療や療養のために1か月以上連続して休職・休業した従業員がいた場合の復職状況については、「復職する場合が多い」が72．0%、「復職することなく退職する場合が多い」が14．0%であった。
前回調査と比較して、「復職する場合が多い」が26．2ポイント、「復職することなく退職する場合が多い」が5．5ポイント上昇した。



問8－②　過去3年間で、従業員ががんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある従業員はいましたか。いた場合、法人としてどのような対応をしていますか。

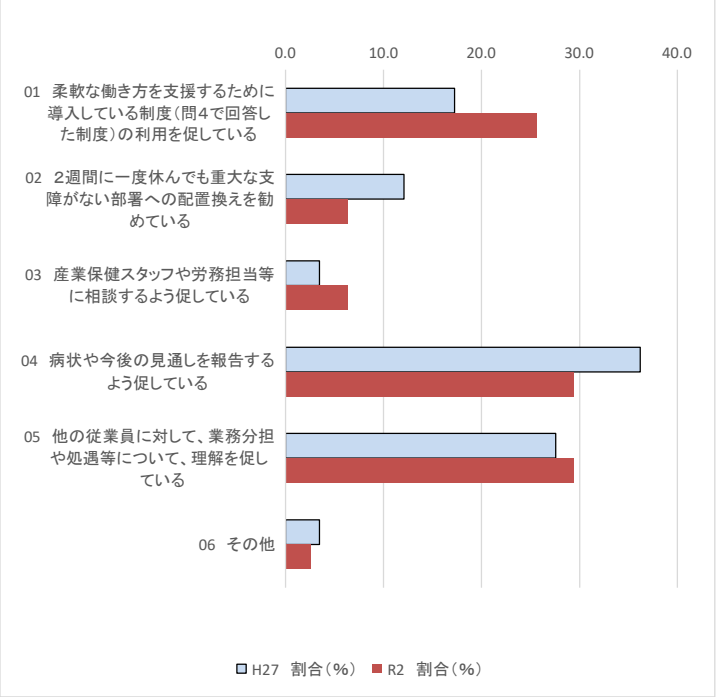
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　いた	26	44.1	40	56.3
02　いなかった	20	33.9	16	22.5
03　わからない	8	13.6	8	11.3
04　無効・無回答	5	8.5	7	9.9
総計	59	100.0	71	100.0



過去3年間のうち、がんの治療や療養のために1か月以上連続して休職・休業した従業員がいた場合で、2週間に一度程度病院に通う必要がある従業員がいたかについては、「いた」が56．3%、「いかなかった」が22．5%であった。
前回調査と比較して、「いた」が12．2ポイント上昇し、「いなかった」が11．4ポイント減少した。

【2週間に一度程度病院に通う必要がある従業員への法人としての対応（複数回答）】

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　柔軟な働き方を支援するために導入している制度（問4で回答した制度）の利用を促している	10	17.2	20	25.6
02　2週間に一度休んでも重大な支障がない部署への配置換えを勧めている	7	12.1	5	6.4
03　産業保健スタッフや労務担当等に相談するよう促している	2	3.4	5	6.4
04　病状や今後の見通しを報告するよう促している	21	36.2	23	29.5
05　他の従業員に対して、業務分担や処遇等について、理解を促している	16	27.6	23	29.5
06　その他	2	3.4	2	2.6
総計	58	100.0	78	100.0

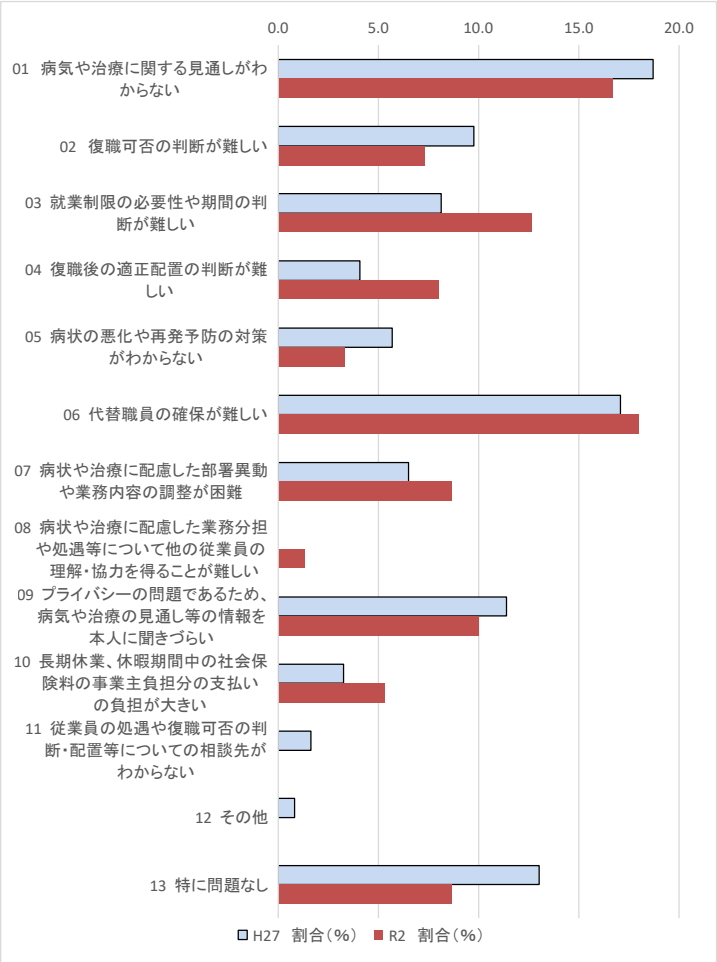


過去3年間のうち、がんの治療や療養のために1か月以上連続して休職・休業した従業員がいた場合で、2週間に一度程度病院に通う必要がある従業員への法人としての対応については、「病状や今後の見通しを報告するよう促している」、「他の従業員に対して、業務分担や処遇等について、理解を促している」がともに29．5%、「柔軟な働き方を支援するために導入している制度の利用を促している」が25．6%であった。
前回調査と比較して、「柔軟な働き方を支援するために導入している制度の利用を促している」が8．4ポイント上昇し、「病状や今後の見通しを報告するよう促している」が6．7ポイント減少した。

問８－③　従業員ががんになった際、当該従業員の適正配置や雇用管理等について、対応に苦慮したところはありましたか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　病気や治療に関する見通しがわからない	23	18.7	25	16.7
02　復職可否の判断が難しい	12	9.8	11	7.3
03　就業制限の必要性や期間の判断が難しい	10	8.1	19	12.7
04　復職後の適正配置の判断が難しい	5	4.1	12	8.0
05　病状の悪化や再発予防の対策がわからない	7	5.7	5	3.3
06　代替職員の確保が難しい	21	17.1	27	18.0
07　病状や治療に配慮した部署異動や業務内容の調整が困難	8	6.5	13	8.7
08　病状や治療に配慮した業務分担や処遇等について他の従業員の理解・協力を得ることが難しい	0	0.0	2	1.3
09　プライバシーの問題であるため、病気や治療の見通し等の情報を本人に聞きづらい	14	11.4	15	10.0
10　長期休業、休暇期間中の社会保険料の事業主負担分の支払いの負担が大きい	4	3.3	8	5.3
11　従業員の処遇や復職可否の判断・配置等についての相談先がわからない	2	1.6	0	0.0
12　その他	1	0.8	0	0.0
13　特に問題なし	16	13.0	13	8.7
総計	123	100.0	150	100.0

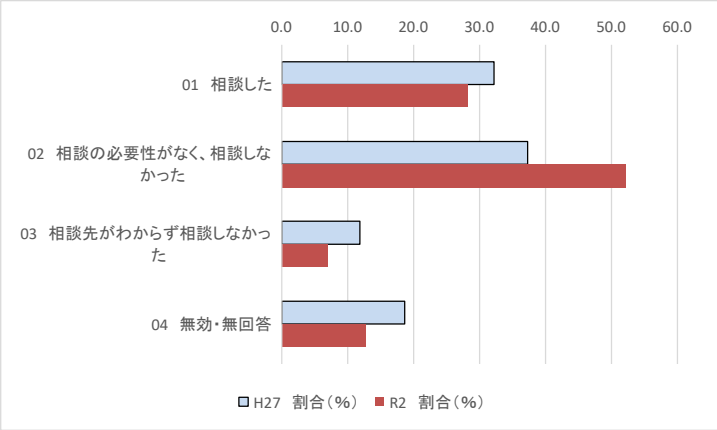
過去３年間のうち、がんの治療や療養のために1か月以上連続して休職・休業した従業員がいた場合で、当該従業員の適正配置や雇用管理等について、対応に苦慮した点については、「代替職員の確保が難しい」が１８．０%、「病気や治療に関する見通しがわからない」が１６．７%、「就業制限の必要性や期間の判断が難しい」が１２．７%であった。
前回調査と比較して、「就業制限の必要性や期間の判断が難しい」が4．6ポイント、「復職後の適正配置の判断が難しい」が3．9ポイント上昇し、「復職可否の判断が難しい」が2．5ポイント、「病状の悪化や再発予防の対策がわからない」が2．4ポイント減少した。



問８－④　対応に苦慮したことについて、誰かに相談をしましたか。相談した場合、相談先を教えてください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　相談した	19	32.2	20	28.2
02　相談の必要性がなく、相談しなかった	22	37.3	37	52.1
03　相談先がわからず相談しなかった	7	11.9	5	7.0
04　無効・無回答	11	18.6	9	12.7
総計	59	100.0	71	100.0

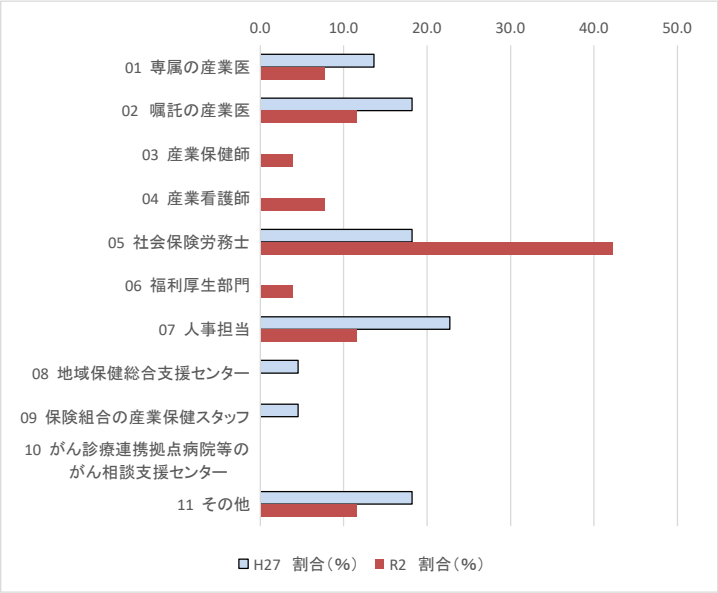
過去３年間のうち、がんの治療や療養のために1か月以上連続して休職・休業した従業員がいた場合で、対応に苦慮した点について誰かに相談をしたかについては、「相談の必要性がなく、相談しなかった」が52．1%、「相談した」が28．2%であった。
前回調査と比較して、「相談の必要性がなく、相談しなかった」が１４．８ポイント上昇し、「相談先がわからず相談しなかった」が4．9ポイント減少した。



【相談先（複数回答）】

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　専属の産業医	3	13.6	2	7.7
02　嘱託の産業医	4	18.2	3	11.5
03　産業保健師	0	0.0	1	3.8
04　産業看護師	0	0.0	2	7.7
05　社会保険労務士	4	18.2	11	42.3
06　福利厚生部門	0	0.0	1	3.8
07　人事担当	5	22.7	3	11.5
08　地域保健総合支援センター	1	4.5	0	0.0
09　保険組合の産業保健スタッフ	1	4.5	0	0.0
10　がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター	0	0.0	0	0.0
11　その他	4	18.2	3	11.5
総計	22	100.0	26	100.0

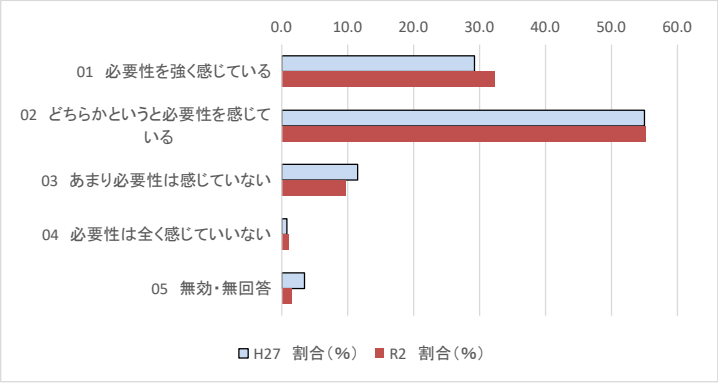
過去3年間のうち、がんの治療や療養のために1か月以上連続して休職・休業した従業員がいた場合で、対応に苦慮した点について相談した先については、「社会保険労務士」が42．3%、「嘱託の産業医」、「人事担当」が11．5%であった。
前回調査と比較して、「社会保険労務士」が24．1ポイント、「産業看護師」が7．7ポイント、「産業保健師」と「福利厚生部門」がともに3．8ポイント上昇し、「人事担当」が11．2ポイント減少した。



問9　貴法人では、今後、病気にあった後も安心して働き続けられるよう、仕事と治療の両立が実現できる職場づくりが必要になると思いますか。

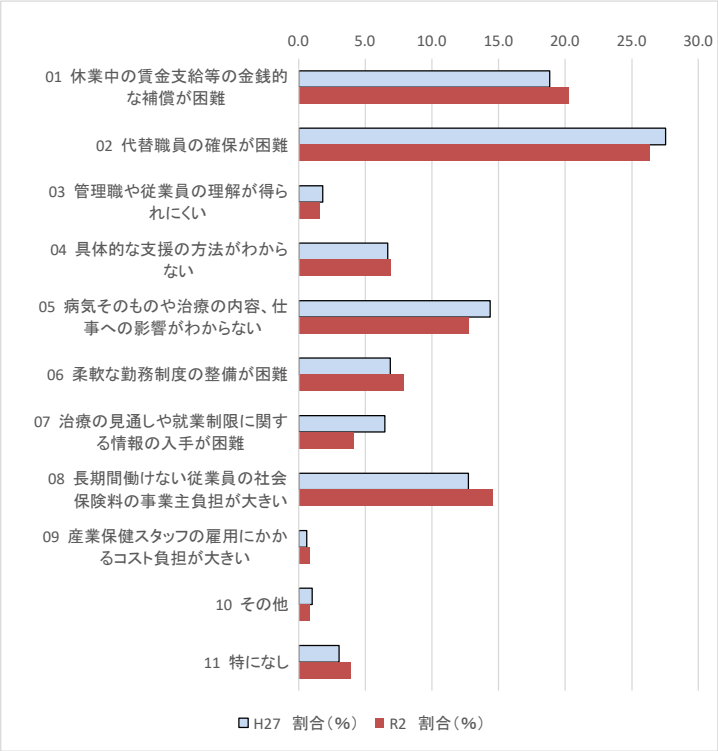
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　必要性を強く感じている	76	29.2	86	32.3
02　どちらかというと必要性を感じている	143	55.0	147	55.3
03　あまり必要性は感じていない	30	11.5	26	9.8
04　必要性は全く感じていいない	2	0.8	3	1.1
05　無効・無回答	9	3.5	4	1.5
総計	260	100.0	266	100.0

仕事と治療の両立が実現できる職場づくりが必要になると思うかについては、「どちらかというと必要性を感じている」が55．3%、「必要性を強く感じている」が32．3%であった。
前回調査と比較して、「必要性を強く感じている」が3．1ポイント上昇し、「あまり必要性は感じていない」が1．7ポイント減少した。



問10　貴法人において、従業員の仕事と治療の両立が実現可能な職場づくりを進める上での課題は何ですか。（複数回答）

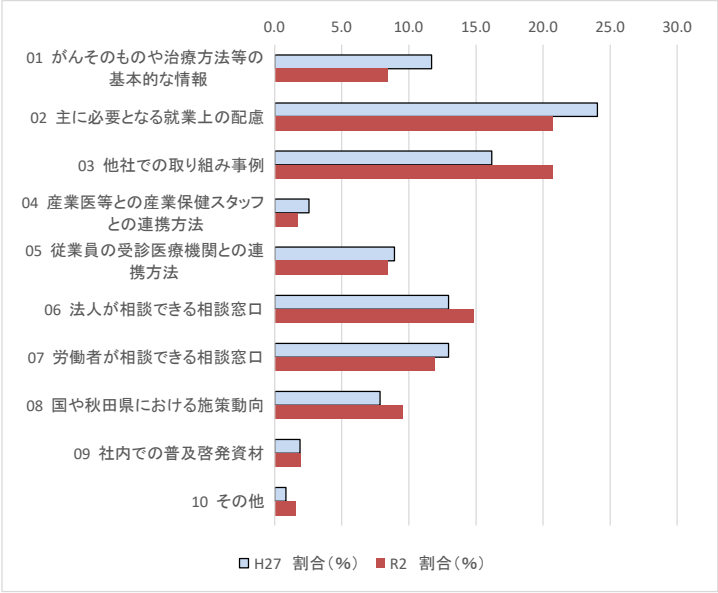
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難	93	18.8	103	20.3
02　代替職員の確保が困難	136	27.5	134	26.4
03　管理職や従業員の理解が得られにくい	9	1.8	8	1.6
04　具体的な支援の方法がわからない	33	6.7	35	6.9
05　病気そのものや治療の内容、仕事への影響がわからない	71	14.4	65	12.8
06　柔軟な勤務制度の整備が困難	34	6.9	40	7.9
07　治療の見通しや就業制限に関する情報の入手が困難	32	6.5	21	4.1
08　長期間働けない従業員の社会保険料の事業主負担が大きい	63	12.8	74	14.6
09　産業保健スタッフの雇用にかかるコスト負担が大きい	3	0.6	4	0.8
10　その他	5	1.0	4	0.8
11　特になし	15	3.0	20	3.9
総計	494	100.0	508	100.0



仕事と治療の両立が実現可能な職場づくりを進める上での課題については、「代替職員の確保が困難」が26．4%、「休職中の賃金支給等の金銭的な補償が困難」が20．3%であった。
前回調査と比較して、「長時間働けない従業員の社会保険料の事業主負担が大きい」が1．8ポイント、「休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難」が1．5ポイント上昇し、「治療の見通しや就業制限に関する情報の入手が困難」が2．4ポイント、「病気そのものや治療の内容、仕事への影響がわからない」が1．6ポイント減少した。

問11　今後、より多くの法人において、がんに罹患した従業員の仕事と治療の両立が図られることを目的として行政（秋田県）が普及啓発事業を進める場合、法人として特に知りたい内容や、普及啓発・情報提供・相談支援の方法として希望するものに〇をつけてください。（複数回答）
【普及啓発･情報提供・相談支援の内容】

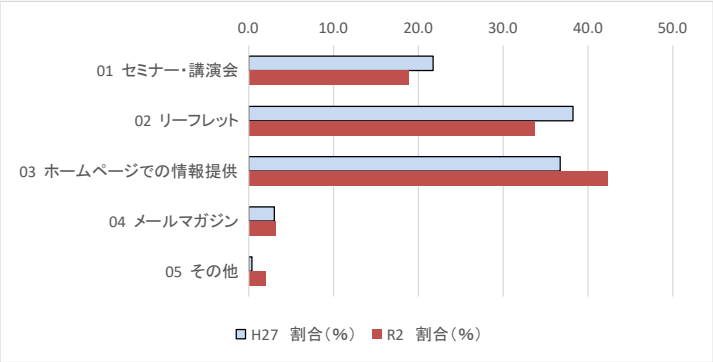
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　がんそのものや治療方法等の基本的な情報	55	11.7	43	8.4
02　主に必要となる就業上の配慮	113	24.0	106	20.7
03　他社での取り組み事例	76	16.2	106	20.7
04　産業医等との産業保健スタッフとの連携方法	12	2.6	9	1.8
05　従業員の受診医療機関との連携方法	42	8.9	43	8.4
06　法人が相談できる相談窓口	61	13.0	76	14.9
07　労働者が相談できる相談窓口	61	13.0	61	11.9
08　国や秋田県における施策動向	37	7.9	49	9.6
09　社内での普及啓発資材	9	1.9	10	2.0
10　その他	4	0.9	8	1.6
総計	470	100.0	511	100.0



行政が普及啓発事業を進める場合、法人として知りたい内容については、「主に必要となる就業上の配慮」と「他社での取り組み事例」がともに20．7%であった。「法人が相談できる相談窓口」が14．9%であった。
前回調査と比較して、「他社での取り組み事例」が4．5ポイント上昇し、「がんそのものや治療法等の基本的な情報」と「主に必要となる就業上の配慮」がともに3．3ポイント減少した。

【普及啓発・情報提供の形態】

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　セミナー・講演会	58	21.7	48	18.8
02　リーフレット	102	38.2	86	33.7
03　ホームページでの情報提供	98	36.7	108	42.4
04　メールマガジン	8	3.0	8	3.1
05　その他	1	0.4	5	2.0
総計	267	100.0	255	100.0



行政が普及啓発事業を進める場合の普及啓発・情報提供の形態については、「ホームページでの情報提供」が42．4%、「リーフレット」が33．7%であった。

前回調査と比較して、「ホームページでの情報提供」が5．7ポイント上昇し、「リーフレット」が4．5ポイント減少した。

問12　その他、がんに罹患した従業員の仕事と治療の両立について、御意見や普段お考えのこと、法人内での問題意識、行政に希望する施策・支援があれば御自由に記入ください。

【希望する施策・支援】（10件）

罹患した従業員への金銭的な支援があればよい。
復帰までの雇用維持給付金等の支援制度があれば長期間の所得、身分保障の検討をする事ができる。合わせて健康保険料の本人、企業負担の免除等（その時の提出書類の簡素化）
がんに罹患した従業員に賃金支給が困難な場合の助成制度。
金銭面の支援。
何らかの支援は絶対に必要。
仕事との両立をする上で気をつけなければならないことが知りたい。体制整備する代替要員に対する補助等が知りたい。無い場合は中小企業用に作ってほしい。
小さな企業に何らかの支援があればいい。
先進治療を受けられるよう整備してほしい。
国、県で金銭的な支援等など、明確でわかりやすく情報提供してほしい。
病気を理解し受け入れる環境づくりと相談窓口へ向かうハードルを下げてほしい。

【意見や普段考えていること】（9件）

がんにかからないためにも常に健康に留意してほしい。その為には日頃から職場でも本人も正しい生活態度で頑張ってほしい。
今、コロナの影響で公的な援助が全く受けられない業種である事を知らされた。今まで真面目に協力して来た事が無意味に感じている。行政には頼れない。
病気の程度により、通院・入院・治療期間が様々であり、プライバシーの問題と本人家族にとってもデリケートな部分が多く、本人の希望に沿う形で休職退職の判断になるが、会社としては柔軟に対応する。しかしながら、人員不足で他に迷惑をかけないよう、また病気の公表を避ける目的で静かに退職する傾向にある。
アンケート用紙の質問について、デスクワークの質問内容が多いため、もっと分かりやすくしてほしい。
本人のメンタル面に気を使うため、家族からの聞きとりの方が良いのではないかと考えた。家族も含めた相談が必要と考えた。
従業員の仕事に対する意欲に応じ対応したい。
特に20代で（病気との戦いで）将来展望に暗い考えしか持たない人には、身近な人の支えが大切。その為にも、会社のトップは本人の病気の内容を知ることが大事。体調の良い時は普通に働けるため、仕事の内容を前向きに考えていきたい。
当方は医療機関であり、ケースバイケースで本人の希望に添って対応できるようにしたいと考えている。
通院や放射線療法などの時間を確保し、治療を受けやすい環境を整えている。今後も、働きながら治療を受けられる両立支援を個別に対応していきたいと思っている。

【法人内での問題意識】（5件）

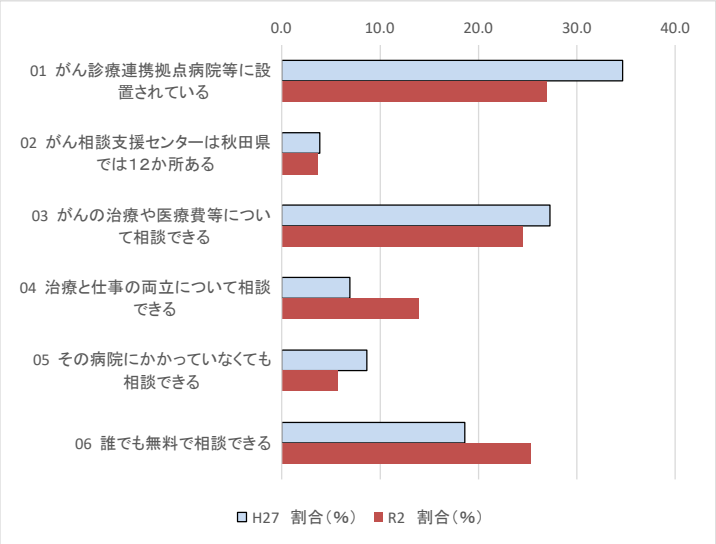
罹患して、治療する頃には就労できる体力が無いような気がするため、支援するにも限度があり、実際のところ働きながらの治療は無理がある。
現場が主の仕事なため、仕事と治療の両立は難しい。
できるだけ柔軟な取組みをしていきたいと考えてはいるが、今後の仕事への影響・本人の体調への配慮等に不安が残る。
本人にとっても治療を始めてみないと分からない事があると思われ、休業期間を定めるのが難しい。
今年の1月から7月現在まで治療中の正社員がおり、本人は復職を希望している。当社の就業規則では、主治医から復帰が不可の意見書がなければ解雇できないことになっている。本人からは、主治医が復帰可能と言っていると聞いている。法人はこの様な場合にどこに相談したらいいのか教えてほしい。

【その他】（2件）

本部事務局所属であり、法人の衛生管理者である私が、がんに罹患してしまい、まわりの職員に迷惑をかけた。治療しながらの仕事復帰には理解があり、働きやすい法人である。
私は、経営者であるが、5年前と現在の2度がん治療を経験した。22年前事業を始めて、3ヶ月目に従業員ががんになり手術、放射線、化学療法と約2ヶ月間治療を要し、体調の良い時は出社をして、現在も主力戦力として勤務している。

問13　あなた（記入者様）が、がん相談支援センターについて知っていたものに○をつけてください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　がん診療連携拠点病院等に設置されている	80	34.6	66	26.9
02　がん相談支援センターは秋田県では12か所ある	9	3.9	9	3.7
03　がんの治療や医療費等について相談できる	63	27.3	60	24.5
04　治療と仕事の両立について相談できる	16	6.9	34	13.9
05　その病院にかかっていなくても相談できる	20	8.7	14	5.7
06　誰でも無料で相談できる	43	18.6	62	25.3
総計	231	100.0	245	100.0



がん相談支援センターについて知っているものについては、「がん診療連携拠点病院等に設置されている」が26．9%、「誰でも無料で相談できる」が25．3%、「がんの治療や医療費等について相談できる」が24．5%であった。

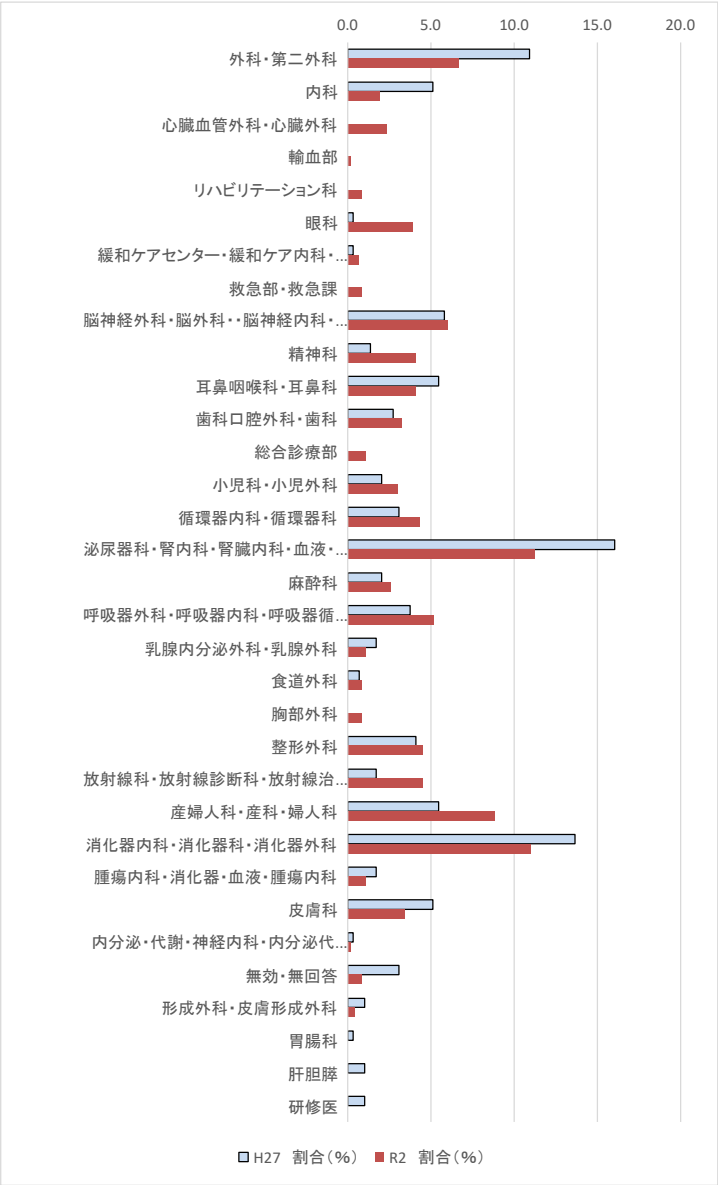
前回調査と比較して、「治療と仕事の両立について相談できる」が7．0ポイント、「がん診療連携拠点病院等に設置されている」が7．7ポイント減少した。

Ⅱ　調査結果

３　医師用アンケート

所属診療科

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
外科・第二外科	32	10.9	31	6.7
内科	15	5.1	9	1.9
心臓血管外科・心臓外科	0	0.0	11	2.4
輸血部	0	0.0	1	0.2
リハビリテーション科	0	0.0	4	0.9
眼科	1	0.3	18	3.9
緩和ケアセンター・緩和ケア内科・緩和ケア科	1	0.3	3	0.6
救急部・救急課	0	0.0	4	0.9
脳神経外科・脳外科・・脳神経内科・神経内科	17	5.8	28	6.0
精神科	4	1.4	19	4.1
耳鼻咽喉科・耳鼻科	16	5.5	19	4.1
歯科口腔外科・歯科	8	2.7	15	3.2
総合診療部	0	0.0	5	1.1
小児科・小児外科	6	2.0	14	3.0
循環器内科・循環器科	9	3.1	20	4.3
泌尿器科・腎内科・腎臓内科・血液・腎臓内科・血液内科・腎臓内科リウマチ・腎泌尿器科	47	16.0	52	11.2
麻酔科	6	2.0	12	2.6
呼吸器外科・呼吸器内科・呼吸器循環器内科	11	3.8	24	5.2
乳腺内分泌外科・乳腺外科	5	1.7	5	1.1
食道外科	2	0.7	4	0.9
胸部外科	0	0.0	4	0.9
整形外科	12	4.1	21	4.5
放射線科・放射線診断科・放射線治療科	5	1.7	21	4.5
産婦人科・産科・婦人科	16	5.5	41	8.8
消化器内科・消化器科・消化器外科	40	13.7	51	11.0
腫瘍内科・消化器・血液・腫瘍内科	5	1.7	5	1.1
皮膚科	15	5.1	16	3.4
内分泌・代謝・神経内科・内分泌代謝内科	1	0.3	1	0.2
無効・無回答	9	3.1	4	0.9
形成外科・皮膚形成外科	3	1.0	2	0.4
胃腸科	1	0.3	0	0.0
肝胆膵	3	1.0	0	0.0
研修医	3	1.0	0	0.0
総計	293	100.0	464	100.0

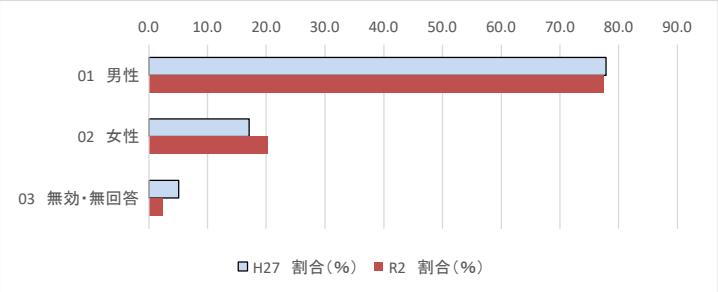


最も多い所属診療科は泌尿器・腎内科等の52人（11．2%）、次いで消化器内科・外科等の51人（11．0%）、産婦人科等の41人（8．8%）であった。

前回調査と比較して、眼科が3．6ポイント、産婦人科等が3．3ポイント上昇し、泌尿器・腎内科等が4．8ポイント、外科・第二外科等が4．2ポイント減少した。

性別

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　男性	228	77.8	359	77.4
02　女性	50	17.1	94	20.3
03　無効・無回答	15	5.1	11	2.4
総計	293	100.0	464	100.0



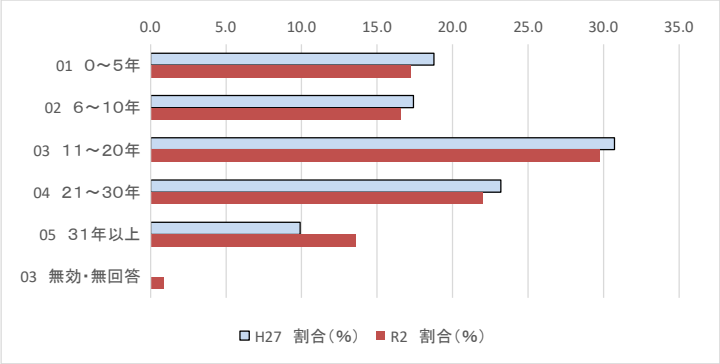
回答医師の性別については、男性医師が359人（77．4%）、女性医師が94人（20．3%）であった。

前回調査と比較して、女性が3．2ポイント上昇し、男性が0．4ポイント減少した。

医師経験年数

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　0～5年	55	18.8	80	17.2
02　6～10年	51	17.4	77	16.6
03　11～20年	90	30.7	138	29.7
04　21～30年	68	23.2	102	22.0
05　31年以上	29	9.9	63	13.6
03　無効・無回答	0	0.0	4	0.9
総計	293	100.0	464	100.0

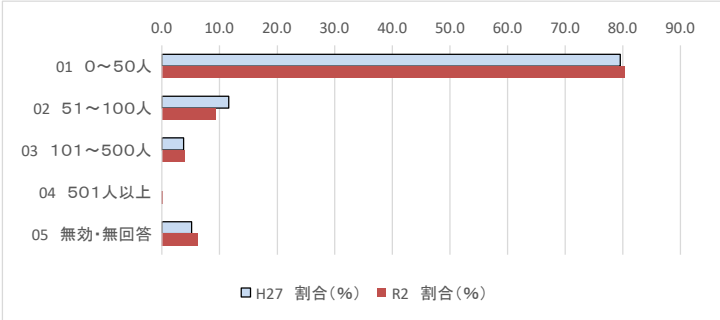
医師経験年数については、11～20年が29．7%、21～30年が22．0%であった。
前回調査と比較して31年以上が3．7ポイント上昇した。



月間診療がん患者数

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　0～50人	233	79.5	373	80.4
02　51～100人	34	11.6	43	9.3
03　101～500人	11	3.8	18	3.9
04　501人以上	0	0.0	1	0.2
05　無効・無回答	15	5.1	29	6.3
総計	293	100.0	464	100.0

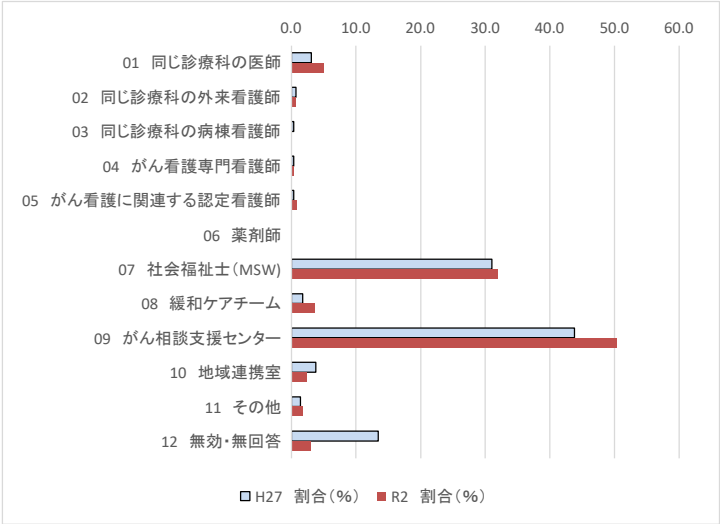
月間診療がん患者数については、0～50人が80．4%であった。
前回調査と比較して、0～50人が0．9ポイント上昇し、51人～100人が2．3ポイント減少した。



問1　あなたは、病院内でがん患者の経済的な事についての相談や支援を行う場合、どの部門・スタッフに紹介・連携するのが適切だと考えますか。
一つ選んでください。

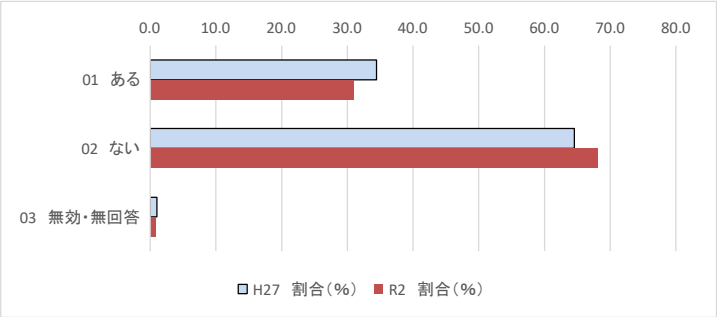
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　同じ診療科の医師	9	3.1	23	5.0
02　同じ診療科の外来看護師	2	0.7	3	0.6
03　同じ診療科の病棟看護師	1	0.3	0	0.0
04　がん看護専門看護師	1	0.3	2	0.4
05　がん看護に関連する認定看護師	1	0.3	4	0.9
06　薬剤師	0	0.0	0	0.0
07　社会福祉士（MSW）	90	31.0	148	31.9
08　緩和ケアチーム	5	1.7	17	3.7
09　がん相談支援センター	127	43.8	234	50.4
10　地域連携室	11	3.8	11	2.4
11　その他	4	1.4	8	1.7
12　無効・無回答	39	13.4	14	3.0
総計	290	100.0	464	100.0

患者の経済的な事について相談や支援を行う場合、どの部門・スタッフに紹介・連携するのが適切だと考えるかについては、「がん相談支援センター」が50．4%と最も多く、次いで「社会福祉士（MSW）」が31．9%であった。
前回調査と比較して、「がん相談支援センター」が6．6ポイント上昇した。



問2　あなたは、がん患者から治療と就労の両立に関して相談を受けたことがありますか。ある場合、具体的な相談内容を教えてください。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　ある	101	34.5	144	31.0
02　ない	189	64.5	316	68.1
03　無効・無回答	3	1.0	4	0.9
総計	293	100.0	464	100.0



治療と就労の両立に関して相談を受けたことがあるかについては、「ない」と答えた医師が68．1%、「ある」と答えた医師が31．0%であった。
前回調査と比較して、「ない」が3．6ポイント上昇し、「ある」が3．5ポイント減少した。

問2 （具体的な相談内容）自由記載

【治療と就労、社会参加について】（41件）

治療（検査）を受けながら就労ができるかどうか。（25件）
治療をしながら働きたい。治療前と同じように働きたい。（5件）
放射線治療や化学療法のスケジュールと就労の両立について。（2件）
病気によりADLが低下している状態での就労。
口腔がん手術後、QOLが低下し、仕事に支障が出ている。食事のあと、毎回口の中の汚れをとっているため、大変である。
現在の就労を継続しながらの最良のがん治療の在り方について。
車椅子移動での就労について。
治療の有害事象と労務内容の兼ね合いについて。
診断書の作成など。
副作用が就労に与える影響。
化学療法と仕事と会社のかかわりについて。
治療のための休みのとりかたなど。

【就労や家業の継続・可否について】（39件）

治療中、手術後に仕事や家業を続けられるか。（16件）
仕事を続けるべきか、辞めるべきか。（14件）
治療を受けながら、いつまで仕事が続けられるか。（3件）
就労可能かどうか。（3件）
治療中、治療後も、今の仕事と同じ働き方ができるかどうか。（2件）
仕事の継続について、できるだけ仕事を辞めないよう指導。

【仕事内容、休業に関することについて】（28件）

どのような仕事内容（就労制限等）であれば就労できるか。（12件）
就労可能時期について（7件）
仕事の変更や休業（期間）などについて。（4件）
感染リスクにおける業務内容について。（2件）
勤務時間の調整など。
どの程度働けるか。仕事内容の変更の希望、休みについて。就労の障害(見えない偏見、就職難について)。
配置変換して軽作業の部門に変更してもらったら良いかなど。

【治療、副作用、体力面について】（25件）

治療を継続するうえでの体力的問題。（2件）
外来での放射線治療、化学療法を希望したい。（2件）
入院期間を調整してほしい。外来を〇曜日にして欲しい等。
外来受診日数の削減は可能か。抗がん剤投与中、産業医に就業制限されてしまうので治療をやめたいなど。
自営業の患者の入院化学療法の予定について。
就労を優先した場合の治療法について。
仕事の為に週1回の抗がん剤点滴ではなく、内服で治療したい。
手足を使う仕事だったため、化学療法の選択の際にL-OHP(オキサリプラチン)を選択しなかった。
抗がん剤の選択時に休みのタイミングに合わせてで可能なレジメンを選択したことがある。
治療時間の相談。送迎してくれる家族にあわせて治療を受けたい。
化学療法後の倦怠感、しびれなどの対処方法。
再発徴候の無い方で、足リンパ浮腫のため、長時間の（立位、座位）身体への不安など。
仕事を休みたくないため、なるべく通院の少ない治療にしてほしい。
自営業の方で化学療法と仕事の両立を希望され、weeklyでなく、monthlyの治療レジメンとした。
仕事のシフトが1か月前に決まるが、入院化学療法のため合わせるのが難しい。治療の間隔をあけられないか。
通院の回数、1回あたりの所要時間。
退職後の就職が決まっているが、手術等どうしたらよいか。
就労との関係で、発声機能の保存の可否について。
疼痛強く、就労が困難である。
まもなく退職だがそれまで治療がまてるか。
有害事象等。
免疫について。
易感染について。

【金銭的な問題について】（13件）

入院中、退院後の医療費について（高額な治療が受けられない等）。（7件）
経済的な不安について（経済的な理由で仕事を休めない等）。（5件）
休業補償など。

【退職、解雇について】（7件）

がんの再発が分かり、解雇された。
術後、就労可能と考えられる症例であったが、解雇された方。
休み（治療）が長くなった際、仕事を辞めなければならないなど。
頻繁に外来通院、入院の必要性が生じると解雇される恐れありなど。
経済的に就労を継続したいが、治療に専念することになると就労をあきらめないといけない（解雇されてしまう）。
仕事を辞めて治療に専念すべきかどうか。
退職などについて。

【復職について】（6件）

復職できるかどうか。（4件）
復職後の働き方や注意点について（2件）

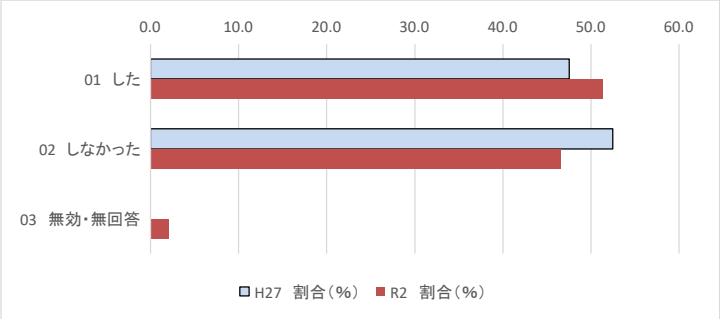
【その他】（2件）

化学療法が終わっているにもかかわらず、このまま定年まで診断書で休職したいため、診断書を書いてほしいと言われた。元気そうだが症状は患者にしか分からないため、仕方なく何回も書いた。
大切な仕事があり、治療を開始できない。

問3　問2で相談を受けたことがある場合、他の病院スタッフに紹介・連携しましたか。

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　した	48	47.5	74	51.4
02　しなかった	53	52.5	67	46.5
03　無効・無回答	0	0.0	3	2.1
総計	101	100.0	144	100.0

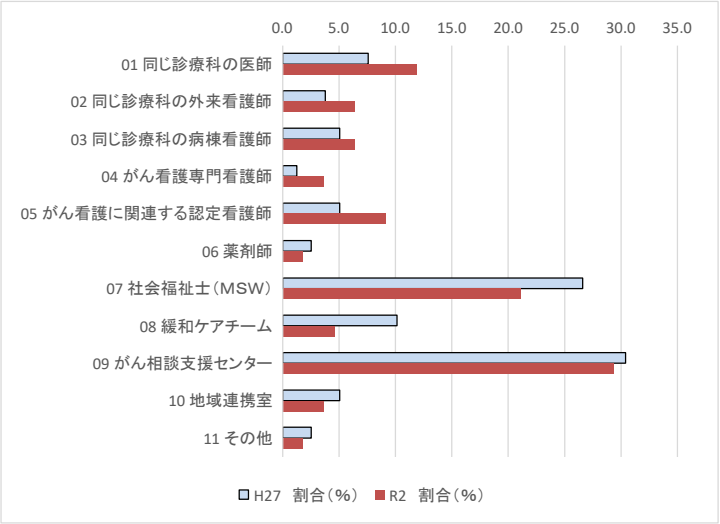
相談を受けたことがある場合、他の病院スタッフに紹介・連携したかについては、「した」と答えた医師が51．4%、「しなかった」と答えた医師が46．5%であった。
前回調査と比較して、「した」が3．9ポイント上昇し、「しなかった」が6．0ポイント減少した。



問4－①　問3で他の病院スタッフに紹介・連携した方への質問です。その紹介先を教えてください。（複数回答）

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01 同じ診療科の医師	6	7.6	13	11.9
02 同じ診療科の外来看護師	3	3.8	7	6.4
03 同じ診療科の病棟看護師	4	5.1	7	6.4
04 がん看護専門看護師	1	1.3	4	3.7
05 がん看護に関連する認定看護師	4	5.1	10	9.2
06 薬剤師	2	2.5	2	1.8
07 社会福祉士（MSW）	21	26.6	23	21.1
08 緩和ケアチーム	8	10.1	5	4.6
09 がん相談支援センター	24	30.4	32	29.4
10 地域連携室	4	5.1	4	3.7
11 その他	2	2.5	2	1.8
計	79	100.0	109	100.0

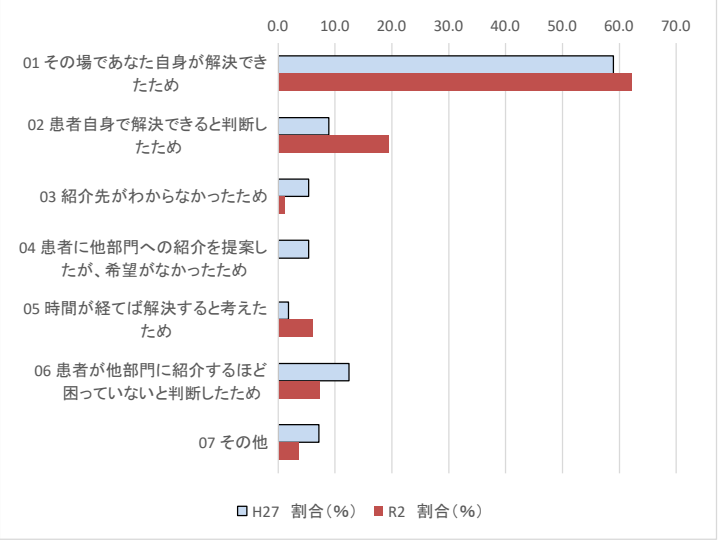
他の病院スタッフに紹介・連携した場合の紹介先については、「がん相談支援センター」が29．4%、「社会福祉士（MSW)」が21．1%であった。
前回調査と比較して、「同じ診療科の医師」が4．3ポイント、「がん看護に関連する認定看護師」が4．1ポイント上昇し、「社会福祉士（MSW)」、「緩和ケアチーム」がともに5．5ポイント減少した。



問4－②　問3で他の病院スタッフに紹介・連携しなった方への質問です。紹介・連携しなかった理由を教えてください。（複数回答）

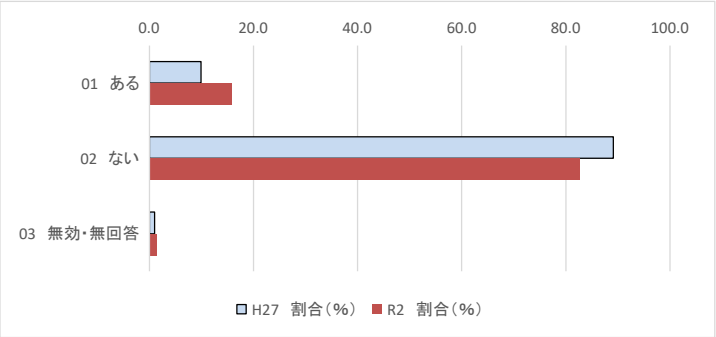
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01 その場であなた自身が解決できたため	33	58.9	51	62.2
02 患者自身で解決できると判断したため	5	8.9	16	19.5
03 紹介先がわからなかったため	3	5.4	1	1.2
04 患者に他部門への紹介を提案したが、希望がなかったため	3	5.4	0	0.0
05 時間が経てば解決すると考えたため	1	1.8	5	6.1
06 患者が他部門に紹介するほど困っていないと判断したため	7	12.5	6	7.3
07 その他	4	7.1	3	3.7
計	56	100.0	82	100.0

他の病院スタッフに紹介・連携しなかった理由については、「その場であなた自身が解決できたため」が62．2%、「患者自身で解決できると判断したため」が19．5%であった。
前回調査と比較して、「患者自身で解決できると判断したため」が10．6ポイント上昇し、「患者に他部門への紹介を提案したが、希望がなかったため」が5．4ポイント減少した。



問5　あなたは、がん患者の治療と就労の両立について、患者の勤務先の人と面談したことはありますか。

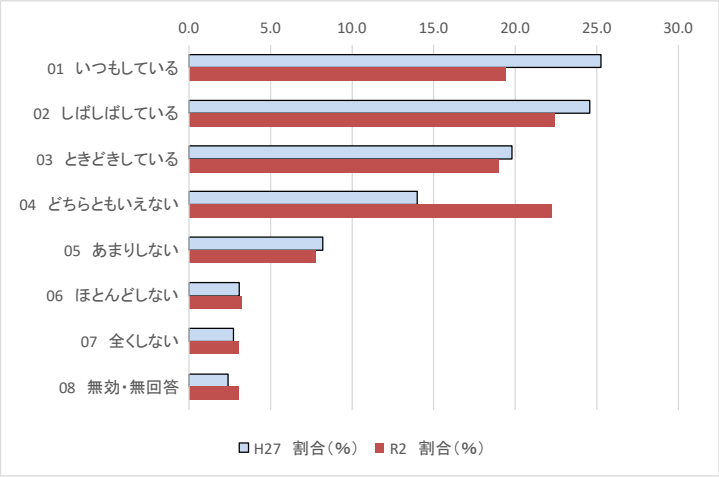
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　ある	10	9.9	23	16.0
02　ない	90	89.1	119	82.6
03　無効・無回答	1	1.0	2	1.4
総計	101	100.0	144	100.0



がん患者の治療と就労の両立について、患者の勤務先の人と面談したことがあるかどうかについては、「ない」と回答した医師が82．6%、「ある」と回答した医師が16．0%であった。
前回調査と比較して、「ある」が6．1ポイント上昇し、「ない」が6．5ポイント減少した。

問6　がん患者の治療と就労の両立について、あなたの方針で当てはまるものに〇をつけてください。
6－①　がん診断～治療開始前に、患者の就労について把握するようにしている

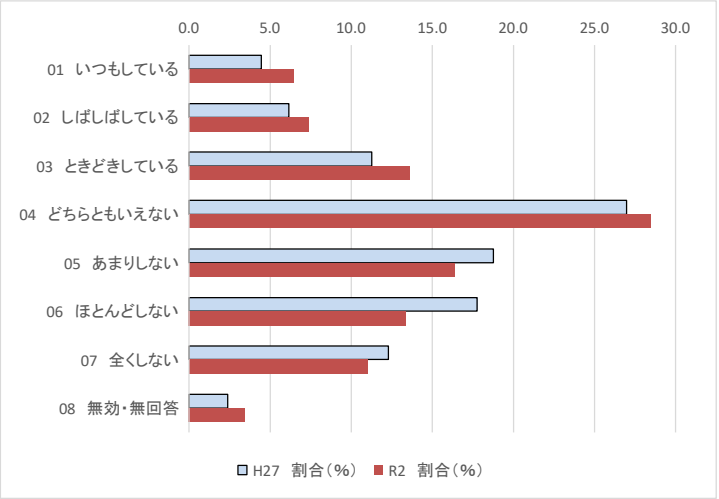
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　いつもしている	74	25.3	90	19.4
02　しばしばしている	72	24.6	104	22.4
03　ときどきしている	58	19.8	88	19.0
04　どちらともいえない	41	14.0	103	22.2
05　あまりしない	24	8.2	36	7.8
06　ほとんどしない	9	3.1	15	3.2
07　全くしない	8	2.7	14	3.0
08　無効・無回答	7	2.4	14	3.0
総計	293	100.0	464	100.0



がん患者の治療と就労の両立に関する方針について、がん診断～治療開始前に、患者の就労について把握するようにしているかについては、「しばしばしている」が22．4%、「どちらともいえない」が22．2%、「いつもしている」が19．4%であった。
前回調査と比較して、「どちらともいえない」が8．2ポイント上昇し、「いつもしている」が5．9ポイント減少した。

6-②　がん診断～治療開始前に、就労に関する相談窓口の情報を提供するようにしている

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　いつもしている	13	4.4	30	6.5
02　しばしばしている	18	6.1	34	7.3
03　ときどきしている	33	11.3	63	13.6
04　どちらともいえない	79	27.0	132	28.4
05　あまりしない	55	18.8	76	16.4
06　ほとんどしない	52	17.7	62	13.4
07　全くしない	36	12.3	51	11.0
08　無効・無回答	7	2.4	16	3.4
総計	293	100.0	464	100.0

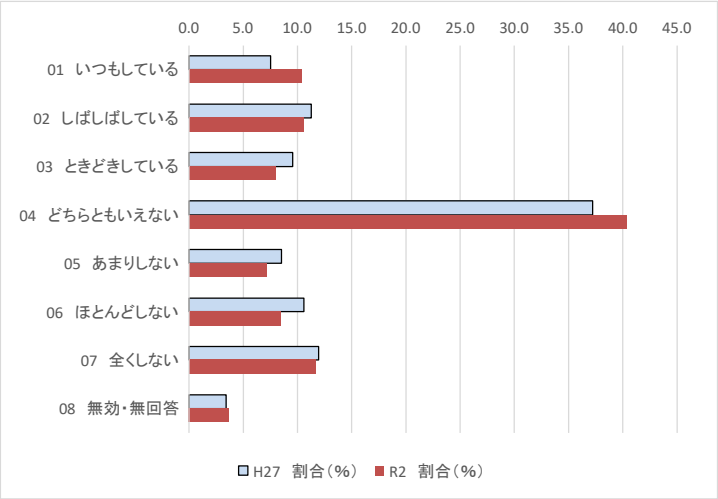


がん患者の治療と就労の両立に関する方針について、がん診断～治療開始前に、就労に関する相談窓口の情報を提供するようにしているかについては、「どちらともいえない」が28．4%、「あまりしない」が16．4%、「ときどきしている」が13．6%であった。
前回調査と比較して、「ときどきしている」が2．3ポイント、「いつもしている」が2．1ポイント上昇し、「ほとんどしない」が4．3ポイント、「あまりしない」が2．4ポイント減少した。

6-③ がん診断～治療開始前に、「職場を退職しないこと」を勧めている

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01 いつもしている	22	7.5	48	10.3
02 しばしばしている	33	11.3	49	10.6
03 ときどきしている	28	9.6	37	8.0
04 どちらともいえない	109	37.2	187	40.3
05 あまりしない	25	8.5	33	7.1
06 ほとんどしない	31	10.6	39	8.4
07 全くしない	35	11.9	54	11.6
08 無効・無回答	10	3.4	17	3.7
総計	293	100.0	464	100.0

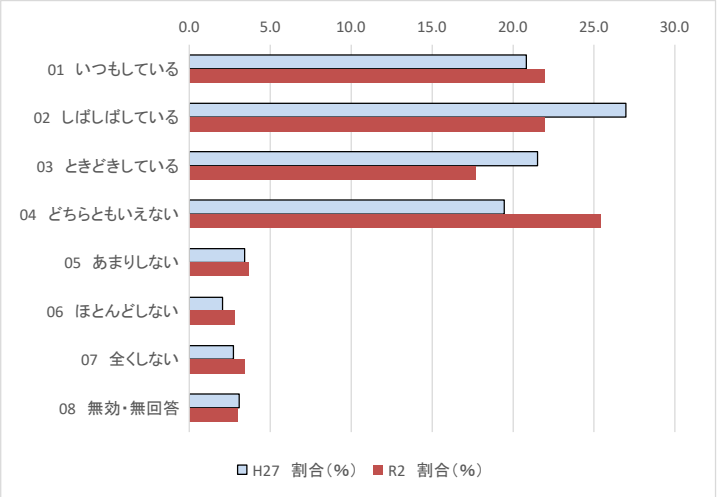
がん患者の治療と就労の両立に関する方針について、がん診断～治療開始前に、「職場を退職しないこと」を勧めているかについては、「どちらともいえない」が40．3%、「全くしない」が11．6%であった。
前回調査と比較して、「どちらともいえない」が3．1ポイント、「いつもしている」が2．8ポイント上昇し、「ほとんどしない」が2．2ポイント、「ときどきしている」が1．6ポイント減少した。



6-④ 治療を受けながらでも就労が可能であれば、出来る範囲で就労するよう勧めている

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01 いつもしている	61	20.8	102	22.0
02 しばしばしている	79	27.0	102	22.0
03 ときどきしている	63	21.5	82	17.7
04 どちらともいえない	57	19.5	118	25.4
05 あまりしない	10	3.4	17	3.7
06 ほとんどしない	6	2.0	13	2.8
07 全くしない	8	2.7	16	3.4
08 無効・無回答	9	3.1	14	3.0
総計	293	100.0	464	100.0

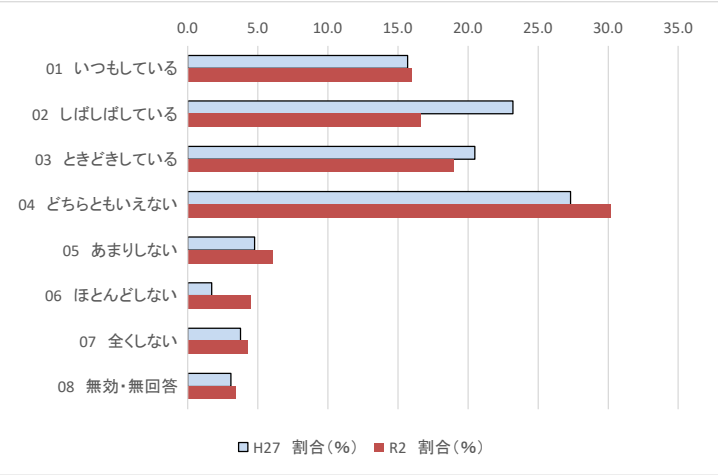
がん患者の治療と就労の両立に関する方針について、治療を受けながらでも就労が可能であれば、出来る範囲で就労するよう勧めているかについては、「どちらともいえない」が25．4%、「いつもしている」、「しばしばしている」がともに22．0%、「ときどきしている」が17．7%であった。
前回調査と比較して、「どちらともいえない」が5．9ポイント上昇し、「しばしばしている」が5．0ポイント、「ときどきしている」が3．8ポイント減少した。



6-⑤ 治療方法を選択する際に、就労継続あるいは復職を念頭に入れて説明するようにしている

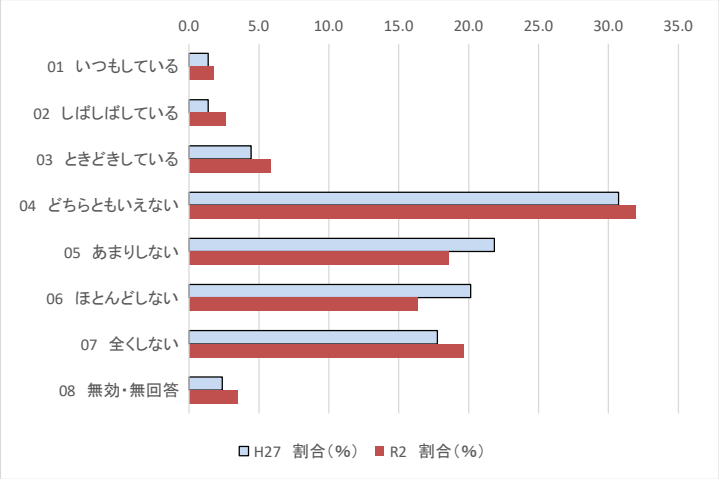
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01 いつもしている	46	15.7	74	15.9
02 しばしばしている	68	23.2	77	16.6
03 ときどきしている	60	20.5	88	19.0
04 どちらともいえない	80	27.3	140	30.2
05 あまりしない	14	4.8	28	6.0
06 ほとんどしない	5	1.7	21	4.5
07 全くしない	11	3.8	20	4.3
08 無効・無回答	9	3.1	16	3.4
総計	293	100.0	464	100.0

がん患者の治療と就労の両立に関する方針について、治療方法を選択する際に、就労継続あるいは復職を念頭に入れて説明するようにしているかについては、「どちらともいえない」が30．2%、「ときどきしている」が19．0%、「しばしばしている」が16．6%であった。
前回調査と比較して、「どちらともいえない」が2．9ポイント、「ほとんどしない」が2．8ポイント上昇し、「しばしばしている」が6．6ポイント減少した。



6-⑥　治療が完全に終わるまでは、就労が可能であっても、就労を控えるよう勧めている

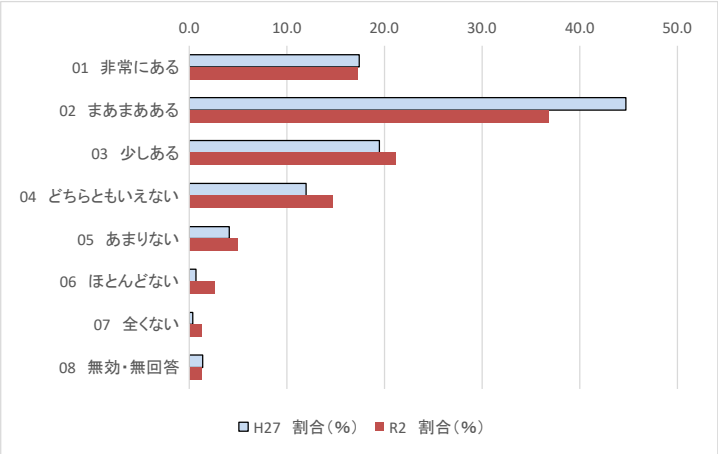
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　いつもしている	4	1.4	8	1.7
02　しばしばしている	4	1.4	12	2.6
03　ときどきしている	13	4.4	27	5.8
04　どちらともいえない	90	30.7	148	31.9
05　あまりしない	64	21.8	86	18.5
06　ほとんどしない	59	20.1	76	16.4
07　全くしない	52	17.7	91	19.6
08　無効・無回答	7	2.4	16	3.4
総計	293	100.0	464	100.0



がん患者の治療と就労の両立に関する方針について、治療が完全に終わるまでは、就労が可能であっても、就労を控えるよう勧めているかについては、「どちらともいえない」が31．9%、「全くしない」が19．6%、「あまりしない」が18．5%であった。
前回調査と比較して、「全くしない」が1．9ポイント上昇し、「ほとんどしない」が3．7ポイント、「あまりしない」が3．3ポイント減少した。

問7　がん患者の治療と就労の両立について、あなたのお考えで当てはまるものに○をつけてください。
7-①　あなたは、がん患者の治療と就労の両立についてどれくらい関心がありますか

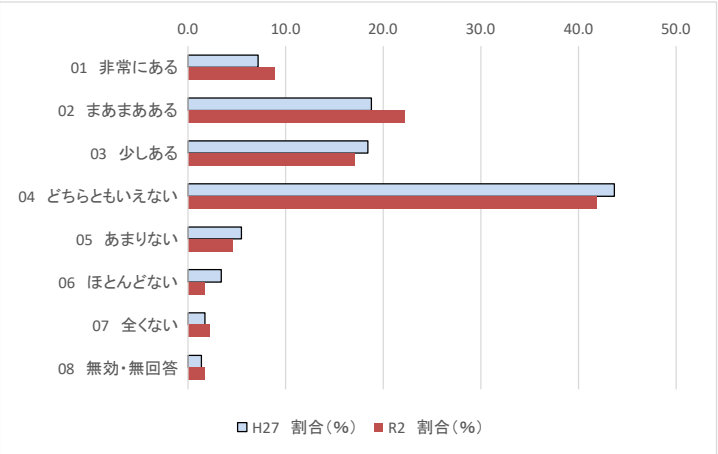
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　非常にある	51	17.4	80	17.2
02　まあまあある	131	44.7	171	36.9
03　少しある	57	19.5	98	21.1
04　どちらともいえない	35	11.9	68	14.7
05　あまりない	12	4.1	23	5.0
06　ほとんどない	2	0.7	12	2.6
07　全くない	1	0.3	6	1.3
08　無効・無回答	4	1.4	6	1.3
総計	293	100.0	464	100.0



がん患者の治療と就労の両立についてどれくらい関心があるかについては、「まあまあある」が36．9%、「少しある」が21．1%、「非常にある」が17．2%であった。
前回調査と比較して、「どちらともいえない」が2．8ポイント上昇し、「まあまあある」が7．8ポイント減少した。

7-②　がん治療と就労の両立は、治療成績をよくすると思いますか

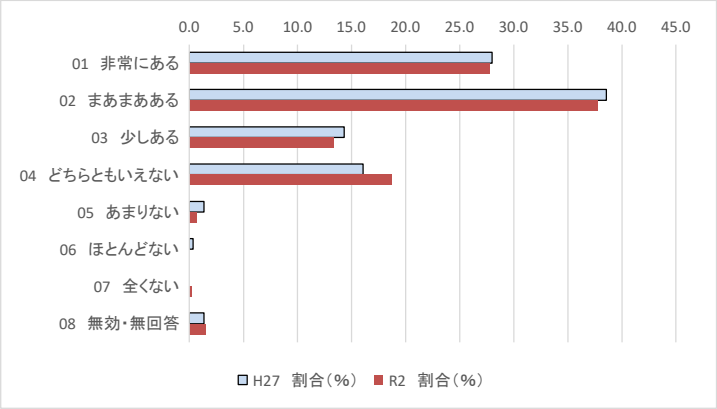
項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01　非常にある	21	7.2	41	8.8
02　まあまあある	55	18.8	103	22.2
03　少しある	54	18.4	79	17.0
04　どちらともいえない	128	43.7	194	41.8
05　あまりない	16	5.5	21	4.5
06　ほとんどない	10	3.4	8	1.7
07　全くない	5	1.7	10	2.2
08　無効・無回答	4	1.4	8	1.7
総計	293	100.0	464	100.0



がん患者の治療と就労の両立は、治療成績をよくすると思うかについては、「どちらともいえない」が41．8%、「まあまあある」が22．2%、「少しある」が17．0%であった。
前回調査と比較して、「まあまあある」が3．4ポイント、「非常にある」が1．6ポイント上昇した。

7-③ がん治療と就労の両立は、患者やその家族のQOLを向上させると思いますか

項目	H27		R2	
	回答数	割合（%）	回答数	割合（%）
01 非常にある	82	28.0	129	27.8
02 まあまあある	113	38.6	175	37.7
03 少しある	42	14.3	62	13.4
04 どちらともいえない	47	16.0	87	18.8
05 あまりない	4	1.4	3	0.6
06 ほとんどない	1	0.3	0	0.0
07 全くない	0	0.0	1	0.2
08 無効・無回答	4	1.4	7	1.5
総計	293	100.0	464	100.0



がん患者の治療と就労の両立は、患者やその家族のQOLを向上させると思うかについては、「まあまあある」が37．7%、「非常にある」が27．8%であった。

前回調査と比較して、「どちらともいえない」が2．8ポイント上昇した。

Ⅲ　調査票

１　令和２年度

（１）患者調査票

（２）法人調査票

（３）医師調査票

２　平成２７年度

（１）患者調査票

（２）法人調査票

（３）医師調査票

アンケートの御協力のお願い（記入目安５分程度）

このたび、がん患者さんの就労支援の参考とするため、県内のがん診療連携拠点病院等で組織する秋田県がん診療連携協議会がん患者相談部会（県内がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター、秋田県健康福祉部健康づくり推進課）、秋田労働局、秋田産業保健総合支援センターにおいて、県内のがん患者さんが就労に関して抱える様々な課題やニーズを適切に把握するためのアンケート調査を実施することとしました。

皆様には、趣旨を御理解の上、アンケートに御協力くださるようお願いします。

なお、本アンケートの結果は、がん患者さんの就労支援に役立たせるため、回答者が特定されない形で公表させていただく予定であることを御了承ください。この目的以外や、回答者が特定されるような形では使用いたしません。

【お問い合わせ】　各病院がん相談支援センター

Ⅰ　あなた自身について伺います。

問１	あなたの現在の年齢を教えてください	＿＿＿＿歳
問２	あなたの性別を教えてください	01　男性　　02　女性

Ⅱ　あなたが**がんと診断された時**の状況について伺います。

問３	当時のあなたの年齢を教えてください	＿＿＿＿歳
問４	がんの部位・種類について、あてはまるもの全てに○をつけてください。	
01　胃　02　大腸　03　食道　04　肝臓　05　肺　06　乳房　07　子宮 08　卵巣　09　前立腺　10　膀胱　11　腎臓　12　白血病 13　悪性リンパ腫　14　その他（　　）		
問５	がんと診断された時のあなたの雇用形態に○をつけてください。	
01　正職員　02　契約・臨時職員　03　パート・アルバイト 04　派遣社員　05　公務員　06　会社経営・役員		⇒問６へお進み下さい。
07　自営業（農林漁業）　08　自営業（農林漁業以外） 09　家事専業　10　学生　11　無職 12　その他（　　）		⇒問 12 へお進み下さい。
問６	※問５で 01～06 に○をつけた方に伺います。 がん診断時の仕事について、主な業務ひとつに○をつけてください。	
01　管理　02　専門・技術　03　事務　04　販売　05　サービス　06　保安 07　農林漁業　08　生産工程　09　輸送・機械運転　10　建設・採掘 11　運搬・清掃・包装等　12　その他（　　）		
問７	がんであることを職場で報告・相談しましたか。（該当するもの全てに○）	
01　誰にも報告・相談しなかった		⇒問８へお進み下さい。
02　所属長・上司　03　同僚　04　部下　05　人事労務担当者 06　産業医　07　産業保健師　08　その他（　　）		⇒問９へお進み下さい。
問８	※問７で「01　誰にも報告・相談しなかった」に○をつけた方に伺います。 報告・相談をしなかった理由について、あてはまるもの全てに○をつけてください。	
01　解雇される心配があったから　02　希望しない配置転換をされる心配があったから 03　偏見を持たれたくなかったから　04　報告・相談の必要はないと思ったから 05　周囲に心配をかけたくなかったから　06　その他（　　）		

問９	※問７で 02～08 に○をつけた方に伺います。 職場に報告・相談したことで、就労状況にどのような変化がありましたか。
01　配置転換した　02　正職員からパートになった　03　解雇された 04　依願退職した　05　柔軟な働き方を支援する制度を利用した 06　役職が下がった　07　その他（　　）	
問 10	がん診断時のあなたの職場には、治療しながら働くことをサポートする制度や配慮がありましたか。 （該当するもの全てに○）

①勤務時間の短縮	01 活用した	02 活用しなかった	03 無かった	04 制度・配慮の有無は不明
②時間単位の有給休暇	01 活用した	02 活用しなかった	03 無かった	04 制度・配慮の有無は不明
③治療目的の休暇等	01 活用した	02 活用しなかった	03 無かった	04 制度・配慮の有無は不明
④在宅勤務	01 活用した	02 活用しなかった	03 無かった	04 制度・配慮の有無は不明
⑤職場環境のバリアフリー化	01 活用した	02 活用しなかった	03 無かった	04 制度・配慮の有無は不明
⑥職場の配置転換	01 活用した	02 活用しなかった	03 無かった	04 制度・配慮の有無は不明
⑦業務内容の変更・調整	01 活用した	02 活用しなかった	03 無かった	04 制度・配慮の有無は不明
⑧その他	（　　）			

問 11	がんの治療と仕事や生活を両立する上で困難であったことは何でしたか。（該当するもの全てに○）
01　体調や後遺症に応じた仕事内容の調整が難しい 02　体調や治療に応じた勤務時間・日数の調整が難しい 03　病院の医師や看護師等に仕事のことについて相談しづらい 04　治療と仕事の両立について、どこに相談すべきか分からない 05　病気や治療について職場に言いづらい雰囲気がある 06　収入が減る　07　治療費が高い　08　治療費の見通しが立たない 09　その他（　　）　10　困難は無かった	
問 12	がんと診断された後、働くことについて周りの人に相談をしましたか。（該当するもの全てに○）
01　誰にも相談しなかった	⇒問 13 へお進み下さい。
02　家族・親戚　03　友人・パートナー　04　主治医 05　病院の看護師　06　病院のソーシャルワーカー 07　がん相談支援センター相談員　08　患者会 09　社会保険労務士　10 その他（　　）	⇒問 14 へお進み下さい。
問 13	※問 12 で「01　誰にも相談しなかった」方に伺います。 相談しなかった理由についてあてはまるもの全てに○をつけてください。
01　相談するほど困っていなかった　02　相談相手がいなかった 03　誰に相談したら良いか分からなかった　04　相談すると不利益が生じると思った 05　その他（　　）	
問 14	がんと診断された時、働くことについてどのような気持ちになりましたか。 （該当するもの全てに○）
01　特に不安はなく、変わらず働き続けたいと思った 02　不安はあったが、働き続けたいと思った 03　働き続けたいが、仕事を辞めなければいけないものだと思った 04　がんの診断をきっかけに、仕事を辞めたいと思った 05　がんの診断以外の理由で、仕事を辞めたいと思った 06　その他（　　）	

Ⅲ　あなたの**現在の状況**について伺います。

問 15	がんの治療で、これまでに受けたもの全てに○をつけてください。
01　手術　02　化学療法（抗がん剤内服）　03　化学療法（抗がん剤点滴）　04　放射線療法　05　ホルモン療法　06　その他（　　）　07　まだ治療していない	

問 16	現在のあなたの雇用形態に○をつけてください。
01　正職員　02　契約・臨時職員　03　パート・アルバイト 04　派遣社員　05　公務員　06　会社経営・役員	⇒問 17 へお進み下さい。
07　自営業（農林漁業）　08　自営業（農林業漁業以外） 09　家事専業　10　学生　11　無職　12　その他（　　）	⇒問 18 へお進み下さい。

問 17	※問 16 で 01～06 に○をした方に伺います。 現在の仕事について、主な業務ひとつに○をつけてください。
01　管理　02　専門・技術　03　事務　04　販売　05　サービス　06　保安 07　農林漁業　08　生産工程　09　輸送・機械運転　10　建設・採掘 11　運搬・清掃・包装等　12　その他（　　）	

問 18	※Ⅱ－問 5 で 01～06 のいずれかに○をつけた方に伺います。 がんと診断されてから現在まで、働き方に変化はありましたか。
01　変化はない	⇒問 21 へお進み下さい。
02　同じ職場で雇用形態が変わった　03　同じ職場で休職中 04　同じ職場で治療や体調に応じた働き方に変わった 05　同じ会社で部署が変わった　06　転職した 07　退職し再就職していない　08　その他（　　）	⇒問 19 へお進み下さい。

問 19	※問 18 で 02～08 に○をつけた方に伺います
01　自分から希望した　02　会社・職場から提案された　03　その他（　　）	

問 20	※Ⅱ－問 5 でがんと診断された時に、「07・08　自営業」だった方に伺います。 現在のあなたの仕事について、該当するもの全てに○をつけてください。
01　休業中である　02　仕事を縮小して継続している　03　代替わりした　04　廃業した 05　診断時とは異なる仕事をしている　06　変化はない　07　その他（　　）	

問 21	あなたは今後仕事をしたいと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。
01　仕事をしたい（続けたい） 02　仕事をしたい（続けたい）が、難しい	⇒問 22 へお進み下さい。
03　仕事をしたくない（辞めたい） 04　仕事をしたくない（辞めたい）が、する必要がある	⇒問 23 へお進み下さい。

問 22	※問 21 で 01・02 に○をつけた方に伺います 仕事をしたい（続けたい）理由にあてはまるもの全てに○をつけてください。
01　働くことで生きがいや自分らしい感覚を持てるため　02　生計を維持するため 03　がんの治療代を得るため　04　家族が望んでいるため 05　職場が望んでいるため　06　その他（　　）	

問 23	※問 21 で 03・04 に○をつけた方に伺います 仕事をしたくない（辞めたい）理由にあてはまるもの全てに○をつけてください。
01　治療に専念したいため　02　仕事を引退する年齢であるため　03　ストレスを感じているため 04　体力的につらいため　05　家族が望んでいるため 06　その他（　　）	

問 24	あなたは、病院に設置されている「がん相談支援センター」を知っていますか。
01　知っていて、相談したことがある 02　知っているが、相談したことはない 03　見聞きしたことはあるが、詳しくは知らない	⇒問 25 へお進み下さい。
04　知らない	⇒問 27 へお進み下さい。

問 25	※問 24 で 01～03 に○をつけた方に伺います。 あなたは、働くことに関して「がん相談支援センター」で相談できることを知っていますか。
01　知っていて、相談したことがある	⇒問 26 へお進み下さい。
02　知っているが、相談したことはない 03　見聞きしたことはあるが、詳しくは知らない　04　知らない	⇒問 27 へお進み下さい。

問 26	※問 25 で 01 に○をつけた方に伺います 「がん相談支援センター」による働くことに関する相談は役に立ちましたか。
01　役に立った　02　どちらかと言えば役に立った 03　どちらかと言えば役に立たなかった　04　役に立たなかった	

問 27	あなたは、県内ハローワークにある「長期療養者支援窓口」や病院と連携した出張相談等により療養中でも就職の相談ができることを知っていますか。
01　知っていて、相談したことがある　02 知っているが、相談したことはない 03　見聞きしたことはあるが、詳しくは知らない　04　知らない	

問 28	現在の日本の社会は、がんの治療や検査のために 2 週間に一度程度、病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。
01　そう思う　02　どちらかと言えばそう思う	⇒問 30 へお進み下さい。
03　どちらかと言えばそう思わない　04　そう思わない	⇒問 29 へお進み下さい。
05　わからない	⇒問 30 へお進み下さい。

問 29	※問 28 で「03 または 04」を選んだ方にお聞きします。 働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか。（該当するもの全てに○）
01　代わりに仕事をする人がいない、または頼みにくいから 02　職場が仕事を休むことを許してくれるかどうか分からないから 03　休むと職場での評価が下がるから　04　休むと収入が減ってしまうから 05　がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから 06　がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから 07　その他（　　）	

問 30	がんと診断された後の就職や仕事の継続において、困ったことや必要な支援について御記入ください。

アンケートは以上です。

お忙しいところ御協力いただき、誠にありがとうございました。

回答後のアンケート用紙は、がん相談支援センターの回収箱に入れてください。

がん患者等就労実態調査票

御記入上の留意点

1．回答の御記入は、貴社の人事・労務御担当者様にお願いします。
2．法人単位の調査ですので、支店や営業所等の全事業所を含めた法人全体について御回答ください。
3．特に指定がない限り、令和２年７月１日時点の状況について御回答ください。
4．令和２年８月２８日（金）までに、御回答の上、返送をお願いします。

問１　貴法人の主たる事業の業種として該当するものを１つお選びください。

01　農業、林業　02　漁業　03　鉱業、砕石業、砂利採取業
04　建設業　05　製造業　06　電気・ガス・熱供給・水道業
07　情報通信業　08　運輸業、郵便業　09　卸売業、小売業
10　金融業、保険業　11　不動産業、物品賃貸業　12　学術研究、専門技術サービス業
13　宿泊業、飲食サービス業　14　生活関連サービス業、娯楽業　15　教育、学習支援業
16　医療、福祉　17　複合サービス事業　18　公務
19　その他（　　）

問２　貴法人の従業員数について記入してください。

正規雇用従業員数＿＿＿＿＿＿人　　非正規雇用従業員数＿＿＿＿＿＿人

問３　貴法人の従業員に対してがん検診（胸部Ｘ線検査や便潜血検査なども含む）を実施していますか。

01　法人単独で実施　→ 問３-①へ
02　協会けんぽ、共済組合等と共同実施　→ 問３-①へ
03　実施していない　→ 問３-②へ

問３-①　問３で「01・02」を選んだ場合、 がん検診によりがんと疑われた従業員はいましたか。

01　いた　02　いない　03　わからない

問３-②　問３で「03」を選んだ場合、 従業員のがん検診のため、実施している取り組みはありますか。(複数回答)

01　検診費用の補助　02　自治体で実施しているがん検診の案内・周知
03　勤務時間内の受診の許可　04　がん検診の受診状況の確認
05　その他（　　）　06　特に何もしていない

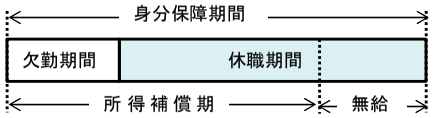
問４　貴法人では、がんに罹患した従業員、または、がんに罹患した家族をもつ従業員の柔軟な働き方を支援するために導入している制度はありますか。(複数回答)

01　１日の所定労働時間を短縮する制度　02　週又は月の所定労働時間を短縮する制度
03　半日単位の休暇制度　04　時間単位の休暇制度
05　フレックスタイム制度　06　治療目的の休暇・休業制度
07　在宅勤務制度　08　裁量労働制度
09　介護休暇制度　10　その他（　　）

問５　貴法人における、がんなどによる長期休暇者の復職に関する方針についてお答えください。

01　試し（慣らし）出勤制度等で徐々に復帰させる　02　完全に治ってから復帰させる
03　個別対応としている　04　その他（　　）
05　特に方針はない

問６　貴法人における身分保障期間・所得補償期間（取得可能な最長日数）について記入ください。
＊勤続年数によって異なる場合は、勤続年数が最も長い場合を記入ください。



①身分保障期間：　　年　　か月　　日

②所得補償期間：　　年　　か月　　日

＊所得補償期間：賃金や傷病手当、健康保険や共済会からの給付を含む

問７　貴法人では、従業員ががんに罹患した時に、仕事と治療の両立について相談できるスタッフはいますか。（複数回答）

01　専属の産業医　02　嘱託の産業医　03　産業保健師　04　産業看護師
05　社会保険労務士　06　福利厚生部門　07　人事担当
08　その他（　　）　09　いない

問７-①　問７で「09　いない」を選んだ場合、仕事と治療の両立について相談できる外部の産業保健スタッフと連携をしているかどうかについてお答えください。

01　産業保健総合支援センターと連携している
02　健康保険組合の産業保健スタッフと連携している
03　その他（　　）　04　連携していない

問８　過去３年間を振り返って、がんに罹患した従業員はいましたか。

01　いた　→ 問８-①へ
02　いない　→ 問９へ
03　わからない　→ 問９へ

問８-①　過去３年間で、がんの治療や療養のために１か月以上連続して休職・休業した従業員はいましたか。いた場合、その復職状況についてお答えください。

01　いた　02　いなかった　03　わからない

【１か月以上連続して休職・休業した従業員の復職状況】

01　復職する場合が多い　02　復職することなく退職する場合が多い
03　復職後、退職する場合が多い　04　その他（　　）

問８-②　過去３年間で、従業員ががんの治療や検査のために２週間に一度程度病院に通う必要がある従業員はいましたか。いた場合、法人としてどのような対応をしていますか。

01　いた　02　いなかった　03　わからない

【２週間に一度程度病院に通う必要がある従業員への法人としての対応（複数回答）】

01　柔軟な働き方を支援するために導入している制度（問４で回答した制度）の利用を促している
02　２週間に一度休んでも重大な支障がない部署への配置換えを勧めている
03　産業保健スタッフや労務担当等に相談するよう促している
04　病状や今後の見通しを報告するよう促している
05　他の従業員に対して、業務分担や処遇等について、理解を促している
06　その他（

問 8-③	従業員ががんになった際、当該従業員の適正配置や雇用管理等について、対応に苦慮したところはありましたか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

01　病気や治療に関する見通しがわからない　　02　復職可否の判断が難しい
03　就業制限の必要性や期間の判断が難しい　　04　復職後の適正配置の判断が難しい
05　症状の悪化や再発予防の対策がわからない　　06　代替要員の確保が難しい
07　症状や治療に配慮した部署異動や業務内容の調整が困難
08　症状や治療に配慮した業務分担や処遇等について、他の従業員の理解・協力を得ることが難しい
09　プライバシーの問題であるため、病気や治療の見通し等の情報を本人に聞きづらい
10　長期休業・休暇期間中の社会保険料の事業主負担分の支払いの負担が大きい
11　従業員の処遇や復職可否の判断・訂正配置等についての相談先がわからない
12　その他（　　）　　13　特に問題なし

問 8-④	対応に苦慮したことについて、誰かに相談をしましたか。相談した場合、相談先を教えてください。

01　相談した　　02　相談の必要性がなく、相談しなかった
03　相談先がわからず相談しなかった

【 相談先（複数回答）】

01　専属の産業医　　02　嘱託の産業医　　03　産業保健師　　04　産業看護師
05　社会保険労務士　　06　福利厚生部門　　07　人事担当
08　産業保健総合支援センター　　09　保険組合の産業保健スタッフ
10　がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター
11　その他（　　）

問 9	貴法人では、今後、病気にあった後も安心して働き続けられるよう、仕事と治療の両立が実現できる職場づくりが必要になると思いますか。

01　必要性を強く感じている　　02　どちらかというと必要性を感じている
03　あまり必要性は感じていない　　04　必要性は全く感じていない

問 10	貴法人において、従業員の仕事と治療の両立が実現可能な職場づくりを進める上での課題は何ですか。

01　休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難　　02　代替要員の確保が困難
03　管理職や従業員の理解が得られにくい　　04　具体的な支援の方法がわからない
05　病気そのものや治療の内容、仕事への影響がわからない　　06　柔軟な勤務制度の整備が困難
07　治療の見通しや就業制限に関する情報の入手が困難
08　長期間働けない従業員の社会保険料の事業主負担が大きい
09　産業保健スタッフの雇用にかかるコスト負担が大きい
10　その他（　　）
11　特になし

問 11	今後、より多くの法人において、がんに罹患した従業員の仕事と治療の両立が図られることを目的として行政（秋田県）が普及啓発事業を進める場合、法人として特に知りたい内容や、普及啓発・情報提供・相談支援の方法として希望するものに○をつけてください。

【　普及啓発・情報提供・相談支援の内容　】

01　がんそのものや治療方法等の基本的な情報　　02　主に必要となる就業上の配慮
03　他社での取り組み事例　　04　産業医等との産業保健スタッフとの連携方法
05　従業員の受診医療機関との連携方法　　06　法人が相談できる相談窓口
07　労働者が相談できる相談窓口　　08　国や秋田県における施策動向
09　社内での普及啓発資材
10　その他（　　）

【　普及啓発・情報提供の形態　】

01　セミナー・講演会　　02　リーフレット　　03　ホームページでの情報提供
04　メールマガジン　　05　その他（　　）

問 12	その他、がんに罹患した従業員の仕事と治療の両立について、御意見や普段お考えのこと、法人内での問題意識、行政に希望する施策・支援等あれば御自由に記入ください。

秋田県内のがん対策の普及状況を把握するために伺います。

問 13	あなた（記入者様）が、がん相談支援センターについて知っているものに○をつけてください。

01　がん診療連携拠点病院等に設置されている　　02　がん相談支援センターは秋田県では 12 か所ある
03　がんの治療や医療費等について相談できる　　04　治療と仕事の両立について相談できる
05　その病院にかかっていなくても相談できる　　06　誰でも無料で相談できる

アンケートは以上です。　お忙しいところ御協力いただき誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒にて、**８月２８日（金）**までにポストに投函をお願い致します。

【お問い合わせ先】
〒010－8570　秋田市山王四丁目１番１号
秋田県健康福祉部健康づくり推進課　がん・生活習慣病対策班　TEL018-860-1428　FAX018-860-3821

がん患者の就労支援に関するアンケート御協力のお願い
このたび、がん患者さんの就労支援の参考とするため、県内のがん診療連携拠点病院等で組織する秋田県がん診療連携協議会がん患者相談部会（県内がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター、秋田県健康福祉部健康づくり推進課）、秋田労働局、秋田産業保健総合支援センターにおいて、県内のがん患者さんの診療に携わる医師がどのような取り組みをされているか把握するためのアンケート調査を実施することとしました。 医師の皆様には、趣旨を御理解の上、アンケートに御協力くださるようお願いします。 なお、本アンケートの結果は、がん患者さんの就労支援に役立たせるため、回答者が特定されない形で公表させていただく予定であることを御了承ください。この目的以外や、回答者が特定されるような形での使用はいたしません。回答は、令和２年８月２８日（金）までに、【各病院が所定する場所】に提出くださるようお願い申し上げます。 **お問い合わせ：　各病院がん相談支援センター**

所属診療科	科
性別	01　男性　　02　女性
医師経験年数	年　　か月
月間診療がん患者数	およそ　　人/月

<u>がん患者の治療と就労（経済的な事）に関して、あなたのお考えや取り組みについて伺います。</u>

問１	あなたは、病院内でがん患者の経済的な事についての相談や支援を行う場合、どの部門・スタッフに紹介・連携するのが適切だと考えますか。一つ選んでください。
01　同じ診療科の医師	02　同じ診療科の外来看護師
03　同じ診療科の病棟看護師	04　がん看護専門看護師
05　がん看護に関連する認定看護師	06　薬剤師
07　社会福祉士（ＭＳＷ）	08　緩和ケアチーム
09　がん相談支援センター	10　地域連携室
11　その他（　　）	

問２	あなたは、がん患者から治療と就労の両立に関して相談を受けたことがありますか。ある場合、具体的な相談内容を教えてください。
01　ある	02　ない　→問６へ
≪具体的な相談内容≫	

問３	問２で相談を受けたことがある場合、他の病院スタッフに紹介・連携しましたか。
01　した　→問４－①へ	02　しなかった　→問４－②へ

問４－①	問３で他の病院スタッフに紹介・連携した方への質問です。その紹介・連携先を教えてください。
01　同じ診療科の医師	02　同じ診療科の外来看護師
03　同じ診療科の病棟看護師	04　がん看護専門看護師
05　がん看護に関連する認定看護師	06　薬剤師
07　社会福祉士（ＭＳＷ）	08　緩和ケアチーム
09　がん相談支援センター	10　地域連携室
11　その他（　　）	

問４－②	問３で他の病院スタッフに紹介・連携しなかった方への質問です。紹介・連携しなかった理由を教えてください。（複数回答）
01　その場であなた自身が解決できたため	02　患者自身で解決できると判断したため
03　紹介先がわからなかったため	
04　患者に他部門への紹介を提案したが、希望がなかったため	
05　時間が経てば解決すると考えたため	
06　患者が他部門に紹介するほど困っていないと判断したため	
07　その他（　　）	

問５	あなたは、がん患者の治療と就労の両立について、患者の勤務先の人と面談したことはありますか。
01　ある	02　ない

問６	がん患者の治療と就労の両立について、あなたの方針で当てはまるものに○をつけてください							
		いつもしている	しばしばしている	ときどきしている	どちらともいえない	あまりしない	ほとんどしない	全くしない
1	がん診断～治療開始前に、患者の就労について把握するようにしている	1	2	3	4	5	6	7
2	がん診断～治療開始前に、就労に関する相談窓口の情報を提供するようにしている	1	2	3	4	5	6	7
3	がん診断～治療開始前に、「職場を退職しないこと」を勧めている	1	2	3	4	5	6	7
4	治療を受けながらでも就労が可能であれば、出来る範囲で就労するよう勧めている	1	2	3	4	5	6	7
5	治療方法を選択する際に、就労継続あるいは復職を念頭に入れて説明するようにしている	1	2	3	4	5	6	7
6	治療が完全に終わるまでは、就労が可能であっても、就労を控えるよう勧めている。	1	2	3	4	5	6	7

問７	がん患者の治療と就労の両立について、あなたのお考えで当てはまるものに○をつけてください							
		非常にある	まあまあある	少しある	どちらともいえない	あまりない	ほとんどない	全くない
1	あなたは、がん患者の治療と就労の両立についてどれくらい関心がありますか	1	2	3	4	5	6	7
2	がん治療と就労の両立は、治療成績をよくすると思いますか	1	2	3	4	5	6	7
3	がん治療と就労の両立は、患者やその家族のQOLを向上させると思いますか	1	2	3	4	5	6	7

以上でアンケートは終了です。お忙しいところ御協力いただきありがとうございました。

アンケートのご協力のお願い

県では、このたび、がん患者さんの就労支援の参考とするため、県内のがん診療連携拠点病院等で組織する「秋田県がん診療連携協議会がん患者相談部会」にご協力をいただき、県内のがん患者さんやご家族が就労に関して抱える様々な課題やニーズを適切に把握するためのアンケート調査を実施することとしました。

皆様には、趣旨をご理解の上、アンケートに是非ご協力くださるようお願いします。

なお、本アンケートの結果は、がん患者さんの就労支援に役立たせるため、回答者が特定されない形で公表させていただく予定であることをご了承ください。この目的以外や、回答者が特定されるような形では公表いたしません。

お問い合わせ：秋田県健康福祉部健康推進課がん対策室(TEL 018-860-1428 FAX 018-860-3821)

Ⅰ．あなた自身について伺います。

問 1	あなたの年齢を教えてください	＿＿＿＿＿歳
問 2	あなたの性別を教えてください	01 男性　02 女性
問 3	扶養家族はいますか	01 いる（　　人）　02 いない

Ⅱ．あなたの病気・治療の状況について伺います。

問 4　診断時のがんの部位・種類について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

01 胃　02 大腸　03 食道　04 肝臓　05 肺　06 乳房
07 子宮　08 卵巣　09 前立腺　10 膀胱　11 腎臓　12 白血病
13 悪性リンパ腫　14 その他（　　）

問 5　診断時の病気の進行度（病期）について、当てはまるもの一つに○をつけてください。

01 早期　02 進行期　03 わからない

問 6　診断後～現在までの期間はどれくらいですか。また、これまでに再発や転移はありましたか。

①期間：＿＿＿年＿＿＿か月　②再発・転移:　01 あり　02 なし

問 7　がん治療のための、入院・通院の状況について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

01 入院治療した　02 通院治療した
03 治療後の経過観察のために通院した　04 まだ治療していない

問 8　がんの治療で、これまでに受けたもの全てに○をつけてください。

01 手術　02 化学療法（抗がん剤の内服）　03 化学療法（抗がん剤の点滴）
04 放射線療法　05 ホルモン療法　06 その他（　　）
07 まだ治療していない

問 9　現在のあなたの普段の活動状況について、該当するもの一つに○をつけてください。

01 まったく問題なく活動できる。発症前と同じ日常生活が制限なく行える。
02 肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業や座っての作業は行うことができる。
03 歩行可能で、自分の身のまわりのことは全て可能だが、作業はできない。日中の 50%以上はベッド外で過ごす。

Ⅲ．あなたの就労状況について伺います。

問 10　がんと診断された時のあなたの雇用形態に○をつけてください。

01 正職員　02 契約・臨時職員　03 パート・アルバイト
04 派遣社員　05 公務員　06 会社経営・役員
} **01～06 を選んだ方は問 11 へ**
07 自営業（農林漁業）　08 自営業（農林業漁業以外）} **07・08 を選んだ方は問 15-⑤(次ページ)へ**
09 専業主婦　10 無職　11 その他 } **09～11 を選んだ方は問 16 へ**

問 11　がん診断時のあなたの職場の従業員数を教えてください。(支店等を含めた法人全体の従業員数)

01 10 人未満　02 10～50 人未満　03 50～100 人未満
04 100～500 人未満　05 500 人以上

問 12　がん診断時のあなたの仕事について、主な業務内容を一つ選んでください。

01 管理的業務　02 専門的・技術的職業　03 事務的業務
04 販売業務　05 サービス業務　06 保安業務
07 農林漁業の業務　08 生産工程業務　09 輸送・機械運転の業務
10 建設・採掘業務　11 運搬・清掃・包装等の業務

問 13　がん診断時のあなたの職場で、柔軟な働き方を支援するための制度はありましたか。また、その中で、あなた自身が治療や検査のために利用した制度はありますか。（該当するもの全てに○）

	職場にある制度	利用した制度
01 1 日の所定労働時間を短縮する制度		
02 週又は月の所定労働時間を短縮する制度		
03 半日単位の休暇制度		
04 時間単位の休暇制度		
05 フレックスタイム制度		
06 治療目的の休暇・休業制度		
07 在宅勤務制度		
08 裁量労働制度		
09 介護休暇制度		
10 その他（　　）		

問 14　がん診断時のあなたの職場で、治療と仕事の両立について相談できる部門・スタッフはいましたか。（該当するもの全てに○）

01 専属の産業医　02 嘱託の産業医　03 産業保健師　04 産業看護師
05 社会保険労務士　06 福利厚生部門担当者　07 人事労務担当者
08 その他（　　）　09 相談できる部門・スタッフはいない

問 15　あなたは、がんであることを職場の方に報告・相談しましたか。

01 報告・相談した　→ **問 15-①(次ページ)へ**
02 報告・相談しなかった　→ **問 15-④(次ページ)へ**

問 15ー① **問 15 で「01　報告・相談した」を選んだ方にお聞きします。**
その相談先について、該当するもの全てに○をつけてください。

01　所属長・上司　02　同僚　03　人事労務担当　04　産業医
05　産業保健師　06　その他（　　）

問 15ー② 職場に報告・相談したことで、就労状況にどのような変化はありましたか。（該当するもの全てに○）

01　配置転換した　02 正職員からパートになった　03　解雇された　04　依願退職した
05　柔軟な働き方を支援する制度（前ページ**問** 13）を利用した　06　役職が下がった
07　その他（　　）

問 15ー③ 問 15ー②の就労状況の変化について、それはあなたが希望していたことですか。

01　はい　02　いいえ

問 15ー④ **問 15 で「02　報告・相談しなかった」を選んだ方にお聞きします。**
報告・相談しなかった理由について、該当するもの全てに○をつけてください。

01　解雇される心配があったから　02　希望しない配置転換をされる心配があったから
03　偏見を持たれたくなかったから　04　報告・相談の必要はないと思ったから
05　周囲に心配をかけたくなかったから
06　その他（　　）

問 15-⑥ **問 10 で「自営業」を選んだ方にお聞きします。**
現在のあなたのお仕事について、該当するもの全てに○をつけてください。

01　現在休業している　02　仕事を縮小して継続している　03　代替わりした
04　廃業した　05　診断時とは異なる仕事をしている　06　変化はない
07　その他（　　）

問 16 がんの治療と仕事や生活を両立する上で困難であったことは何でしたか。（該当するもの全てに○）

01　体調や後遺症に応じた仕事内容の調整が難しい
02　体調や治療に応じた勤務時間・日数の調整が難しい
03　病院の医師や看護師等に仕事のことについて相談しづらい
04　治療と仕事の両立について、どこに相談すべきかわからない
05　病気や治療について職場に言いづらい雰囲気がある
06　収入が減る
07　治療費が高い
08　治療費の見通しが立たない
09　その他（　　）
10　困難は無かった

問 17 あなたががんと診断される前後で世帯全体の収入はどのように変化しましたか。

01　増えた　02　減った　03　変化なし

問 18 あなたは、今後仕事を続けたい（したい）と思いますか。

01　仕事を続けたい（したい）　⇒ **問 18ー①へ**
02　仕事を辞めたい（したくない）　⇒ **問 18ー②へ**

問 18ー① 仕事を続けたい（したい）理由をお答えください。（該当するもの全てに○）

01　家庭の生計を維持するため　02　働くことが生きがいであるため
03　がんの治療代を賄うため　04　職場から仕事を続けてほしいと言われているため
05　その他（　　）

問 18ー② 仕事を辞めたい（したくない）理由をお答えください。（該当するもの全てに○）

01　治療に専念したいため　02　仕事を引退する年齢であるため
03　職場でストレスを感じているため　04　体力的につらいため
05　家族が望んでいるため
06　その他（　　）

問 19 現在の日本の社会は、がんの治療や検査のために 2 週間に一度程度、病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。

01 そう思う → **問 21 へ**
02 どちらかといえばそう思う → **問 21 へ**
03 どちらかといえばそう思わない → **問 20 へ**
04 そう思わない → **問 20 へ**
05 わからない → **問 21 へ**

問 20 **問 19 で「03 または 04」を選んだ方にお聞きします。**働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか。（該当するもの全てに○）

01　代わりに仕事をする人がいない、または頼みにくいから
02　職場が仕事を休むことを許してくれるかどうかわからないから
03　休むと職場での評価が下がるから
04　休むと収入が減ってしまうから
05　がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから
06　がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから
07　その他（　　）

問 21 がんに罹患した場合の、仕事と治療の両立について、行政や職場、病院などに希望する施策・支援等あれば、ご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。　お忙しいところご協力いただき誠にありがとうございました。
回答後のアンケート用紙は、がん相談支援センターの回収箱に入れていただくか、センター相談員にお渡しくださるようお願いします。

がん患者等就労実態調査票

ご記入上の留意点
1. 回答のご記入は、貴社の人事・労務ご担当者様にお願いします。
2. 法人単位の調査ですので、支店や営業所等の全事業所を含めた法人全体についてご回答ください。
3. 特に指定がない限り、平成 27 年7月1日時点の状況についてご回答ください。
4. **平成27年8月28日（金）まで**に、ご回答の上、返送をお願いします。

問 1　貴法人の主たる事業の業種として該当するものを 1 つお選びください。

01 農業、林業　02 漁業　03 鉱業、砕石業、砂利採取業
04 建設業　05 製造業　06 電気・ガス・熱供給・水道業
07 情報通信業　08 運輸業、郵便業　09 卸売業、小売業
10 金融業、保険業　11 不動産業、物品賃貸業　12 学術研究、専門技術サービス業
13 宿泊業、飲食サービス業　14 生活関連サービス業、娯楽業　15 教育、学習支援業
16 医療、福祉　17 複合サービス事業　18 公務
19 その他（　　）

問 2　貴法人の従業員数について記入してください。

正規雇用従業員数＿＿＿＿＿人　**非正規雇用従業員数**＿＿＿＿＿人

問 3　貴法人の従業員に対してがん検診（胸部 X 線検査や便潜血検査なども含む）を実施していますか。

01 法人単独で実施 ↳ **問 3-①へ**　02 協会けんぽ、共済組合等と共同実施 ↳ **問 3-①へ**　03 実施していない ↳ **問 3-②へ**

問 3-①　**問 3 で「01・02」を選んだ場合、** がん検診によりがんと疑われた従業員はいましたか。

01 いた　02 いない　03 わからない

問 3-②　**問 3 で「03」を選んだ場合、** 従業員のがん検診のため、実施している取り組みはありますか。（複数回答）

01 検診費用の補助　02 自治体で実施しているがん検診の案内・周知
03 勤務時間内の受診の許可　04 がん検診の受診状況の確認
05 その他（　　）　06 特に何もしていない

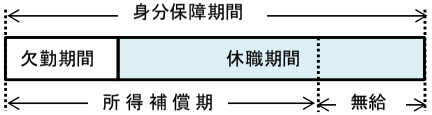
問 4　貴法人では、がんに罹患した従業員、または、がんに罹患した家族をもつ従業員の柔軟な働き方を支援するために導入している制度はありますか。（複数回答）

01 1 日の所定労働時間を短縮する制度　02 週又は月の所定労働時間を短縮する制度
03 半日単位の休暇制度　04 時間単位の休暇制度
05 フレックスタイム制度　06 治療目的の休暇・休業制度
07 在宅勤務制度　08 裁量労働制度
09 介護休暇制度　10 その他（　　）

問 5　貴法人における、がんなどによる長期休暇者の復職に関する方針についてお答えください。

01 試し（慣らし）出勤制度等で徐々に復帰させる　02 完全に治ってから復帰させる
03 個別対応としている　04 その他（　　）
05 特に方針はない

問 6　貴法人における身分保障期間・所得補償期間（取得可能な最長日数）について記入ください。
＊勤続年数によって異なる場合は、勤続年数が最も長い場合を記入ください。



①身分保障期間：　年　か月　日

②所得補償期間：　年　か月　日

＊所得補償期間：賃金や傷病手当、健康保険や共済会からの給付を含む

問 7　貴法人では、従業員ががんに罹患した時に、仕事と治療の両立について相談できるスタッフはいますか。（複数回答）

01 専属の産業医　02 嘱託の産業医　03 産業保健師　04 産業看護師
05 社会保険労務士　06 福利厚生部門　07 人事担当
08 その他（　　）　09 いない

問 7-①　**問7で「09 いない」を選んだ場合、**仕事と治療の両立について相談できる外部の産業保健スタッフと連携をしているかどうかについてお答えください。

01 地域産業保健センターと連携している　02 健康保険組合の産業保健スタッフと連携している
03 その他（　　）　04 連携していない

問 8　過去 3 年間を振り返って、がんに罹患した従業員はいましたか。

01 いた ↳ **問 8-①へ**　02 いない ↳ **問 9 へ**　03 わからない ↳ **問 9 へ**

問 8-①　過去 3 年間で、がんの治療や療養のために 1 か月以上連続して休職・休業した従業員はいましたか。いた場合、その復職状況についてお答えください。

01 いた　02 いなかった　03 わからない

【1 か月以上連続して休職・休業した従業員の復職状況】

01 復職する場合が多い　02 復職することなく退職する場合が多い
03 復職後、退職する場合が多い　04 その他（　　）

問 8-②　過去 3 年間で、従業員ががんの治療や検査のために 2 週間に一度程度病院に通う必要がある従業員はいましたか。いた場合、法人としてどのような対応をしていますか。

01 いた　02 いなかった　03 わからない

【2 週間に一度程度病院に通う必要がある従業員への法人としての対応（複数回答）】

01 柔軟な働き方を支援するために導入している制度（問 4 で回答した制度）の利用を促している
02 2 週間に一度休んでも重大な支障がない部署への配置換えを勧めている
03 産業保健スタッフや労務担当等に相談するよう促している
04 病状や今後の見通しを報告するよう促している
05 他の従業員に対して、業務分担や処遇等について、理解を促している
06 その他（　　）

問 8-③	従業員ががんになった際、当該従業員の適正配置や雇用管理等について、対応に苦慮したところはありましたか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）

01 病気や治療に関する見通しがわからない　02 復職可否の判断が難しい
03 就業制限の必要性や期間の判断が難しい　04 復職後の適正配置の判断が難しい
05 症状の悪化や再発予防の対策がわからない　06 代替要員の確保が難しい
07 症状や治療に配慮した部署移動や業務内容の調整が困難
08 症状や治療に配慮した業務分担や処遇等について、他の従業員の理解・協力を得ることが難しい
09 プライバシーの問題であるため、病気や治療の見通し等の情報を本人に聞きづらい
10 長期休業・休暇期間中の社会保険料の事業主負担分の支払いの負担が大きい
11 従業員の処遇や復職可否の判断・訂正配置等についての相談先がわからない
12 その他（　　）
13 特に問題なし

問 8-④	対応に苦慮したことについて、誰かに相談をしましたか。相談した場合、相談先を教えてください。

01 相談した　02 相談の必要性がなく、相談しなかった　03 相談先がわからず相談しなかった

【相談先（複数回答）】
01 専属の産業医　02 嘱託の産業医　03 産業保健師　04 産業看護師
05 社会保険労務士　06 福利厚生部門　07 人事担当　08 地域産業保健センター
09 健康保険組合の産業保健スタッフ　10 がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター
11 その他（　　）

問 9	貴法人では、今後、病気にあった後も安心して働き続けられるよう、仕事と治療の両立が実現できる職場づくりが必要になると思いますか。

01 必要性を強く感じている　02 どちらかというと必要性を感じている
03 あまり必要性は感じていない　04 必要性は全く感じていない

問 10	貴法人において、従業員の仕事と治療の両立が実現可能な職場づくりを進める上での課題は何ですか。

01 休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難　02 代替要員の確保が困難
03 管理職や従業員の理解が得られにくい　04 具体的な支援の方法がわからない
05 病気そのものや治療の内容、仕事への影響がわからない　06 柔軟な勤務制度の整備が困難
07 治療の見通しや就業制限に関する情報の入手が困難
08 長期間働けない従業員の社会保険料の事業主負担が大きい
09 産業保健スタッフの雇用にかかるコスト負担が大きい
10 その他（　　）
11 特になし

問 11	今後、より多くの法人において、がんに罹患した従業員の仕事と治療の両立が図られることを目的として行政（秋田県）が普及啓発事業を進める場合、法人として特に知りたい内容や、普及啓発・情報提供・相談支援の方法として希望するものに○をつけてください。

【 普及啓発・情報提供・相談支援の**内容** 】
01 がんそのものや治療方法等の基本的な情報　02 主に必要となる就業上の配慮
03 他社での取り組み事例　04 産業医等との産業保健スタッフとの連携方法
05 従業員の受診医療機関との連携方法　06 法人が相談できる相談窓口
07 労働者が相談できる相談窓口　08 国や秋田県における施策動向
09 社内での普及啓発資材
10 その他（　　）

【 普及啓発・情報提供の**形態** 】
01 セミナー・講演会　02 リーフレット　03 ホームページでの情報提供
04 メールマガジン　05 その他（　　）

問 12	その他、がんに罹患した従業員の仕事と治療の両立について、ご意見や普段お考えのこと、法人内での問題意識、行政に希望する施策・支援等あればご自由にご記入ください。

秋田県内のがん対策の普及状況を把握するために伺います。

問 13	あなた（記入者様）が、がん相談支援センターについて知っていたものに○をつけてください。

01 がん診療連携拠点病院等に設置されている　02 がん相談支援センターは秋田県では 11 か所ある
03 がんの治療や医療費等について相談できる　04 治療と仕事の両立について相談できる
05 その病院にかかっていなくても相談できる　06 誰でも無料で相談できる

法人名 ：　　担当者:
住 所 ：　　電話番号:

アンケートは以上です。 お忙しいところご協力いただき誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒にて、 **8月28日（金）**までにポストに投函をお願い致します。

【お問い合わせ先】
〒010－8570 秋田市山王四丁目1番1号
秋田県健康福祉部健康推進課がん対策室 TEL018-860-1428 FAX018-860-3821

がん患者の就労支援に関するアンケートご協力のお願い

県では、このたび、「秋田県がん診療連携協議会がん患者相談部会」にご協力をいただき、県内のがん患者さんの診療に携わる医師がどのような取り組みをされているか把握するためのアンケート調査を実施することとしました。皆様には、アンケートに是非ご協力くださるようお願いします。

本アンケートの結果は、がん患者さんの就労支援に役立たせるため、回答者が特定されない形で公表させていただく予定であることをご了承ください。この目的以外や、回答者が特定されるような形での公表はいたしません。

回答は、平成 27 年８月１７日（月）までに、がん相談支援センター相談員に提出くださるようお願い申し上げます。

お問い合わせ：秋田県健康福祉部健康推進課がん対策室

TEL 018-860-1428　FAX 018-860-3821　MAIL gantaisaku@oref.akita.lg.jp

所属診療科	科
性別	01 男性　02 女性
医師経験年数	年　か月
月間診療がん患者数	およそ　人/月

がん患者の治療と就労（経済的な事）に関して、あなたのお考えや取り組みについて伺います。

問 1. あなたは、病院内でがん患者の経済的な事についての相談や支援を行う場合、どの部門・スタッフに紹介・連携するのが適切だと考えますか。一つ選んでください。

01 同じ診療科の医師　02 同じ診療科の外来看護師　03 同じ診療科の病棟看護師
04 がん看護専門看護師　05 がん看護に関連する認定看護師　06 薬剤師
07 社会福祉士（MSW）　08 緩和ケアチーム　09 がん相談支援センター
10 地域連携室　11 その他（　　）

問 2. あなたは、がん患者から治療と就労の両立に関して相談を受けたことがありますか。ある場合、具体的な相談内容を教えてください。

01 ある　02 ない　→問 6 へ

≪具体的な相談内容≫

問 3. **問 2 で相談を受けたことがある場合、**他の病院スタッフに紹介・連携しましたか。

01 した　→問 4－①へ　02 しなかった　→問 4－②へ

問 4－①. **問 3 で他の病院スタッフに紹介・連携した方への質問です。**その紹介・連携先を教えてください。

01 同じ診療科の医師　02 同じ診療科の外来看護師　03 同じ診療科の病棟看護師
04 がん看護専門看護師　05 がん看護に関連する認定看護師　06 薬剤師
07 社会福祉士（MSW）　08 緩和ケアチーム　09 がん相談支援センター
10 地域連携室　11 その他（　　）

問 4－②. **問 6 で他の病院スタッフに紹介・連携しなかった方への質問です。**
紹介・連携しなかった理由を教えてください。（複数回答）

01 その場であなた自身が解決できたため　02 患者自身で解決できると判断したため
03 紹介先がわからなかったため　04 患者に他部門への紹介を提案したが、希望がなかったため
05 時間が経てば解決すると考えたため　06 患者が他部門に紹介するほど困っていないと判断したため
07 その他（　　）

問 5. あなたは、がん患者の治療と就労の両立について、患者の勤務先の人と面談したことはありますか。

01 ある　02 ない

問 6. がん患者の治療と就労の両立について、あなたの方針で当てはまるものに○をつけてください

		いつも している	しばしば している	ときどき している	どちらとも いえない	あまり しない	ほとんど しない	全く しない
1	がん診断～治療開始前に、患者の就労について把握するようにしている	1	2	3	4	5	6	7
2	がん診断～治療開始前に、就労に関する相談窓口の情報を提供するようにしている	1	2	3	4	5	6	7
3	がん診断～治療開始前に、「職場を退職しないこと」を勧めている	1	2	3	4	5	6	7
4	治療を受けながらでも就労が可能であれば、出来る範囲で就労するよう勧めている	1	2	3	4	5	6	7
5	治療方法を選択する際に、就労継続あるいは復職を念頭に入れて説明するようにしている	1	2	3	4	5	6	7
6	治療が完全に終わるまでは、就労が可能であっても、就労を控えるよう勧めている。	1	2	3	4	5	6	7

問 7. がん患者の治療と就労の両立について、あなたのお考えで当てはまるものに○をつけてください

		非常に ある	まあまあ ある	少し ある	どちらとも いえない	あまり ない	ほとんど ない	全く ない
1	あなたは、がん患者の治療と就労の両立についてどれくらい関心がありますか	1	2	3	4	5	6	7
2	がん治療と就労の両立は、治療成績をよくすると思いますか	1	2	3	4	5	6	7
3	がん治療と就労の両立は、患者やその家族のQOLを向上させると思いますか	1	2	3	4	5	6	7

以上でアンケートは終了です。お忙しいところご協力いただきありがとうございました。